

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第24輯

主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う

山ノ内遺跡B地区・山直北遺跡

—— 発掘調査報告書 ——

1988

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第24輯

主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う

山ノ内遺跡B地区・山直北遺跡

—— 発掘調査報告書 ——



1988

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会



調査地遠景



摩湯山古墳



序 文

本協会が関西国際空港建設に伴う各種公共事業に先立つ埋蔵文化財の調査を実施する機関として設立されてから3年目を過ぎ、調査事業を行う必要な体制を充実することが出来たのは、大阪府教育委員会をはじめ近畿の各府県市町教育委員会のご指導並びにご支援の賜であります。

今回、報告致します山直北遺跡他一遺跡は、岸和田市田治米町に所在しており、主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に先立つ発掘調査であり、大阪府土木部岸和田土木事務所から委託を受けて実施した調査事業であります。

発掘調査は、昭和61年度に行い、引き続き昭和62年度に遺物整理を行いその成果を本報告書にまとめたものであります。

今回の調査結果、縄文時代から鎌倉・室町時代にいたるまでの各時代の土壌、溝、井戸、建物跡などの他、水田跡などを検出しています。なかでも柱の掘り方が一辺1メートルもある掘建柱建物は、泉州地域ではかなり大型の建物で周辺から出土した緑軸陶器の香炉とともに、この遺跡の農村地帯における特異な性格を示すもので、今後この地域の失われた歴史を解明するための極めて重要な資料であります。また、山ノ内遺跡は西日本では類例の少ない縄文時代後期の遺跡であり、土器、石器類など貴重な資料が多数得られ学術的な価値の極めて高い遺跡として注目されています。特に石器類は遠く九州、山陰地方から泉州にもたらされたものであり、縄文時代人の広範囲な活動ぶりを示す資料であります。

本調査を実施するにあたり、大阪府土木部・岸和田土木事務所・大阪府教育委員会・岸和田市教育委員会、その他地元関係者に多大のご協力、ご支援をいただいたことに深く謝意を表します。今後とも本協会の調査事業にご支援、ご指導をお願い申し上げます。

昭和63年3月

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

理事長 浅野素雄

例 言

- 1 本書は大阪府岸和田市田治米町の主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設予定地内に所在する昭和61年度、62年度調査の山直北遺跡^{やまのいきた}他一遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 大阪府教育委員会の指導のもと財団法人大阪府埋蔵文化財協会が大阪府岸和田土木事務所^{土木事務所}の委託を受け、調査を実施した。なお、本書の一部の成果は昭和62年度の道路本体工事に際して、遺構面保存のための立会調査にも依拠している。
- 3 今回の調査対象となった区域には調査予算の関係上一件の調査として扱われているが大阪府文化財分布図によれば山直北遺跡と山ノ内遺跡B地区が含まれる。本文中では山ノ内遺跡B地区を山ノ内遺跡Bとして報告する。
- 4 調査は財団法人大阪府埋蔵文化財協会調査課第4班が実施した。

昭和61年度調査

調査課長 井藤 徹（大阪府教育委員会から出向）

調査課 第4班 班長 吉川 義彦

技師 西藤 清秀（奈良県から出向） 技師 宮原 晋一（奈良県から出向）

技師 豊岡 卓之（奈良県から出向） 技師 白井 宏子



技師 有井 広幸（京都府から出向）

昭和62年度立会調査

技師 佐々木 好直（奈良県から出向）

- 5 この報告書を作成するための整理作業は豊岡が主に担当した。最終的な編集に関しては、各担当者から提出された原稿、挿図、写真図版を基に資料係で調整作成した。
- 6 執筆分担は各文章の末尾に明記した。
- 7 山ノ内遺跡出土石器の石材については、奥田 尚氏（権原考古学研究所研究員）の御好意によって鑑定結果についての玉稿をいただいた。

凡 例

- 1 この報告書に使用した遺跡全体図は航空測量図を基にした。
- 2 調査中及び本書で使用した地区割方法は当協会が国土座標法に基づき独自に設定したものである。
- 3 図中の方位は国土座標法による第Ⅶ座標系の北を示している。座標の単位はすべてkmで表示している。
- 4 標高は全てT.P.で表示している。
- 5 調査区が南北に長いので遺跡全体図を分割した。遺跡全体図の分割状況は図版の最初にスクリーン・トーンと数字で図版の描画範囲と番号を示した。
- 6 調査中及び本書で使用した遺構名の表記は協会の設定した独自の規程による。
本書に関係するものは、OB=掘立柱建物、OD=竪穴住居址、OF=溝、OG=古墳、OH=竈、OO=土壇(坑)、OP=柱穴、OS=溝、OR=河川、OU=土壇墓、OW=井戸、OZ=水田、OX=その他である。
- 7 本書中の遺構番号は山ノ内遺跡Bと山直北遺跡で別個につけているが、同一遺跡ではかりに遺構名の呼び方に異なることがあっても(OPとOBの呼び替えなど)、遺構番号で個別の遺構を区別している。なお、遺構図版において、断面の表現の違いは次のことを表わす。
 4級杭及びそれ以下の精度の杭を基準とした作図
 航空測量図(1/20)に主に依拠した図
- 8 本書中の土色の区分は「新版標準土色帖」5版 1976年(日本色研事業株式会社)の色片との比較で記載している。
- 9 本書中の遺物番号は本文及び挿図、挿入図版、写真図版、各種観察表のすべてに統一している。

目 次

序文

巻頭図版

第一章 遺跡の環境	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第3節 調査の方法	2
第4節 歴史的地理的環境	5
第二章 山ノ内遺跡B	6
第1節 遺跡の検討	6
A 層序	6
B 遺構	9
縄文時代の遺構	9
弥生時代の遺構	14
中・近世水田跡	17
第2節 遺物の検討	18
a 旧石器時代	18
b 縄文時代	18
c 弥生時代	29
d 古墳時代	30
第三章 山直北遺跡	32
第1節 調査経過	32
第2節 層序	32
第3節 遺構の検討	36
A 弥生時代の遺構	36
B 古墳時代の遺構	37
C 奈良・平安時代の遺構	46

D 中世の遺構	52
第4節 遺物の検討	53
第四章 総括	55
遺跡	55
遺物	57
付 章 石材について(奥田 尚)	58
挿 図 目 次	

山ノ内遺跡B

第1図 調査地位置図	1	第13図 228-OO平・断面図	15
第2図 周辺遺跡分布図	3	第14図 959-OO平・断面図	16
第3図 包含層出土硯	6	第15図 中・近世水田跡平面図	17
第4図 包含層出土鉄器	6	第16図 包含層出土旧石器	18
第5図 土層断面柱状図	7	第17図 包含層出土土偶	18
第6図 695-OO平・断面図	9	第18図 包含層出土土錘	19
第7図 689-OO平・断面図	9	第19図 包含層出土縄文時代石製品	29
第8図 693-OO平・断面図	10	第20図 包含層出土弥生時代石器	29
第9図 2012-OU平・断面図	10	第21図 包含層出土銅鏝・ガラス玉	30
第10図 2012-OU出土土器	11	第22図 包含層出土埴輪	30
第11図 160-OP平・断面図	12	第23図 古墳時代管玉	31
第12図 471-OX平・断面図	13		

山直北遺跡

第24図 土層断面柱状図	33	第37図 1610-OS出土紡錘車	43
第25図 包含層出土土馬	35	第38図 765-OU平・断面図	43
第26図 包含層出土硯	35	第39図 464-OO平・断面図	44
第27図 326-OU平・断面図	36	第40図 600-OO平・断面図	44
第28図 817-OP平・断面図	36	第41図 611-OX平・断面図	45
第29図 775-OX平・断面図	37	第42図 236-OX出土石斧	45
第30図 793-OD平・断面図	38	第43図 1377-OB平・断面図	48
第31図 807-OO平・断面図	39	第44図 251-OW平・断面図、	
第32図 808-OD平・断面図	40	同 出土畜串	50
第33図 808-OD内カマド平・断面図	40	第45図 1747-OX平・断面図	51
第34図 131-OS平・断面図	41	第46図 1395-OX平・断面図	51
第35図 317B-OS平・断面図	42	第47図 1401-OX平・断面図	52
第36図 778-OS断面図	42	第48図 1529-OW平・断面図	53

表 目 次

第1表	石鏃形態分類表	21
第2表	山ノ内遺跡B出土縄文土器データ表	62
第3表	山ノ内遺跡B出土石鏃観察表	66
第4表	山ノ内遺跡B出土各種石器観察表	69
第5表	山ノ内遺跡B出土石刻観察表	69
第6表	山ノ内遺跡B出土礫石器観察表	70
第7表	山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表	71
第8表	山ノ内遺跡B出土楔形石器地区別一覧表	79
第9表	山ノ内遺跡B出土フレイク地区別一覧表	85
第10表	山直北遺跡出土土器観察表	92

挿入図版 目 次

山ノ内遺跡B 遺構・遺物図版

図版1	主要遺構配置模式図	104	図版19	山ノ内B出土石器6	123
図版2	山ノ内遺跡B遺構全体図	105	図版20	山ノ内B出土石器7	124
図版3	958-OD平・断面図	107	図版21	山ノ内B出土石器8	125
図版4	山ノ内B出土石器1	108	図版22	山ノ内B出土石器9	126
図版5	山ノ内B出土石器2	109	図版23	山ノ内B出土石器10	127
図版6	山ノ内B出土石器3	110	図版24	山ノ内B出土石器11	128
図版7	山ノ内B出土石器4	111	図版25	山ノ内B出土石器12	129
図版8	山ノ内B出土石器5	112	図版26	山ノ内B出土石器13	130
図版9	山ノ内B出土石器6	113	図版27	山ノ内B出土石器14	131
図版10	山ノ内B出土石器7	114	図版28	山ノ内B出土石器15	132
図版11	山ノ内B出土石器8	115	図版29	山ノ内B出土石器16	133
図版12	山ノ内B出土石器9	116	図版30	山ノ内B出土石器17	134
図版13	山ノ内B出土石器10	117	図版31	山ノ内B出土石器18	135
図版14	山ノ内B出土石器1	118	図版32	山ノ内B出土石器19	136
図版15	山ノ内B出土石器2	119	図版33	山ノ内B出土石器20	137
図版16	山ノ内B出土石器3	120	図版34	山ノ内B出土石器21	138
図版17	山ノ内B出土石器4	121	図版35	山ノ内B出土石器22	139
図版18	山ノ内B出土石器5	122	図版36	山ノ内B出土石器23	140

山直北遺跡 遺構・遺物図版

図版37	主要遺構配置模式図……………	142	図版53	2060-O B平・断面図……………	159
図版38	山直北遺跡遺構全体図……………	143	図版54	山直北出土土器1……………	160
図版39	608-O B平・断面図……………	145	図版55	山直北出土土器2……………	161
図版40	682-O B平・断面図……………	146	図版56	山直北出土土器3……………	162
図版41	805-O D平・断面図……………	147	図版57	山直北出土土器4……………	163
図版42	325-O G平・断面図……………	148	図版58	山直北出土土器5……………	164
図版43	790 B-O X平・断面図……………	149	図版59	山直北出土土器6……………	165
図版44	400-O B平・断面図……………	150	図版60	山直北出土土器7……………	166
図版45	734-O B平・断面図……………	151	図版61	山直北出土土器8……………	167
図版46	916-O B平・断面図……………	152	図版62	山直北出土土器9……………	168
図版47	958-O B平・断面図……………	153	図版63	山直北出土土器10……………	169
図版48	1052-O B平・断面図……………	154	図版64	山直北出土土器11……………	170
図版49	1220-O B平・断面図……………	155	図版65	山直北出土土器12……………	171
図版50	1240-O B平・断面図……………	156	図版66	山直北出土土器13……………	172
図版51	1246-O B平・断面図……………	157	図版67	山直北出土土器14……………	173
図版52	1248-O B平・断面図……………	158			

写真図版

図版1	山ノ内遺跡B調査前全景 中世水田址	図版10	山ノ内遺跡B2012-O U出土縄文土器
図版2	山ノ内遺跡B調査区全景	図版11	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版3	山ノ内遺跡B957-O X 959-O O	図版12	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版4	山ノ内遺跡B958-O D付近検出状況 同上 完掘状況	図版13	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版5	山ノ内遺跡B958-O D 955-O P	図版14	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版6	山ノ内遺跡B2012-O U 228-O O	図版15	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版7	山ノ内遺跡B693-O O 160-O P石刻検出状況	図版16	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版8	山ノ内遺跡B689-O O 同上 遺物出土状況	図版17	山ノ内遺跡B出土縄文土器
図版9	山ノ内遺跡B471-O X	図版18	山ノ内遺跡B出土縄文土器
		図版19	山ノ内遺跡B出土縄文時代土偶・土鍾 古墳時代埴輪
		図版20	山ノ内遺跡B出土弥生土器
		図版21	山ノ内遺跡B出土弥生土器
		図版22	山ノ内遺跡B出土黒耀石製石器他 石製装飾品
		図版23	山ノ内遺跡B出土ササカイト製石鏃

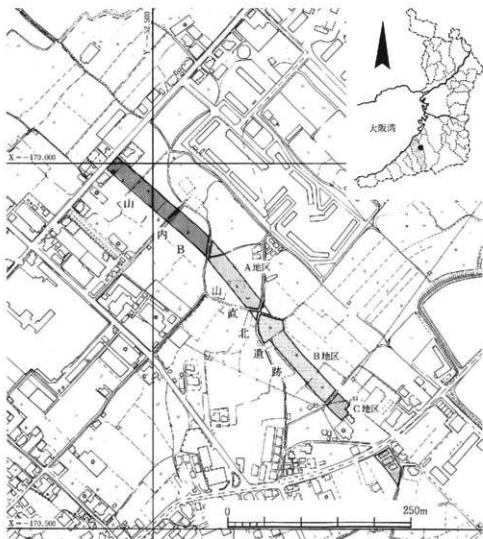
- 図版24 山ノ内遺跡B出土ササカイト製石鎌
- 図版25 山ノ内遺跡B出土ササカイト製石鎌
- 図版26 山ノ内遺跡B出土ササカイト製石鎌
- 図版27 山ノ内遺跡B出土石槍・ドリル
楔形石器
- 図版28 山ノ内遺跡B出土スクレイパー
- 図版29 山ノ内遺跡B出土石核
- 図版30 山ノ内遺跡B出土石核
- 図版31 山ノ内遺跡B同上裏面
- 図版32 山ノ内遺跡B160-O P出土石核
- 図版33 山ノ内遺跡B160-O P出土石片
- 図版34 山ノ内遺跡B出土剝片
- 図版35 山ノ内遺跡B出土剝片
- 図版36 山ノ内遺跡B出土石斧・石包丁
石錘・ハンマー
- 図版37 山ノ内遺跡B出土砥石
叩き石
- 図版38 山ノ内遺跡B出土叩き石
台石
- 図版39 山直北遺跡調査前全景
B2地区空中写真
- 図版40 山直北遺跡B2地区全景
176-O X
- 図版41 山直北遺跡A1地区全景
- 図版42 山直北遺跡793-O D
同上 カマド
- 図版43 山直北遺跡803-O D
同上 カマド
- 図版44 山直北遺跡805-O D
- 図版45 山直北遺跡317B-O S・236-O X
317B-O S遺物出土状況
- 図版46 山直北遺跡325-O G
765-O U
- 図版47 山直北遺跡600-O O
1395-O X
- 図版48 山直北遺跡790A-O X
790B-O X
- 図版49 山直北遺跡1240-O B他建物群
1610-O S・ピット群
- 図版50 山直北遺跡B2地区建物群
B2地区ピット群
- 図版51 山直北遺跡A1地区溝
921-O S
- 図版52 山直北遺跡251-O W
1529-O W
- 図版53 山直北遺跡1747-O X
1749-O X
- 図版54 山直北遺跡775-O X出土遺物
- 図版55 山直北遺跡790B-O X・317B-O S
他出土遺物
- 図版56 山直北遺跡778B-O S・790B-O X
他出土遺物
- 図版57 山直北遺跡805-O D・317B-O S他
出土遺物
- 図版58 山直北遺跡778B-O S他出土遺物
- 図版59 山直北遺跡793-O D他出土遺物
368-O P他出土遺物
- 図版60 山直北遺跡778B-O S出土遺物
- 図版61 山直北遺跡790B-O X出土遺物
- 図版62 山直北遺跡790B-O X出土遺物
- 図版63 山直北遺跡790B-O X出土遺物
- 図版64 山直北遺跡749-O X・800-O X他
出土遺物
- 図版65 山直北遺跡769-O X・795-O X他
出土遺物
- 図版66 山直北遺跡317B-O S・790-O X他
出土遺物
- 図版67 山直北遺跡1401-O X他出土遺物
- 図版68 山直北遺跡251-O W・1579(3020)-
O S他出土遺物

- | | | | |
|------|---|------|--|
| 図版69 | 山直北遺跡奈良～平安時代建物群他
出土遺物 | 図版74 | 山直北遺跡921-O S 出土遺物 |
| 図版70 | 山直北遺跡1401-O X・1395-O O 他
出土遺物 | 図版75 | 山直北遺跡921-O S 出土遺物
1747-O X 他出土遺物 |
| 図版71 | 山直北遺跡1579(3020)-O S 他
出土遺物
946-O S・1579-O S
出土遺物 | 図版76 | 山直北遺跡969-O S・1051-O S
出土遺物
1610-O S 出土遺物 |
| 図版72 | 山直北遺跡1050-O P 出土遺物
各ピット出土遺物 | 図版77 | 山直北遺跡769-O X 他出土遺物
1401-O X 出土遺物 |
| 図版73 | 山直北遺跡1395-O O 出土遺物
各ピット・土壇出土遺物 | 図版78 | 山直北遺跡1469-O R 他出土遺物
包含層出土遺物 |

第一章 遺跡の環境

第1節 調査に至る経緯

関西国際空港建設計画の具体化にともない主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線都市計画道路磯之上山直線の完成も具体的な日程にのることとなった。大阪府教育委員会では1983年にこの路線内の遺跡の有無に関する分布調査を実施した。また、山直北遺跡は1982年に



第1図 調査位置図

大阪府教育委員会が今回の調査対象地の東側に隣接する地点を発掘調査し、掘立柱の建物跡を検出している。

大阪府教育委員会の指導により、発掘調査は（財）大阪府埋蔵文化財協会に委託されることになり、大阪府土木部岸和田土木事務所と（財）大阪府埋蔵文化財協会の間で委託契約を締結した。発掘調査は昭和61年5月27日から昭和62年3月26日まで実施した。

第2節 調査経過

契約の関係から、山直北遺跡ほか一遺跡という名称で山直北遺跡と山ノ内遺跡Bの二遺跡を同時に調査することになった。遺跡の区分は大阪府文化財分布図によって示された区分にしたがったもので、学術的な意味合いは全くない。

調査は掘り上げた土砂を路線内に仮置きしなければならぬため山直北遺跡のL18地区から調査を開始した。山直北遺跡のL18、L13、L12地区の調査を終了後、土砂を移動し、山直北遺跡のL06、L07地区、山ノ内遺跡BのK05、L01、L06地区の調査を開始した。L18地区の調査終了後L24地区の調査と山ノ内遺跡B L01地区の調査を開始した。L24地区は土置き場の関係で2回に分けて調査した。

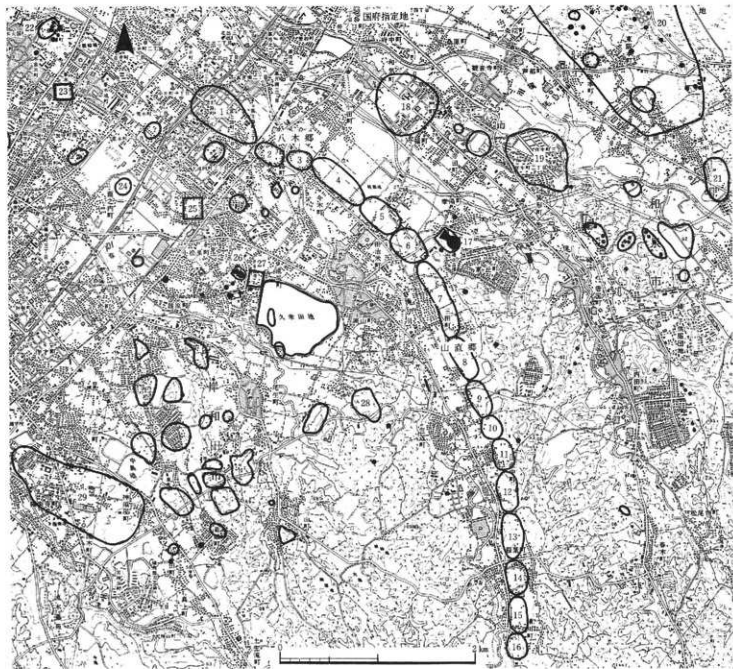
L07地区では建物群が検出されている。L01地区では包含層の中に摩滅した少量の土器片と大量のササカイト片、石籬を検出したため、この包含層を3回に分けて掘り下げ、各グリッド毎に5mmメッシュの篩をかけることにした。また、石器を作成する際に生じたチップの類も多いことが判明したので、石器類の密集している地域の土砂を5mmメッシュの篩をかけて現場で粗く遺物を採集した後、土を持ち帰り1mmメッシュの篩でチップの採集を行なうことにした。

山直北遺跡に属するL06、L07地区の終了後、ここを埋め戻した後土置き場として山ノ内遺跡Bに所属するL01の南側、L06の北側地区の調査を開始した。G25地区の掘削は写真撮影用の足場を設置していたため、一番最後に調査した。

第3節 調査の方法

調査の方法については通常と変わる所はないが、地区割、遺構の命名法などこの協会が独自に定めた方法については、協会の調査規程にしたがっている。

地区割の方法は2500分の1地図を基調に500m、100m、4mの区画に英数字5文字で記号を付している。各区画の四隅は地図を基本にした第Ⅵ座標系の値を有しているため、数



遺跡名

磯之上山前河内道

1. 箕土路遺跡
2. 西人路遺跡
3. 今木遺跡
4. 軽部池西遺跡
5. 山ノ内遺跡
6. 山鹿北遺跡
7. 三田遺跡
8. 上ワジ遺跡
9. 二色池北遺跡
10. 水込遺跡
11. 黒石遺跡
12. 山武中遺跡
13. 芝ノ畑外遺跡
14. 土舟ノ木遺跡
15. 中之社遺跡
16. 宮ノ後遺跡

17. 摩南山古墳
18. 柳気遺跡
19. 観音寺山遺跡
20. 信玄千塚古墳群
21. 池田寺遺跡
22. 春本八幡山遺跡
23. 春本院寺
24. 栗ノ池遺跡
25. 小松屋院寺
26. 貝吹山古墳
27. 久米田寺
28. どぞく遺跡
29. 畑町遺跡

第2図 周辺遺跡分布図

字による区画の位置表示も可能である。

山直北、山ノ内遺跡の2遺跡に調査対象地はまたがっているため、地区の表示は混乱を避けるために100m単位の地区割を採用している。これによると山ノ内遺跡はK05、G25、L01、L05、L06地区が所属し、山直北遺跡はL06南端の一部とL07、L12、L13、L18、L23、L24などの地区が所属している。こうした調査区のあり方は、同時に磯之上山直線は山直郷を南北に横切るように走り、この路線内を順次発掘調査したので山直郷に南北の調査トレンチを設定したのとおなじ結果になっている。

遺物の取り上げは、包含層の年代の新田を問わず全て4m区画を採用した。また、遺構の位置表示にもこの区画を採用している。

第4節 歴史的地理的環境

遺跡の背景にある歴史的、地理的環境については、報告書一冊ごとに記述するのが本来であるがこの調査も一連の磯之上山直線関係の調査の一部であり、遺跡の両側にある山之内遺跡Aおよび三田遺跡、山直中遺跡の報告書に詳述されているのでここでは簡単に記述する。

遺跡は大阪府南部の岸和田市にあり、1/2500都市計画図では大D4-10に、1/25000の地図では「岸和田市東部」に、1/50000の地図では「岸和田」に記載されている。

遺跡は南北に延びる和泉山地北側の丘陵の裾部に位置し、北へ流れる牛滝川によって形成された、小さい谷の入り口にある。

遺跡の周辺には和泉地域で最大の前期古墳である摩湯山古墳があり、和泉地域の有力豪族の居住地と推定される場所の一角に今回の調査地がある。

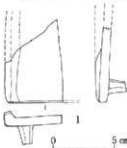
山直（現在は「やまだい」と発音する）の名称は「日本霊異記」、「和名抄」、「新撰姓氏録」、「続日本後記」などに認められ、山直という氏族の本貫地であったことが知られている。中世の山直郷の記録は「久米田寺文書」に多く収められ、中世の山直郷の中心地は現在の包近（かねちか）であることが良く知られている。（古川）

第二章 山ノ内遺跡B

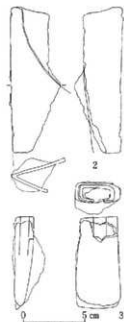
第1節 遺跡の検討

A 層序

北西から南東に延びる道路予定地内に長さ約180m、幅約20mの調査区を設定した。調査区は、南東から北西に延びる小丘陵の南西斜面にあたる。調査区内では地形に沿うように東から西への土壌の移動が見受けられ、基本的な土壌の堆積は掲載した6箇所の土層によると4層に分けることができる。



第3図 包含層出土硯

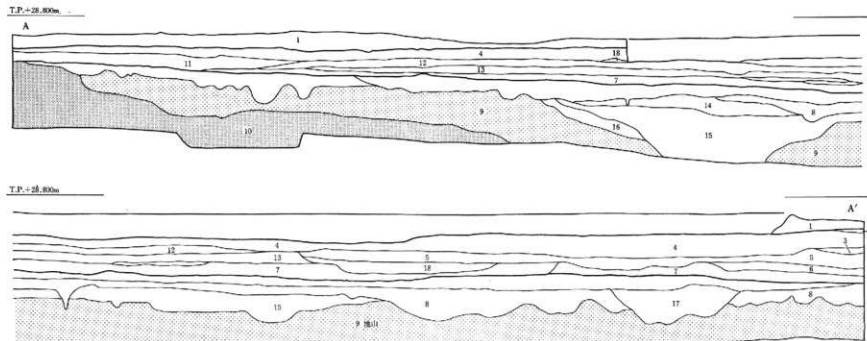


第4図 包含層
出土鉄器

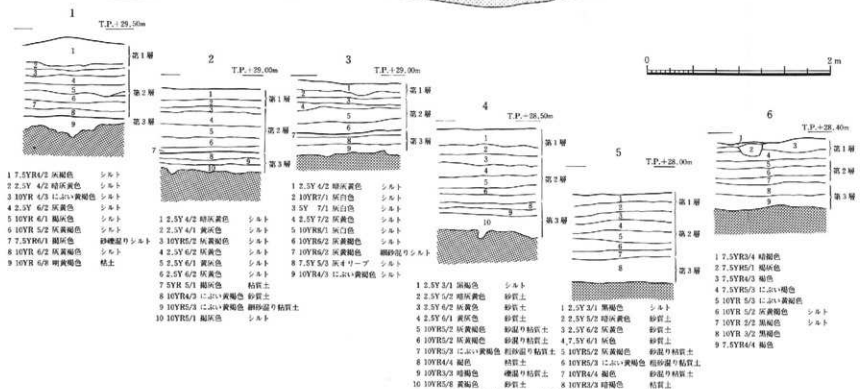
第1層は、現在の耕土、床土である。第2層は、灰黄色をしたシルト層で細分すれば3～6層に分けることができる。中・近世の堆積であり、この層には水田、掘立柱建物が営まれていた。これらの遺構を反映する遺物はないが、堆積土中から緑釉陶器、硯、鉄斧（第4図）などが出土している。第3層は、褐色の粘質土で調査区中央の北東方向から扇状に広がり、調査区中央から南西部が最も厚く堆積し、北西、南東方向に向かうにしたがって薄くなっている。この層は、土壌の色調では明確には分層することはできなかった。しかし、この土壌は、北西方向の丘陵頂部から流出して来た堆積層であり、一時期に形成されたものではなく、少なくとも遺物の出土状況から3回の異なった時期の土砂流出を考慮することができる。それは、調査区北西部の、石器を中心とした弥生時代の遺物を多く含む時期、中央部の縄文土器、いちじるしい量の石器、サヌカイト片、玉類、黒曜石片等の縄文時代の遺物が大量に包含する時期、さらに調査区南東部の弥生時代の石器、銅鏃、古墳時代の玉類を含む時期である。

検出した遺構は、北西部で硯を多量に含む弥生時代の土壌、時代の不明なサヌカイト塊の存在した土壌状の遺構、中央部では縄文時代の土壌を検出した。加えて調査区全域で木の根が形作った土壌を検出した。その土壌には第3層の多量に縄文土器の細片を含む褐色粘質土が存在した。

(西藤)



- 1 2.5Y 3/1 黒褐色土
- 2 2.5Y 5/2 暗赤褐色砂質土
(10YR6/6)緑色の石灰込み多し
- 3 2.5Y 6/2 灰黄色砂質土、小礫、黄褐色の腐文面じり
- 4 2.5Y 6/2 灰黄色砂質土、小礫混じり
- 5 10YR5/2 灰黄色砂質土、砂混じり粘質土
- 6 10YR5/3 に近い黄褐色 粘質混じり粘質土
- 7 10YR4/4 褐色粘質土、砂较多く含む
- 8 10YR3/3 暗赤粘質土、微砂礫の含有多し
腐文文面
- 9 10YR5/8 黄褐色粘質土、8層の砂み込み多し
腐文文面
- 10 10YR5/6 黄褐色
- 11 10YR4/6 粘砂土
- 12 11.2 Y 5/6 暗赤の10YR4/2 粘砂土
- 13 10YR5/1 粘土、鉄分沈着
- 14 10YR3/2 粘砂土
- 15 10YR4/6 粘砂土
- 16 10YR4/4 粘砂土
- 17 10YR4/4 粘砂土
- 18 10YR6/1 粘砂土



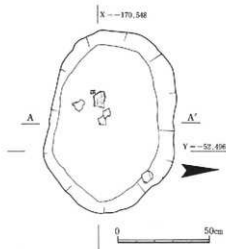
第5図 土層断面柱状図

B 遺構

縄文時代の遺構

695-00 (第6図)

L01LAに位置し東西に長軸を向ける楕円形をした土壌である。長径0.99m、短径0.72m、深さ0.35mである。土壌内の土壌は単純で、暗褐色砂質土である。墳底から少し浮いた位置に僅かな縄文土器を含んでいた。この土器は、後期の元住吉山Ⅱ式の鉢(49・56)である。(宮原)



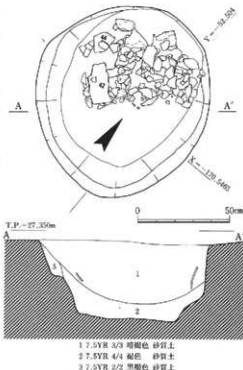
689-00 (第7図・写真図版8)

K05LXに位置する。南北に長軸を向ける楕円形の土壌である。長径2.01m、短径0.98m、深さ0.42mを測る。土壌内には大きく2層の土壌堆積がある。上層は、砂を多く含んだ暗褐色砂質土、下層は炭化物を含む褐色砂質土である。

土壌内には多量の縄文土器片、石器が存在し、特に土壌北半部に集中していた。土器は、ほとんどが埋土の上層に含まれており、晩期の遊覧Ⅰ式の深鉢、浅鉢(65~70)などが見られる。石器には、サヌカイトの石核(469)が存在する。(宮原)



第6図 695-00平・断面図

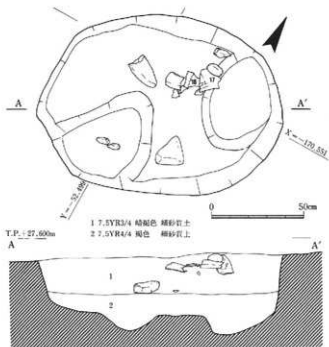


第7図 689-00平・断面図

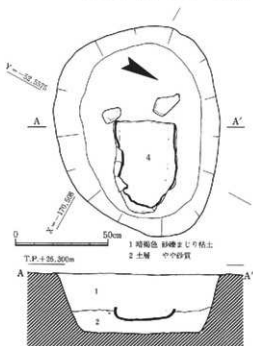
693-00 (第8図・写真図版7)

L01MAで検出した楕円形の土壌で、北東方向に長軸を向ける。長径1.34m、短径0.98m、深さ0.45mである。土壌内の堆積は2層からなり、上層は暗褐色砂質土、下層は褐色砂質土である。

遺物は上層にのみ僅かな縄文土器と石器



第8図 693-00平・断面図



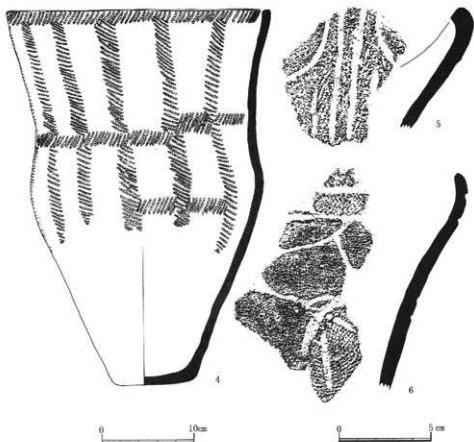
第9図 2012-OU平・断面図

が見られ、晩期の遊賀里 I～IIの深鉢、浅鉢（71～88）、サヌカイトの石核の残核などが存在する。（宮原）

2012-OU（第9・10図、写真図版6・10）

K05B K地区検出の土器棺墓である。長軸径1.14m、短軸径0.9m、深さ0.32mの楕円形の土壇に、深鉢を横たえていた。口縁部には口をふさぐほどの大きさではないが、板石が置かれ、また上を向いていた体部には土器の傷みはげしいため疑問が残る、打ち欠かれたと思われる部位がある。

遺構から出土した土器には、土器棺に用いられていた深鉢（4）と別に、深鉢の口縁部が2個体ある。土器棺に用いられていた深鉢は体部中央が張り、緩く外湾しながら口縁にいたる。口縁は平縁で、単純な棒状の断面を呈する。体部外面には装袋だすき様に縄文が施されている。また二点の破片のうち、（5）は中津式に比定される特有の波状口縁のものである。（6）も波状口縁を呈し、外面は黒色に研磨されている。これらのことからみて、出土した土器は縄文時代後期中津式併行期に比定される中でも、古い様相を持ったものと考えられる。（佐々木・豊岡）

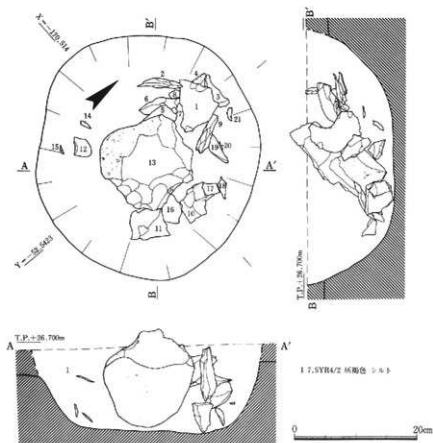


第10図 2012-OU出土土器

160-O P (第11図・図版28・29-492、写真図版7・29・30)

K05DO地区で検出した。長径約0.4m、短径約0.35mを測る、ほぼ円形状の土壇である。中央にサヌカイトの母岩と、それに接合する割片13点、接合しない割片5点が出土した。母岩、割片とも土壇の底から遊離しており、B-B'の見通し断面図に見るように北西方向から滑り込んだかのように斜めに底へ向かう出土状況であった。

この出土状況に対して次の2通りの解釈が可能である。まず1つは、母岩や割片は土または有機物を介在していたために底から遊離していたのであって、あくまでサヌカイトを貯蔵した施設としてこの土壇を評価する考え方である。もう1つは、この土壇を人為的なものとせず、有機物でできた袋にはいった一括のサヌカイトが不慮の事故により、湿泥であった第8層に埋まり込むようにして埋没したとする考え方である。土壇として報告しながら、あえて後者のような解釈を提示するのは、この「土壇」の検出が遺構として認識す



第11図 160-OP平・断面図

るにはきわめて曖昧なものであり、サヌカイト群の存在によって周囲より軟弱で褐色がかった粘質土を埋土として認識して調査したにすぎない、という調査時の経過があるためである。調査地の中でも、東辺の周辺では第7層のしみ込みが顕著であり、足跡状のものが存在したことから、積極的に貯蔵を目的とした施設と考えることは避けておきたい。

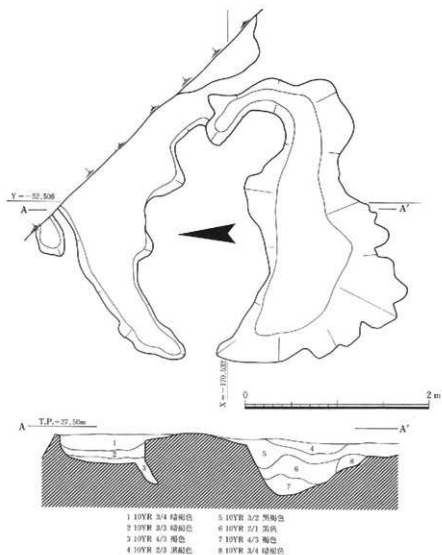
石核については遺物の項で記述する。

(宮原)

471-OX (風倒木痕) (第12図・写真図版9)

山ノ内遺跡Bでは、共通する特徴を持つものの意味不明の土壌を多数検出している。その分布は図版2に示し、以下その典型的な特徴を挙げる。

1. 内湾して弧状になった平面形を呈し、向かいあうように対になって検出する場合が多く、2つの土壌で、相対する場所で途切れたドーナツ状の平面を作る。
2. 対になる場合、周辺の地山より中央の地山部分は高く盛り上がっている場合が多い。



第12図 471-OX平・断面図

3. 弧状になる内側の壁面は、直立または内側へもぐり込んでおり、外側の壁面は内側の壁面に比べなだらかに傾斜する。

4. 埋土は分層可能であるが、第8層と同系統の土であり、遺物も同じ内容をもっている。

以上の特徴からは、人為的な遺構というより自然の所産である蓋然性が高く、樹木の根の痕である可能性が高いと考えられる。土壌内からは樹根の残根は確認していないが、土

墳の内湾する内側に、底より更に内側に入り込むピット状の凹凸が認められること（第12図）はその傍証となるかも知れない。中央の地山が高まりをみせるのも、樹木の根によって締め付けられ、圧縮された結果と考えることができよう。

樹木の根は樹種によって形態と分布が異なり、マツ、スギ類のように深部まで発達する深根性根系と、トウヒ、ブナ、ケヤキのように浅い部分に発達するものを浅根性根という（刈住 昇「樹木の根の構造と働き」『樹木 落葉広葉樹・針葉樹編』山と渓谷社1984）。弧状の土壌に扶まれた部分を樹幹位置と考えると、想定できる樹種は後者となる。

東日本の調査例では、大風等で根こそぎ倒されたときにできた穴という性格付けがされている「風倒木痕」が報告されている。既報告の「風倒木痕」は、根が抱き込んだ地山が樹の倒壊と共に遊離した結果として、地山の土が土壌の上面にかぶさるようにして堆積しているという。今回検出した土壌はこの点において違う様相を示しており、倒れた樹の根と痕と限定せず、広義の木痕としての評価に留めておくべきかもしれない。（宮原）

弥生時代の遺構

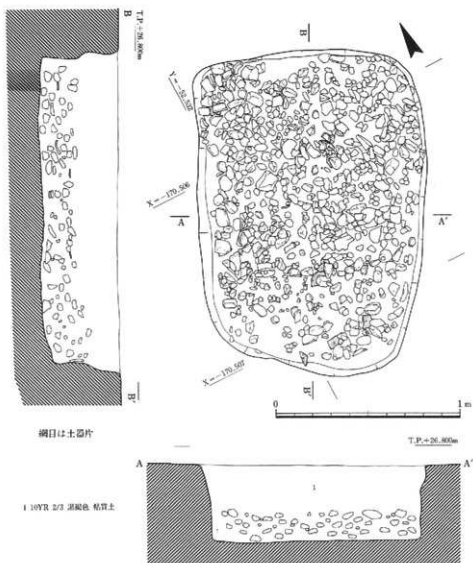
958-OD（図版3、写真図版3・4）

K05AN付近に位置する円形状の堅穴住居址である。全体の約1/2が調査地内にあり、規模は直径約6.6m、深さ約0.3m、推定床面積約34.2㎡である。埋土は、下層から暗褐色(7.5YR3/4)粘土炭混じり、褐色(7.5YR4/3)粘土、褐色(10YR4/4)粘土、暗褐色(7.5YR3/3)粘土、褐灰色(7.5YR5/1)粘土である。このうち下2層は貼り床土と考えられる。つまり住居の掘り方は浅いすり鉢状であり、凹凸が激しい。荒く住居の掘り方を作った後、貼り床等の整地によって床面を形成し、柱穴等の上屋の建築を行っている。床面には、炉と思われる焼土塊・ピット・溝・ベッド状の盛り土(黄褐色細砂質土)部分がある。ベッド状隆起は、住居址内東半分にあり、北側は調査区外に続いている可能性がある。

出土遺物には壺の底部片があるが、残りが悪く時期は不明である。（有井・豊岡）

228-OO（第13図、写真図版6）

K05BQ地区に位置する。平面形は長方形を呈し、大きさは長辺で約1.7m、短辺で約1.2mを測る。深さは約0.4m、壁面は直立ないし若干内湾して立ち上がる。土坑の底には長径0.1m未満を中心とする川原石0.15mの厚みを持って一面に集積しているが、川原石相互がかみ合った堆積状況は示さず、埋土は10YR2/3黒褐色粘質土が川原石間に介在していた。図面では表現できないが、川原石の集積面の上面には起伏があり、特に北東隅が高



第13図 228-00平・断面図

い。埋土中には炭化物を含むが、川原石ならびに土壇壁面に焼けた痕跡はない。弥生時代中期の土器片が川原石に混じって、散在した状況で出土している。

以上の知見をもとにすると、当初より川原石が土壇底面に集積していたと考えるより、なんらかの空間上に河原石の集積があり、それが崩落した状況を想定したほうが自然であると考えられる。ただし空間を想定するには、建造物の痕跡を全く認めることができなかった。類例を求めたが管見では知りえず、性格を明らかにしがたい。(宮原)

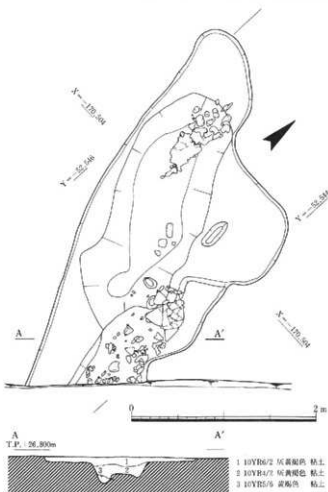
出土した土器には広口短頸壺(187)や甕(188・191・195・196)、底部(192・193)がある。遺物からみた遺構の時期は、第Ⅳ様式後半と考えられる。(豊岡)

627-00

K05J Yに位置する。長径約1.5m、短径約1.0mを測る楕円形の平面形を呈する。深さは約0.4mある。埋土は7.5Y R4/4褐色粘質土で、底から遊離した状況で弥生土器片が出土している。(宮原)

959-00 (第14図)

K05A N付近に位置する不定形の土壇である。南北方向4m、東西方向2.1m、深さ0.3mである。埋土は下から黄褐色(10Y R5/6)粘土、灰黄褐色(10Y R4/2)粘土、灰黄褐色(10Y R6/2)粘土である。



第14図 959-00平・断面図

北西部の深く掘り込まれている部分には、焼土塊が出土した。土壇内の壁には焼けた状況が見られず、焼土塊の性格は不明である。中央部から南には、弥生式土器の壺の胴部が出土した。残存状況が悪く調整、時期等は不明である。また、この土器の出土付近より南では、拳大を中心とした礫が多数出土している。(有井)

957-00 (写真図版3)

G25X N付近に位置する、円形ないし楕円形の土壇である。調査区北東端で検出したため全体の規模は不明であるが、北西壁面で3.5m、北東壁面で2.4m、深さ0.5mを測る。958-00

を切る。壁は約30°の傾斜を持つが、南西方向付近では15°から75°の明瞭な傾斜変換点がある。埋土は下層から、10Y R3/1細砂土、10Y R2/1粘土、10Y R3/2粘土、10Y R3/1粘土、10Y R2/2粘土、10Y R3/2粘土混細礫（径0.5～1.0cm）10Y R3/2砂質土、10Y R3/4粘土で、堆積状況から自然埋没したと考えられる。床面は、北に向かって若干傾斜する。

遺物には、二段のへら描直線紋を持つ、畿内第Ⅳ様式の高杯（186）がある。この高杯は、955-O P出土の破片と接合する。（有井）

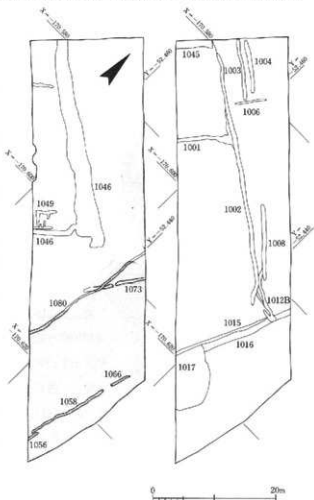
955-O P（写真図版5）

G25 Y Oに位置する円形のピットである。規模は、径0.42m、深さ約0.1mである。埋土は、10Y R3/4粘土である。高杯が出土し、957-O Oから出土した高杯と接合する。

（有井）

中・近世水田跡（第15図）

遺跡東南部において、中世水田跡の広がりを確認した。層位の上では、砂層地積層である第2c層より上であった。ただし第2c層上面でも、段丘崖に沿って北に延びる溝状遺構を確認している。中世水田跡は2面の重なりとして確認した。検出面は第2a層上面と第2b層上面である。西北西に延びる溝、もしくはそれに直交する溝によって区画された水田跡である。2面の水田跡とも、段丘崖にまで広がっておらず、おそらく段丘の裾の地形に規制されたものと考えられる。遺跡から北に広がる条里地割りとずれが認



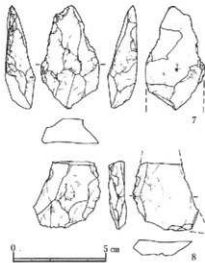
第15図 中・近世水田跡平面図

められる。出土遺物の出土状態が良好でなく、正確な遺構の時期は不明である。下面の水田跡の出土遺物から見て、一部に古い遺物も混じるが14世紀以降と考えられる。(豊岡)

第2節 遺物の検討

a 旧石器時代 (第16図)

(7)は、船底形石器の可能性が考えられるものである。風化が進行していない点が目になる。横長の剥片を素材として用い、甲板面側から調整を行っている。(8)は横長剥片である。稜状に作られた打面を持つ。背面側には石核の腹面の一部を残している。(豊岡)



第16図 包含層出土旧石器

b 縄文時代

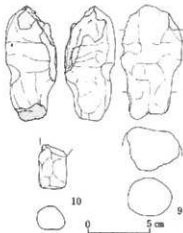
包含層出土の縄文式土器・土製品

山ノ内遺跡B地区で出土した縄文時代遺物は包含層出土のものが大半を占め、大量の打製石器に混じて、縄文後期から晩期にかけての各種の土器、土偶、土鍾などがある。遺物の分布は層序で説明した通り、第3層に集中している。しかも第3層自体においても他の時期の遺物との混在に差があることが認められた。純粋に縄文時代の包含層と呼べる部分は、689・693・695-OOといった縄文時代の遺構の周辺部に限られている。

縄文土器は後期初頭の中津式をわずかに含み、後期後葉の元住古山式、宮滝式を中心としている。晩期後半の突帯文の土器もわずかに含まれている(縄文土器データ表参照)。

土 偶 (第17図、写真図版19)

(9)はL01SDの第2層から出土した、大形の土偶の足の部分と考えられるものである。指のなでつけによるくびれた腰の表現と、尻と足を区別する表現が認められる。



第17図 包含層出土土偶

(10) は形状不明の土製品である。K05L X第3層から出土した。不整楕円形の断面を呈している。あるいは土偶の一部分かも知れない。

土 鍾 (第18図、写真図版19)

(11) は、K05H S地区522-O Xから出土した。現長4.3cm、最大幅2.2cmを測る。縄文土器の細片が伴出しているが、正確な時期は不明である。摩滅が著しい。

縄文・弥生時代の打製石器 (図版14~23、写真図版22~38)

打製石器については縄文時代に属する石器か、あるいは弥生時代に属する石器か、必ずしも明確に分離できないものがあるため、一括して報告する。

縄文時代・弥生時代の所産と考えられる打製石器は、ツールの他に石核・剝片・チップを含めて、約400kg近くの膨大な量が出土した。サヌカイト製のものが圧倒的な量を占めるが、黒曜石やチャート・凝灰岩・メノウ・泥岩などを用いたものも僅かながらあり、泉州地域としては注目される。これら石器は層位の問題からその帰属時期がすべてにわたって決定できる訳ではない。しかし多くが縄文時代の所産であることは、出土した石鐮の型式からみて明らかである。

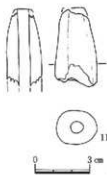
石 鐮 (表1・図版14~18・写真図版23~26)

山ノ内遺跡Bで出土した石鐮は2,858点にのぼる。石鐮はその総点数に比例して、様々な形態を示している。多数の形態を各々に紹介することは不可能なので、まずは形態分類を行ない、各形態から代表的なものを紹介することにする。

石鐮の形態分類の研究史を振り返ると、基部の形態を中心に分類したものが多く、これはおそらく弓矢としたときの、石鐮の着装の在り方を想定した分類と言える。代表的なものとして佐原 真 氏のものあげられる。ところが石鐮の形態は基部のみにとどまるものではなく、刃部の形態や、身の長幅比を考慮の外におくことはできない。弥生時代の石鐮の研究においては石鐮の形態の種類が少なく、これらのことをすべて反映させなくとも妥当な分類が行われてきたに過ぎない。したがってここで行われる分類では、基部の形態(着装法)・刃部の形態(抉入方)・身の長幅比(鋭利さ)の三つの要素の組み合わせに注目してみることにする。

1) 基部の形態

基部の形態には大きくみて三者がある。つまり凹基・平基・凸基である。このうち凹基



第18図 包含層出土土鍾

は、身への挿入の度合いからみて五大別される。

1類：挿入の度合いが、身の長さに対して1:1に近似のもの。

2類：挿入の度合いが、身の長さに対して1:2に近似のもの。

3類：挿入の度合いが、身の長さに対して1:3に近似のもの。

4類：挿入の度合いが、身の長さに対して3類よりも小さく、しかも明らかに挿入の認められるもの（1:4～1:5前後のものが多い）。

5類：挿入の度合いが小さく、緩く内湾するだけであり平基に極めて近いもの。

6類：平基。

凸基には舌状の基部を持つものと、有茎式と呼ばれるものの二大別がある。舌状の基部を持つものはその発達度から見て二者に分けられ、有茎のものも茎の作り出しからみて二者に分けられる。

7類：基部が緩く外湾して振り出すもの。

8類：基部が舌状に発達するもの。

9類：茎が身から明瞭なコーナーを持たずに作り出されるもの。

10類：茎が身から明瞭なコーナーを持って作り出されるもの。

その他ここでは分類に含めなかったが、基部が非対称形のものや、アメリカ式石鎌と呼ばれるものなど更に分類を補足することができる。

2) 刃部の形態

刃部の形態は、大きくみて外湾刃・直刃・内湾刃・多角形刃に分けられる。凸基を持つ石鎌は一般に外湾刃であることが多いが、まれに直刃・内湾刃をとるものがある。

3) 身の長幅比

石鎌の全長とその全幅の比率は、視覚的に石鎌の形態の相似を区別させることとなっている。一般に石鎌の全幅は、有茎以外のものでは身の末端（基部）の幅として計測される。しかしながら外湾刃石鎌の内の特異なものに、基部から身の中央付近まで幅が変わらず、先端で外湾するものがある。これをe類として特別に規定する。

a類：石鎌全長とその全幅の比が、1:1に近いもの。

b類：石鎌全長とその全幅の比が、1.25:1に近いもの。

c類：石鎌全長とその全幅の比が、1.5:1に近いか、それより全長の比が大きいもの。

d類：石鎌全長とその全幅の比が、0.75:1に近いもの。

e類：石鎌全幅が鎌身の中央付近から基部にかけて、ほぼ値を変えずに計測されるもの。

以上の1)～3)の要素にしたがって、以下のように石鎌を分類する。基本とする考えは、基部の形態と刃部の組み合わせであり、A～Pの類型化が可能である。このうちA・B・C類型においては、基部形態の1～3類型を含むこととする。またM類型は外形の独自性にしたがって一つの類型を設け、基部形態の1～5類型をふくむこととする。P類型においても凸基を持つ石鎌として一つの大きな類型を立て、それに対して基部形態の7～10類型を含むこととする。そして石鎌の長幅比は、A～P

類型の各々のうちにおいてさらにa～e類型として分類ができる。

最後に、形態分類の表記は刃部と基部による形態類型(A～P)→長幅比による類型(a～e)→基部形態(1～10)の順による組み合わせとする。たとえばAa2という表記は、外湾刃・凹基・挟入度合いが全長の3分の1である石鎌ということの意味する。

ただしD・E・F・G・H・I・J・K・L類型においては基部形態が同時に指定されており、文章表記では省くことにする。

A類(凹基外湾刃石鎌・図版14-201～216、写真図版23)

A類に分類された石鎌は、160個である。その内訳は、Aa1類が7個・Aa2類が49

1		A	B	C	
2					M
3					
4		D	E	F	
5		G	H	I	
6		J	K	L	
7		N	O	P	
8					
9					
10					

第1表 石鎌形態分類表

個・Aa3類が26個・Ab2類が9個・Ab3類が45個・Ac2類が2個・Ac3類が8個・Ad2類が2個である。全体としては、Aa2類からAb3類にかけての形態のものに中心がある。小形の石鎌が多い。基部の挟入は一律に深く行われており、石鎌を挟み込むよう装着すると先端がわずかにのぞく程度と考えられる。したがって逆刺が機能上重要である石鎌と考えられる。

また特異なものとしてA類には、図版14-235のようにAd類に分類されるものがある。個体数が非常にわずかであり、本来この形態が普遍的な形式か疑わしい。

B類（凹基直刃石鎌・図版14-217-228、写真図版23）

B類に分類された石鎌は190個である。その内訳は、Ba2類が34個・Ba3類が55個・Bb2類が8個・Bb3類が67個・Bc3類が19個である。全体としては、Ba3類からBb3類にかけての形態のものに中心がある。B類の中心となる一群の石鎌は、基部に対する深い挟入によって強く延びた逆刺をもち、全体にシャープな印象をあたえる。

またB類には極端に小形のものが含まれている。これは長幅・重量比においても一つのグループを作っていることが認められる。(219-223)がそれ当たり、着装時の様子を見ると石鎌の大半は隠れてしまうと考えられる。

C類（凹基内湾刃石鎌・図版14-229-232、写真図版23）

C類に分類される石鎌は96個である。その内訳は、Ca2類が6個・Ca3類が28個・Cb2類が1個・Cb3類が35個・Cc2類が3個・Cc3類が16個である。Ca3類・Cb3類・Cc3類など挟入の浅いものが多いことが分かる。

つまりC類に分類されるものは長幅比がb・c類に分類されるものが多く、C類の形態的特徴である逆刺の発達とあいまって、鋭利さと抜け落ちにくさが、視覚的に迫りかかっていると考えられる。

C類の特徴は、内湾刃石鎌全体にも言えることであるが、逆刺の部分が緩く外湾しているものを含んでいることである。つまり内湾刃石鎌とM類とは類縁的な関係にあると考えられる。したがってC類にはM類との間に分類に困惑するものがあるが、C類とM類とを区別する点は、C類が身の先端が鋭く作られているのに対して、M類は刃部が身の上半で平行になり急に折れ曲がって鈍い先端となっている点である。

D類（凹基外湾刃石鎌・図版14・15-233-275、写真図版234）

出土した石鎌のうち最も多かったのがD類である。D類に分類されるものは561個である。その内訳はDa類が219個・Db類が223個・De類が75個・Dd類が3個・De類が41個

ある。Da類・Db類に分類される形態のものに中心がある。また特徴的なDe類も定量的に確認できる。De類の石鎌は素材となった剥片の主要剝離面を残すものが多い。

E類（凹基直刃石鎌・図版15-276-297、写真図版24）

E類はD類に次ぐ個体数を数え、459個ある。その内訳はEa類が145個・Eb類が223個・Ec類が90個・Ee類が1個である。つまりEb類を中心として、それより幅の比が大きいものの個体が多いことが分かる。極めて小形のものを含む。

F類（凹基内湾刃石鎌・図版15・16-298-320、写真図版24・25）

F類はD・E類に次いで多く、278個である。その内訳はFa類が111個・Fb類が101個・Fc類が66個である。つまりFe類・Fb類に分類されるものが多いが、Fa類自体は二種類の大きさのものに分かれている。

G類（凹基外湾刃石鎌・図版16-321-336、写真図版25）

G類に分類されるものは153個である。その内訳は、Ga類が63個・Gb類が49個・Gc類が26個・Ge類が15個である。Ga類に分類されるものが多い。

H類（凹基直刃石鎌・図版16-337-341、写真図版25）

H類に分類されるものは71個である。その内訳は、Ha類は32個・Hb類は19個・Hc類は20個である。Ha類に分類されるものが多い。

I類（凹基内湾刃石鎌・図版16-342-344、写真図版25）

I類に分類されるものは39個である。その内訳は、Ia類が14個・Ib類が14個・Ic類が11個である。石鎌全体の中では数が少なく、1%強である。

J類（平基外湾刃石鎌・図版16・17-345-359、写真図版25）

J類に分類されるものは206個である。その内訳は、Ja類が95個・Jb類が57個・Jc類が34個・Jd類が20個である。Ja類からJd類に中心がある。

K類（平基直刃石鎌・図版17-360-363、写真図版25）

K類に分類されるものは131個ある。その内訳は、Ka類が70個・Kb類が34個・Kc類が27個である。

L類（平基内湾刃石鎌・図版17-364-366、写真図版26）

L類に分類される石鎌は、わずかにLa類が3個・Lb類が5個・Lc類が3個あるのみである。全体の中で1%であり、形式として安定した石器かどうか疑わしい。

M類（多角形刃石鎌 図版17-367-384、写真図版26）

M類に分類される石鎌は263個ある。M類は基部の形態が、2類～6類までをとる特異

な形式である。その内訳は、Ma 4 類が19個、Ma 5 類が62個、Mb 3 類が1個、Mb 4 類が62個・Mb 5 類が8個・Mb 6 類が2個・Mc 2 類が1個・Mc 3 類が1個・Mc 4 類が84個・Mc 5 類が20個・Mc 6 類が3個である。形式が多岐にわたっているが、Ma 5・Mb 4・Mc 4 類に中心がある。

N類（凸基直刃石鎌 図版17-385・386、写真図版26）

N類に分類されるものは3個ある。N類の基部は凸基の中でも7類に分類されるものである。その内訳は、Nb 7 類が1個・Nc 7 類が2個である。

O類（凸基内湾刃石鎌 図版17-387・388、写真図版26）

O類に分類されるものは3個ある。その内訳は、Oc 7 類が2個、Oc 10類が1個である。

P類（凸基外湾刃石鎌 図版17・18-389～408、写真図版26）

P類に分類されるものは137個ある。P類のとする基部は7～10類であり、ヴァリエーションが多い。その内訳はPa 7 類が3個・Pa 10類が1個・Pb 7 類が28個・Pb 10類が1個・Pc 7 類が33個・Pc 8 類が27個・Pc 9 類が13個・Pc 10類が6個・Pc類のうちで基部形態の不明なもの6個である。Pb 7 類・Pc 7 類・Pc 8 類に中心があるようである。

以上の様々な石鎌の欠損状況を調べると、完存した624個体を除いて、逆刺の部分欠損したものが多くことが理解される。つまり一方の逆刺のみを欠損したものが838個、これに何らかの形で基部を欠損したものを加えると、1,704個になる。逆に先端側のみ残ったものは517個体あって、やはり石鎌の装着部の周辺が最も欠損しやすいといえよう。

石 槍（図版18-409～413、写真図版27）

石槍の項目には木葉形尖頭器と、弥生時代の所産と考えられる石槍（打製石剣）を含めている。木葉形尖頭器と石鎌のP類に含めたものとの法量上の区別は、遺物量が少ないためあくまで主観的判断でしかない。

木葉形尖頭器は完形のものがなく、いずれも所属時期は不明である。また弥生時代に通常の石槍は3点出土した。完存するものはなく、身の中央基部の破片が多い。（412）は流紋岩製である。

ドリル（図版18-414～421、写真図版27）

ドリルは、剥片を素材として製作されている。完存のものは少なく、大半が身の中央で半損している。

石匙・小石刀（図版19-422・423、写真図版28）

石匙は2点が出土した。小石刀も1点が出土している。いずれも横長の剥片を素材とし

ているように観察される。

スクレイパー（図版19・20-424~439、写真図版28）

スクレイパーには両刃・片刃があり、しかもそれぞれに直刃・内湾刃・外湾刃がある。旧石器のようにエンドスクレイパー・サイドスクレイパーなどに明瞭に分類することはできないが、素材剥片の剥離方向に対し、刃部が作られている部位によって分類を行うと次のようになる。

A類：主要剥離面の末端に調整を施すもの（425~433）。

B類：主要剥離面の側面に調整を施すもの（434~439）。

A類の多くが横長剥片を素材としているのに対して、B類の多くは縦長剥片を素材としていることが注目される。

楔形石器（図版21・22-440~462、写真図版27）

楔形石器は、スポールを含めて総数8,300点、総重量75,768.4g出土した。あるいは剥離作業の稚拙さからくるステップフレーキングの激しい石核の残核を、誤って楔形石器に分類している危惧は残している。しかしそれを排除したところで、全体のツールに占める楔形石器の量の多さが注目される。楔形石器の形態からみた分類はこれまでの諸研究と変わることはない。

石核（図版23~29-463~492、写真図版29~33）

検出された石核は931個、34,688.6g（160-OP資料を除く）である。石核には剥片素材のものと（470~490）、礫素材のもの（463~474）とがある。剥片素材のものは、明らかに母岩分割技法によったと考えられる。しかし160-OPから出土したような母岩自体は、包含層から検出されていない。また礫素材のものに関しては、垂角礫・垂円礫を用いて剥片生産を行なったものと、垂円礫に熱を用いたポッターリーフレーションがみられるものがある（491）。693-OO出土の（468）は縄文晩期を下限とする資料である。

礫素材石核の典型としては、160-OP出土資料（492）がある。石材は良質なサヌカイトを用いている。確認された接合関係は石核13から剥取された順に、5→9→?→2→?→10→?→6→?→3+（掘りあげ資料）→?→16→12+27→?→4→1+22→?→13（石核）である。？は遺構に遺存していないものを含めて、接合しない剥片をさす。またこの剥離順に添って説明を行なう。また剥離方向の変化については、石核の剥離作業面に向かっての方向である。

5は9と接合する。5の剥離角は85°である。9は打面を失っているが、5・9いずれも自然面打面から剥離されたものと考えられる。5に対して9は、左回りに打点を移動し

ている。9は剥離後、石核となりさらにスクレイパーに転用されている。スクレイパーリッタッチは、主要剥離面の右側辺上半と下端に認められる。リタッチの角度は $58^{\circ}\sim 76^{\circ}$ である。

2は9の1枚後に剥離されている。剥離角 84° である。主要剥離面には、ツインバルブが観察され、末端がヒンジしている。2に続いて幾枚か剥片剥離が行なわれた後、10が自然面を打面として剥離されている。剥離は2に対して、左回りに打点を移動して行われている。剥離角 110° である。10の背面には複数の剥離痕があり、2から10にいたる剥離作業も左回りに進行していることを示している。

6は10の1・2枚の剥離作業後に剥離されている。打点は破碎して残っていない。剥離方向は10とほぼ同一方向に観察される。この6の幾枚か後に3+?が剥離されている。打点は左に戻り、自然面を打面としての剥離である。3+?は剥離の際にツインバルブの一方の打瘤の中央で破碎したものである。3の剥離角は 98° である。背面には、同一方向に剥離された剥離痕が2枚認められる。

この部分での剥離作業が終わった後、打点は礫の反対側のコーナーに移っている。新たな剥離作業は16・1+27の接合資料から確認できる。接合資料の背面には、広い剥離面があり、この剥離面は9・?の背面にみられたものと同一と考えられる。したがってこれまで述べた剥片の剥離作業以前に、大形の剥片が剥取されていることが伺える。

16・12+27はいずれも自然面を打面としている。12+27は折損資料であり、27の剥離角は 101° である。12が折損したと同時にもしくは後に、27の末端に剥離が行なわれている。剥離作業の進行は、16に対して12+27の剥離方向は左回りに移動している。12+27の後にも打点をさらに左回り移動して、自然面を打面として剥片が剥取されていることが観察される。

次にこの剥片剥離でできた平坦な剥離痕を打面として4→1+22が連続して剥離される。4・1+22は打点を石核の中心に移動させながら、同一方向に剥離されている。1と22は剥片の中央で破損したものである。4の剥離角は 92° 、1+22の剥離角は 121° である。

この後剥離された剥片の接合資料はない。しかし石核13から観察される剥片剥離作業は1+22の剥離の後、打点は石核の長辺を左へ移動している。おそらく1+22と同様の、剥片剥離でできた平坦な剥離痕を打面としていたものと考えられる。この一連の剥片剥離でできた石核側面の剥離痕を打面として、左回りに打点を移動しながら二枚の大きな剥片が剥取されている。これに続いて右回りに、小形の剥片が数枚剥取されている。おそらくこ

これらの剥片剥離で剥取されたものが、図版29-8・11・18~20であると考えられる。

最後に160-OPから検出された、サヌカイトの接合資料についてまとめておく。石核から剥取された大半の剥片が、再加工を受けずに残存している。しかし、おそらく平坦で大きな剥片であったと考えられる剥片の幾枚かが遺存していない。それらは石核ないしツールに転用され、遺跡内外で消費されたものと考えられる。

剥片剥離技法に関しては、まず打面の設定は平坦面もしくは素材礫のコーナーを好んでいる。しかも、礫面を剥取した剥片や末端がヒンジした剥片を除く剥片の剥離角が、 100° ~ 120° の鈍角であるように、打面の設定においては打面縁の部分の角度が、鋭角や強く鈍角になるのを避けているように観察される。打点の移動は以上の条件のもとに、左回りを基本としているが、横幅の長い打面が設定できる部分では、右回りの移動が認められる。剥離作業面の移動に関しても、しいて強い法則性があるようには観察されず、剥離作業の一区切りごとに、新たな平坦打面を見出したという方が適切である。

つまりこの接合資料からは、剥離方向の偏向からみて右利きの人間による平坦面もしくは礫面の角を打面とする剥離作業が、連続して行われたことが推定される。剥離行為一つ一つにおける規則性は弱い、全体としては石核に供給する剥片生産をも包みこんでいる点で注目される。またいくつかの剥片に調整が行われていたが、これらが他の未加工の剥片と同一の取り扱いを受けている事実からは、ツールとしての調整された剥片を考えるうえで問題を残すことになろう。

石核全体の法量を比べてみると、大形の礫素材のものが少なく、拳大のものが多くことに気がつく。これは石核の素材となった礫が、亜円礫・亜角礫であることに関連して、素材礫の原産地を考えるうえで注目される。礫面の多様さも注意される。

剥片生産については、石核の剥離痕の観察から、縦2cm以下の小形の剥片の連続生産を推定させるものがある。それは主に、小形の剥片素材石核に見られることが注目される(476~479)。この剥片生産で供与可能なのは、石礫の中でも限られた形態である。石礫の生産技術の中で、素材剥片を供給する石核を明らかにする可能性を示している。

剥片 (図版30-493~513、写真図版34・35)

出土した剥片の総数は202,390個、総重量は189,565.4gにのぼる。その法量による分類では現況の長さが4cm以上6cm未満の剥片が167,079個・63,589.7gと最も多く、逆に8cm以上の剥片は182個、中でも10cm以上になると12個と、大形の剥片が極めて少ない。

有用な剥片の大きさを遺物の残存量から帰納すると4~6cm程度のものが中心であった

と考えられる。このことはツールの中で絶対量を占める楔形石器と石鎌の中心となる大きさが、剥片よりひとまわり小さいところに中心を持つことによく一致している（楔形石器8,300点中2～4 cmが4,154点、4～6 cmが3,208点、石鎌2,858点中4 cm以下が2,854点）。

チップ

2 cmより小さい剥片を、ここでは一律にチップとした。その数は膨大で推定60万点前後であり、総重量33,057.4 gになる。遺跡で石器製作が行われたことを、如実に表している。

サヌカイト以外の石材による打製石器（図版31）

今回検出されたサヌカイト以外の石材は、黒曜石・石英・流紋岩・酸性凝灰岩・泥岩・メノウがある。点数が最も多かったのは黒曜石で、細片を含めて14点あった。メノウは図化しなかった。

流紋岩製品は2点検出された。一点は石鎌（514）、もう一点は石槍である（412）。石鎌はDe類に分類される。先端を欠損しており、基部は表裏とも中央に強い挟入が行なわれている。石槍（412）は身の中央付近の破片であり、全体の形状は不明である。

黒曜石製のツールは2点あり、いずれも石鎌である。（515）はE c類に分類される。石材は灰黒色透明である。（516）は**b**6類に分類され、石材は灰黒色透明である。

その他の黒曜石は、すべて小さな剥片やチップである。（523）は縦長の剥片であり、側面に背面からの微小な対こぼれが認められ、有用な剥片であったことが理解される。

石英（524）は灰白色、酸性凝灰岩（525）は青白色を呈し、泥岩（526）は赤褐色を呈する。また図化できなかったが、メノウとして紅縞のもの、黄褐色透明のものと2点ある。

縄文時代の磨製石器・石製品

石 斧（図版32、写真図版36）

8点が出土した。断面楕円形の中型品（527～530）と、扁平な小形品（531～534）とがある。（530）は泥質ホルンフェルス製であり、ハンマーに転用されている。小形品のうち（532～534）はいずれも同じ石材を使用しており、蛇紋岩製である。

砥 石（図版32、写真図版37）

明らかに縄文時代のものと判断できるものはない。（535）は長さ3.2 cm、幅0.8 cmの溝状の窪みが一部に認められる。

石 錘（図版32）

円礫の対向する部位を打欠く、もしくは溝状に研ぎ落とすことによって、石錘に仕上げ

ている(536~538)。砂岩製が多い。

ハンマー(図版33-539-543、写真図版36)

ハンマーに使用されている石材はサヌカイト(542)・流紋岩(541)などの種類がある。いずれも拳大より小さいものばかりである。旧石器時代に母岩分割に用いられるような、大形のハンマーは出土していない。このことは大形の石核の存在が少ないことと関連している。また剥片素材石核の存在からは、母岩分割が遺跡外で行われた可能性も残している。

叩き石・凹み石(図版33-36、写真図版37・38)

平面形が円形のものから、楕円形のものまである(544~559)。敲打痕がある部位は、側辺と平坦面である。平面形が楕円形のものには、平坦面に敲打痕がなく、長軸両端の敲打痕が顕著なのがある。

台石(図版36、写真図版38)

いずれも破砕しており、原形を伝えない。扁平な板状の石を素材にしたものと考えられる。なかには流紋岩製のものもある(写真図版38左下)。

装飾品(第19図、写真図版22)

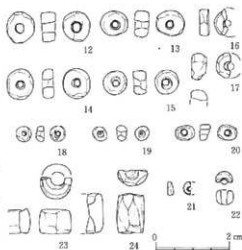
縄文時代のものと考えられる玉は、計13点が出土した(12~24)。出土地区、層位は、K05KY地区とL010A地区の第3層に集中している。使用された石材は(23)を除いてヒスイと考えられる。

玉の形状は大きく3種類に分けられる。

A類(18~22)は、径4mm前後のものである。平面はほぼ円形である。断面厚が2mmほどのものと、4mmほどのものがある。

B類(12~17)は、径7mm~10mmほどのもので、平面形は円もしくは楕円形である。断面厚が4mm前後ある。

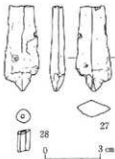
C類(23・24)は、短い管玉様のものがある。径7mm前後を測る。



第19図 包含層出土縄文時代石製品



第20図 包含層出土弥生時代石器



c 弥生時代

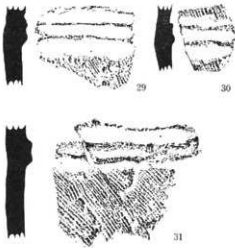
石庖丁・柱状片刃石斧 (第20図)

弥生時代の石器は石庖丁と石斧が各1点ずつ出土している。石庖丁(25)は半月形を呈し、現存長5.8cm、幅3.6cmを測る。玄武岩質凝灰岩質片岩製である。

柱状片刃石斧(26)は折損しているために全体は不明である。

現存長4.5cm、幅0.9cm、厚さ1.4cmを測る。玄武岩質凝灰岩質片岩製である。

第21図 包含層出土
銅鐵・ガラス玉



金属・ガラス製品 (第21図)

銅鐵 (第21図27)

(27)はL01RF第2層から出土した。先端を欠損している。全体に錆が進行している。遺存状態はよくない。現存長2.32cm、幅0.97cm、最大厚0.45cm、重さ1.69gを測る。

管玉 (第21図28)

(28)はL01RF第2層から出土した。ガラス製の管玉で、濃緑色を呈し小気泡を含んでいる。両端は、破面のまま残っている。長さ0.64cm、径0.37cm、重さ0.14gを測る。



第22図 包含層出土銅輪

d 古墳時代

銅輪 (第22図、写真図版19)

L01THの第2層(29)、L01T1の第2層(32)、K05HSの第2層(30)、K05LXの第2層(31)で門前銅輪と形象銅輪が出土している。

本地区には古墳の削平されたような痕跡

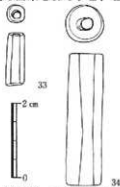
は認められなかったものの、南接する調査区の山直北遺跡L13TD周辺で中世に削平されたと考えられる古墳状の隆起(325-O G)が認められた。さらに南接する三田遺跡でも削平された6世紀代の古墳群が検出されている。本遺跡出土埴輪の由来もおのずと、この地区近縁に在ったであろう古墳のものと思定して大過あるまい。

遺物は全体的によく摩耗している。(29~31)は低いタガを持ち、粗いタテハケを施す円筒埴輪である。(29)は須恵質、明褐色(5Y R7/1)を呈し、他は土師質である。

(32)は人物埴輪の手と考えられる部分である。表面は比較的摩耗がはげしく、黄橙色(7.5Y R8/8)を呈する。

装飾品(第23図、写真図版22)

石製の管玉が2点出土している(33・34)。(33)はK05H Wの第2層から出土している。弥生時代に属する可能性があるが、一応ここで紹介する。灰緑色を呈し、長さ1.43cm、径0.55cm、重さ0.59gを測る。(34)は灰緑色を呈する、粗悪なグリーンタフ製である。L01RFの第2層出土。長さ3.62cm、径0.98cm、重さ5.73gを測る。古墳時代中期のものと考えられる。



第23図 古墳時代管玉

(豊岡)

第三章 山直北遺跡

第1節 調査経過

山直北遺跡の調査に当たっては地形の微弱な起伏に合わせて、便宜上遺跡を北より3地区に分けた。ここでは北より、A地区（L06、L07）・B地区（L12、L13、L18）・C地区（L24）と仮に呼ぶことにする。

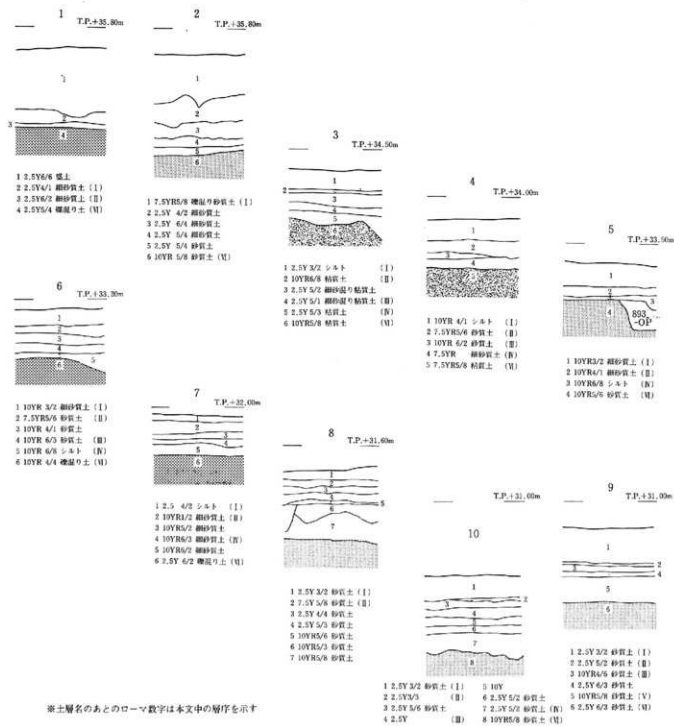
調査方法は、表土（現耕土）および水田床土を重機によって掘削し、残りを人力掘削による平面発掘を行なった。調査はB地区南端より始めA地区へと進めたが、C地区は2期に分けてA・B地区に合わせて発掘を行なった。

第2節 層序

山直北遺跡は、北西に緩く傾斜しながら延びる段丘面上に立地しているために、包含層の堆積は、さして厚くない。しかもその包含層の大半が、中・近世の開発によって緩やかな傾斜堆積を階段状に削平した後に堆積したものである。

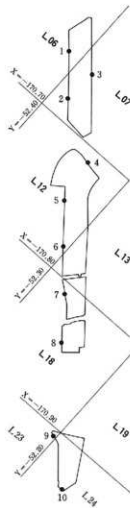
地層は大きく6層に分類される。第I層（表土）、第II層（床土）、第III層（近世水田層1）、第IV層（近世水田層2）、第V層（古墳時代包含層）、第VI層（地山）である。これらの基本層序は先に触れた人為的な理由によって、すべての地区に存在するわけではない。A地区では、第IV層が存在しない。B地区では、第V層が段丘面上の微小な窪みにおける堆積としてしか存在しなかったし、C地区では第IV・V層が削平されてない。しかもすべての地区において、中世の遺構面がそれ独自としては存在しない。B・C地区では中世のみならず弥生・古墳・奈良・平安時代の各遺構はすべて、第VI層上面（地山上面）で検出している。A地区では第V層が存在し奈良・平安時代遺構面となっていたが、中世の遺構も同じ面で確認している。ただし、A地区の中央東端の一部では、奈良時代の遺構上に平安時代の整地層が認められたところがある。おそらく中世の遺構面は、その下位にあったかもしれない遺構面ともども、近世の削平によって失われたものと考えられる。

地山には、黄褐色粘質土層の部分と茶褐色砂礫層の部分があり、北西方向に並走している。国土座標Y=-52,300mラインをおおよその境として西に砂礫層が、東にシルト層が分布する。このうち砂礫層はA地区の西の外れでは、砂層と呼ぶほどの砂の比率が高くなる。またシルト層はC地区で尽きており、その南に埋没谷が存在する。C地区東半の



※土層名のあとにローマ数字は本文中の層序を示す

第24図 土層断面柱状図



不定形な落ち込み状の遺構は、この埋没谷の名残りである。

生活に適した地域は第Ⅵ層が茶褐色砂礫層の範囲であり、多くの生活に関連した遺構はこの部分から検出した。この地山の分布する範囲は、A地区とB地区との間で小さな谷地形によって二分されて、二つの地区

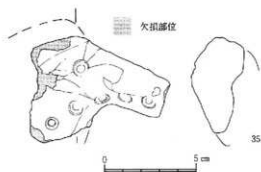
を作っている。しかもこの二つの地区は、現在の山直谷にみられる地割りのなかに、異なった方位の方形の地割りとして遺存していることが認められる。とくにA地区で顕著なこの地割りは、山直北遺跡の南に位置する三田遺跡でも気付かれたところであるように、現在みられる条里以前の地割りの名残りである可能性がたかい。

各包含層の時期は、下限の明瞭な決め手を持つわけではない。B地区の第Ⅳ層には古墳時代や奈良・平安時代の土器や土馬（第25図）などの遺物に混じて、

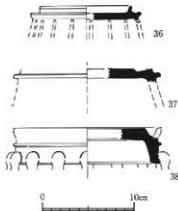
13世紀後半から15世紀にかけての遺物が包含されていた。またB地区で部分的にみられた第Ⅴ層からは6世紀後半から7世紀にかけての遺物がまともに出土しており、他にこの地区ではⅢ層とⅤ層から円面硯（第26図）が出土している。A地区の第Ⅴ層には6～7世紀の遺物が包含されていたうえに、第Ⅴ層の上面に検出された不整形な窪み（1401-OX）から、整地した際に捨てられたと思われる奈良時代前半の土器が出土している。

なお、地山のシルト質の部分については、旧石器時代の包含層であるかどうか確認したが、インポリューション状の土層の変化を認めただけで遺物は検出できなかった。

（豊岡）



第25図 包含層出土土馬



第26図 包含層出土硯

第3節 遺構の検討

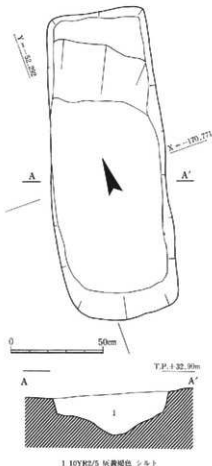
A 弥生時代の遺構

326-O U (第27図)

L13C R地区の地山上面で検出した長方形の土墳墓である。長さ1.7m・幅0.6m・深さ0.22mを測る。堆積土は単純であり、木棺痕は認められない。

墓墳の掘方は、北側の小口部を2段掘りしているほか、短軸断面の中央がやや窪んでいることが注意される。

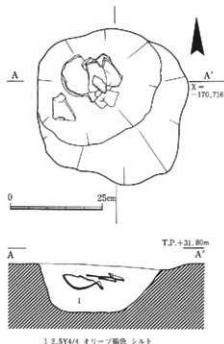
出土物には広口壺の口縁部(577)と、壺と思われる底部(578)がある。土器からみた遺構の時期は、弥生時代後期後半である。(豊岡)



第27図 326-O U平・断面図

817-O P (第28図)

L12E P地区で790B-O Xの下面から検出したピットである。径0.46m・深さ0.23mを測る。堆積土は単一の砂質土層である。ピット内から壺・高杯が押し込められるようして出土した。



第28図 817-O P平・断面図

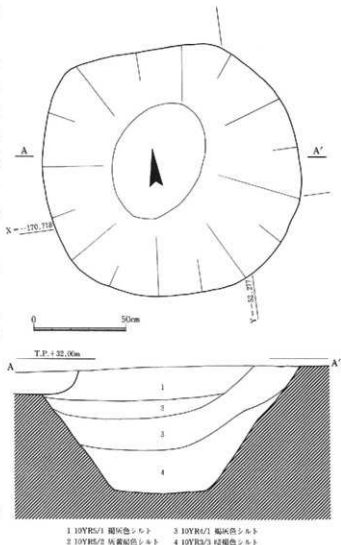
出土した土器には高杯と甕の胴下半部（579・580）がある。この土器からみた遺構の時期は、弥生時代後期後半である。（豊岡）

775-O X（第29図、写真図版54）

L12 E S地区の地山上面で検出した円形の土壌である。西端を790 B-O Oに切られている。径1.44m・深さ0.68mを測る。断面は逆台形である。

土層堆積は細かくみると4層に分けられ、土器は下層の第4層を中心として出土した。多器種混在型の祭祀土壌であると考えられる。

出土遺物は大半が粘土化していたために、取り上げられた遺物はごくわずかである。その中で器種のわかったものに、受け口状口縁をとる広口壺（562）や短・長脚の高杯（564～570）、受け口状口縁をとり口唇部外面に凹線文をもつ甕（574）、口縁部と体部と異なった粘土を用いた鉢（571）などがある。土器からみた遺構の時期は弥生時代後期後半である。（豊岡）



第29図 775-O X 平・断面図

B 古墳時代の遺構

682-O B（図版40）

L12 K U地区を中心として確認した。桁行2間、梁行2間（3.35m×3.20m）の総柱建物である。

686-O Pから須恵器

杯蓋の破片（581）が出土している。この破片は約7m南の725-O P出土土器と接合する。しかし725-O Pは778-O Sを切っており、出土遺物の時期が齟齬を来す。仮りに遺物が遺構に埋没した時期のみを686-O P・725-O P同時とすれば、682-O Bは778-O Sに後出すると考えることができる。（豊岡）

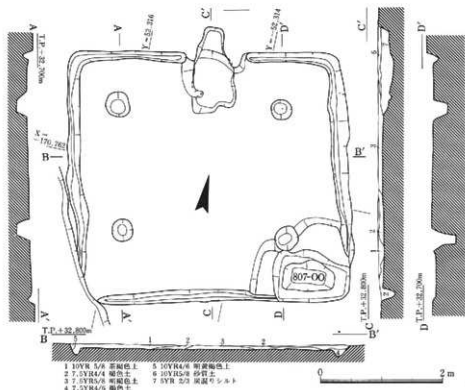
608-O B（図版39）

L12K S地区を中心として確認した掘立柱建物である。778-O Sを切る。600-O Uとの前後関係は不明である。桁行2間×梁行2間（3.60m×3.28m）である。中央の他の柱穴は他に比して浅く、幼児頭大の石を穴中心からずれた位置で検出している。南東隅の柱穴は、778-O Sの検出の際に、見落としたようである。

出土遺物は670-O Pから須恵器杯蓋？（667）が出土している。7世紀代のものと考えられる。（豊岡）

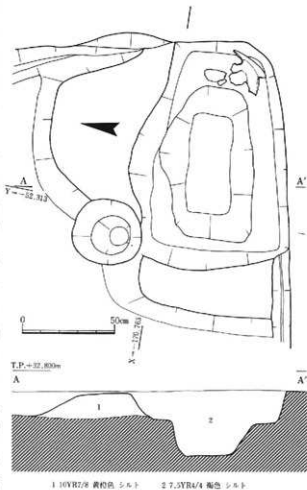
793-O D（第30・31図、写真図版43）

L12O V付近に位置する方形竪穴住居址である。方位はN-15°-Wである。規模は、



第30図 793-O D平・断面図

東西4.5m、南北4.55m、床面積18.4㎡である。埋土は下層から明褐色(7.5Y R5/8)細砂質土、褐色(7.5Y R4/4)細砂質土、黄褐色(10Y R5/8)細砂質土である。床面には柱穴が4箇所ある。柱穴の規模は口径約0.4m、深さ約0.4mである。埋土は褐色(7.5Y R4/4, 4/6)細砂質土である。柱間は最大2.7mである。北壁中央部には、造り付けのカマドがある。規模は南北1.4m、東西0.95mである。このうち、煙道部が住居址北壁より0.4m突出している。カマドの底部は住居址床面よりもさらに掘り込み、左右の袖部分は盛り土をしている。カマド内側は強く締まった炭混じりの焼土が層をなしている。焼土を除去すると、焚き口部に、長さ0.6



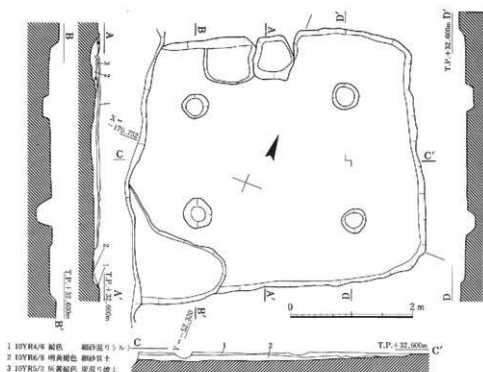
第31図 807-〇〇平・断面図

m、幅0.15m、深さ0.05mを割る東西の溝状の窪みがある。カマドの左右より須恵器杯身片が出土している。住居址内南東隅には北側、西側を堤状に盛り土している貯蔵穴と考えられる土壇(807-〇〇)がある。規模は東西1.6m、南北1.4m、深さ0.35mである。

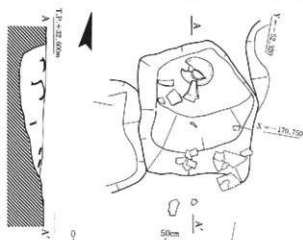
土師器の甕を土壇内東壁から検出しているが、残存状態は非常に悪い。(豊岡)

803-〇D(第32・33図、写真図版43)

L12MT付近に位置する方形竪穴住居址である。方位はN-22°-Wである。規模は、西側が778-〇Sに切られて不明であるが、東西の残存長は4.8m、南北4.5m(カマド煙道部含む)、床面積20㎡程度である。埋土は下層から、明黄褐色(10Y R6/8)細砂質土、褐色(10Y R4/6)細砂質土混灰黄褐色(10Y R6/2)細砂質土である。床面はほぼ水平で、柱



第32図 803-OD平・断面図



第33図 803-OD内カマド平・断面図

穴が4箇所認められた。

柱穴の規模は口径約0.4m、深さ約0.15mで、埋土は住居址内最下層の埋土とはほぼ同一であった。柱間は南北方向で約2m、東西方向で約2.6mである。

カマドは、北壁中央部にある。規模は長さ1.18m、幅0.65m、深さ0.28mである。埋土は、下層から灰黄色(10Y R5/2)細砂質土混炭・焼土、その上2層

は住居址内埋土と同じである。カマド中央部からは、須恵器の高杯が杯部を下にした状態で出土した。この高杯は二次焼成を受けておらず、住居を廃棄したときに共に廃棄された可能性がある。カマドの西脇には幅0.7m、深さ0.1mの方形状土壇がある。(有井)

805-O D (図版41、写真図
版44・57)

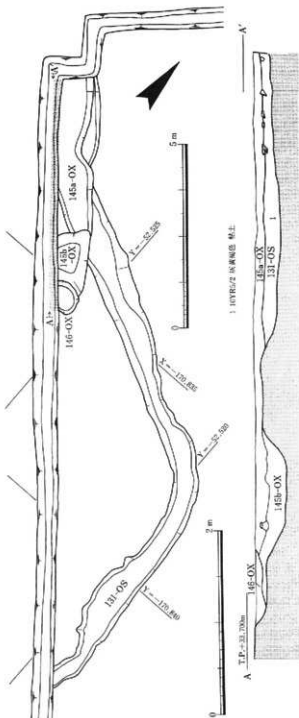
L12R X付近に位置する。南西部の約半分が調査区外におよぶため、全容は明らかにできなかったが、一辺約4mの隅丸方形を呈する竪穴住居址と考えられる。北西辺の中央部付近では、床面の一部に焼けた痕跡が認められた。北東辺に溝状に遺存している部分は、805-O D以前に存在し竪穴住居址の可能性はある。

出土遺物には6世紀後半の須恵器杯蓋・杯身がある。(白井)

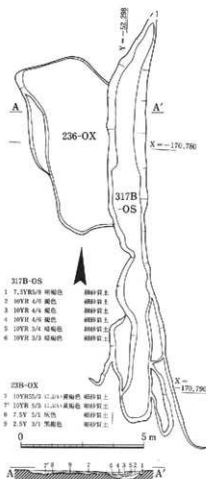
131-O S (第34図)

L18 I L地区を中心として、地山上面で検出した溝状遺構である。南から北に延び西北西に折れ曲がっている。中世の水田跡で削平されており、本来の形状を推定できない。確認された長さは全長約18m・幅1mを測る。深さは北では0.7mを測るが、南の端では浅くなりわずかに確認できるほどである。土層堆積は単純である。

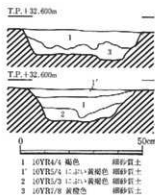
遺物がわずかに出土し、それからみた遺構の時期は6世紀後半と考えられる。(豊岡)



第34図 131-O S平・断面図



第35図 317B-OS平・断面図



第36図 778-OS断面図

317B-OS (第35図、写真図版45・55・57)

L13RA区付近に位置する。長さ約6.70m、最大幅約1.60mの溝である。この溝は236-OXを切っている。また、この溝は778-OSにつながる可能性がある。

遺物としては、6世紀後半の須恵器杯身・杯蓋・甕が多数出土している。(白井)

778-OS (第36図、写真図版56・60)

L12地区の地山上面で広く検出した溝状遺構である。確認した総延長73m、平均的な幅0.9m、深さは0.25mである。793-OD・803-ODを切る。ほぼ直交するように枝別れしており、いくつかの方形区画を作っている。北端は土取りによって、遺構面自体が失われているため不明である。溝内の堆積はどの地区でもほぼ類似しており、ほぼ同時に埋没したものと考えられる。有機土層がみられないことから、引水を目的とするよりも区画溝の性格が強いと考えられる。

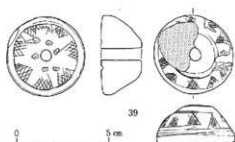
遺物は793-OD北付近から須恵器杯蓋(620)、須恵質竈壺(625・626)などが出土している。出土遺物からみた遺構の年代は6世紀後半である。竈穴住居址に後出し、掘立柱建物に先行する。この区画に伴う建物は確認できなかった。

1610-OS (第37図、写真図版49)

L07KA地区を中心に地山上面で検出した溝状遺構である。遺構の本体は調査区外に延びている。土層は単的で、最大幅2m、深さ0.2mを測る。

出土遺物は須恵器のほか、立念調査の際に滑石製の紡錘車が出土している。径43mm、最大厚22mmを測る。側面と底面に複数の直線に区画された

中に斜格子紋で充填された鋸歯紋が描かれている。中央の貫通した孔の周囲に底面には6個の未貫通の孔が穿たれている。やや類似したものは岸和田市向山2号墳から出土している。遺物(629~631)から見た遺構の時期は、6世紀末と考えられる。(佐々木・豊岡)



第37図 1610-O S出土紡錘車

325-O G (図版42、写真図版46)

L13TD地区を中心として、地山上面で検出した古墳状隆起である。径8.5mを測る。中世の削平によって、遺構の上部を全く失っていたため、原形は推定の域を出ない。隆起の周囲に地山の再堆積土を溝溝様に確認した。また隆起の断ち割りでは、地山層内に見られるインポリューションによる層の乱れとは別に、おそらく盛り土によるものと考えられる層(6=10Y R6/4にぶい黄橙色細砂質土)を確認した。

この古墳状隆起は、木遺跡のある段丘上面の中世期における開発の際に、障害となっていたらしく、北から進んできた水田化はここで一旦途絶えている。そして幾条もの素掘り溝がこの古墳状隆起に取り付くように巡らされ、しだいに隆起部分を切り崩していったことが認められる。

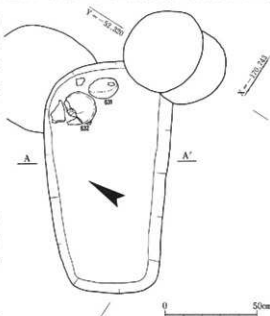
遺構に伴う遺物はない。(豊岡)

765-O U (第38図、写真図版46)

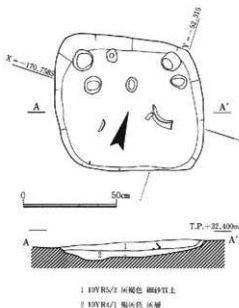
L12KT地区の地山上面で検出した土墳墓である。長さ1.26m、深さ0.16mを測る。幅は東小口部がひろく0.7mを測り、西小口部は0.5mを測る。検出の際、地山面を削り過ぎたため上部を失ってしまった。

埋上層は単純であり、木棺痕は確認されていない。

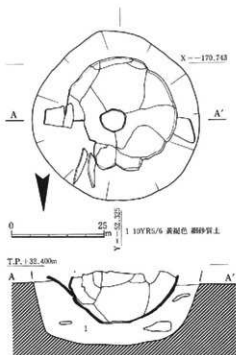
東の小口部には提瓶(662)・平瓶



第38図 765-O U平・断面図



第39図 464-00平・断面図



第40図 600-00平・断面図

(661) が置かれていた。平瓶は口縁を失った状態で、遺構に入れられたものと考えられる。

出土した遺物からみた遺構の時期は6世紀中葉と考えられる。 (豊岡)

464-OG (第39図)

L12OU区に位置する。一辺の長さ約0.70mで、隅丸方形を呈する土壌である。深さは最大0.08mで、上層、下層ともに炭・焼土を多量に含んでおり、南東隅付近の床面は焼けしまっている。床面には6つの浅い窪み状のビットが存在しているが、これらには焼けた形跡を見うけない。なおこの土壌は778-O Sを切っている。

出土遺物には土師器甕の口縁部(674)がある。6世紀後半のものである。(白井)

600-OO (第40図)

L12KSに位置する円形の土壌である。規模は東西径0.46m、南北径0.45m、深さ0.21mである。778-O Sを切る。

土壌内には須恵器甕が底部を穿孔し、正立状態に据えてある。この甕の口縁部は、須恵器甕底部内側より出土したが、肩部付近は欠けている。

埋土は炭化物を含む黄褐色(10YR5/6)細砂質土である。(有井)

611-OX (第41図)

L12KR付近に位置する不定形土壌である。規模は最大径0.70m、短径0.50m、深さ0.21mである。

埋土は明黄褐色（10Y R6/6）シルトである。土
 壌内には炭化木材が2個体、ほぼ平行にN-35°-
 W方向で出土した。

他に遺物は出土していない。時期は奈良～中世の
 間と考えられる。（有井）

236-O X（第42図、写真図版45）

L13U A区に位置する不整形の土壌である。残存
 している部分の最大幅は約7mある。埋土に灰・焼
 土を多く含んでおり、特に底の一部に炭・焼土が非
 常に多く堆積している。

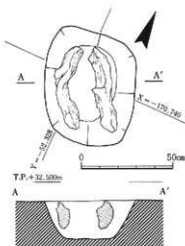
遺物は須恵器および上師器の細片ばかりであるが、
 317B-O Sとの切り合い関係からみて6世紀後半
 を下らない時期のものである。そのほか石斧（40）
 が1点出土している。両刃の刃が付けれられているが、
 身の部分は粗く加工しただけで、磨かれてはいない。
 混入遺物であり、時期は不明である。（白井）

790B-O X（図版43、写真図版48・61～63）

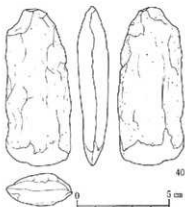
790B-O Xは不整な円形の土壌である。断面は
 レンズ状を呈する。灰色、淡灰色の泥土が堆積し底
 部付近には焼けた木片、焼土少量が埋没している。

遺物は底部から東肩口、南肩口にかけて集中して
 堆積している。遺物は完形に近いものが多く、東側の片口には蓋をしたままの短頸壺が横
 倒しの状態で埋まっているのを検出した。遺物は、直接土壌に投げ込まれたか、周辺部に
 置いてあったものが転がり込んだ可能性がある。土壌の中の土は周辺の土とは異なり、水
 溜の底に堆積するような有機質の粘質土であることから、この遺構が池状の遺構であった
 ことも推定できる。

出土した遺物（632～657）は須恵器ばかりで、杯、壺、壺蓋、提瓶などの器形がある。
 この遺構の上層には畑状の遺構があったが、L12EQ、L12ER、L12FQ、L12FRな
 どから出土している須恵器のなかには、本来この遺構に所属していた可能性のあるもの
 がある。（吉川）



第41図 611-O X 平・断面図



第42図 236-O X 出土石斧

1598-OX

L07KA地区を中心として確認した円形と考えられる土壌である。現存径2.06m、深さ0.05mを測る。

土層堆積は単純である。須恵器杯身(630)が出土している。遺物からみた遺構の時期は、5世紀末である。(豊岡)

1615-OX

L07KA地区で確認した長方形の土壌である。長さ2.26m、幅0.9m、深さ0.12mを測る。土層堆積は単純である。検出面から見て、古墳時代の遺構と考えられる。(豊岡)

C 奈良・平安時代の遺構

400-OB (図版44)

L12TY地区を中心として確認した掘立柱建物である。桁行3間×梁行2間(4.54m×3.12m)の南北棟である。柱痕跡はない。

734-OB (図版45)

L12KR地区を中心として確認した掘立柱建物である。桁行は調査区外に延びているために不明である。ただし立会調査の際に北側の桁行にのる柱穴が確認されており、あるいは5間×2間の東西棟になると考えられる。梁の中通りが中央より南にずれている。柱間の距離は、柱痕跡が認められたもので以下の通りである。桁行では738-OP・739-OP間で、1.80mを測る。梁行は736-OP・737-OP間で1.84mを、737-OP・738-OP間で、1.68mをそれぞれ測る。

916-OB (図版46)

L06IX地区を中心として確認した掘立柱建物である。1579-OSを切る。東西棟であるが、調査区外に延びているために規模は不明である。桁行3間以上、梁行2間を測る。西に拡張されたとも考えられる。

958-OB (図版47)

L06JY地区を中心として確認した掘立柱建物である。969-OSを切る。桁行3間、梁行2間(5.90m×3.70m)の南北棟である。柱痕跡の残るものはない。南東端の柱穴は、957-OSに切られて残っていない。

1052-OB (図版48)

L07MA地区を中心として確認した掘立柱建物である。桁行4間、梁行2間(8.18m×

3.19m)の東西棟である。南側桁行の西から2本目の柱穴は、957-O Sの底で痕跡として確認した。

1220-O B (図版49)

L06 O Y地区を中心として確認した掘立柱建物である。立会調査の結果、桁行3間、梁行2間(6.11m×4.09m?)の東西棟と考えられる。検出面が砂礫層であったのと、近世の削平が激しかったために、明確に柱穴を検出したとはいえない。北西端の柱穴もそうであるし、南東隅の2046-O Pも砂礫層に染みこみのようにして検出している。本来のピットの形をなんらか反映したものと考えたい。梁の中通りが中央より南にずれている。957-O Sに切られている。 (豊岡)

1240-O B (図版50、写真図版49)

1240-O Bは梁行2間、桁行5間の掘立柱建物である。推定の柱芯々間の計測値は東西4.80m、南北10.30mの規模である。掘り方は今回検出したなかでは最大で、一辺1mを超えるものが大半である。しかし、掘り方や建物規模のわりに底がない。建物の規模の割に掘り方が大きいなどの特徴がある。

建物の西側に溝(1051-O S)があるが、北側の柱穴列をこの建物に付随するものと考えた場合、この溝は建物より古いことになる。また北側の柵列風の柱穴群をこの建物と無関係と考え、溝と建物が同時代と想定した場合でも雨落ち溝にしては柱に近すぎ、建物に接近し過ぎているのが問題である。この建物の西側の柱穴列に重複するようにして南北方向の柵列状の遺構(1181-O F)が検出されている。1051-O Sはこの柵列状の遺構に伴う溝と考えられ、建物に伴う溝はL06地区とL07地区の境界を南北に走る溝(969-O S)が建物に伴うものと推定している。

この建物の柱穴から出土した遺物は奈良時代と推定できる微細な土師器片だけで、遺物から時期を決めることはむずかしいが、柱穴は奈良時代の須恵器、土師器を含む整地層を掘り込んでいること、平安時代前期後半の遺物を含む遺構が上層から掘られていることなどから平安時代前期の遺構と考えることが出来る。この時期に相当する遺物は976-O O出土の灰軸陶器のほか、1395-O X出土の緑釉香炉(758)やL07 V J付近にある自然流路(1469-O S)から出土した緑釉の皿(768)など、広く一般に普及したものもある。

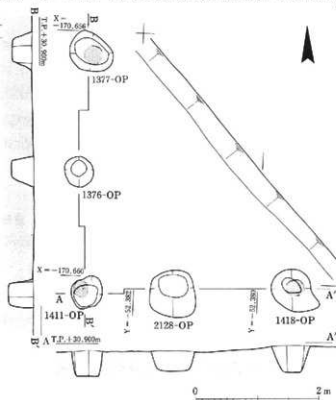
建物の方位は第VI座標系の北より少し東に振れているが、基本的に南北に長い建物である。この建物の周辺には建物と同様の南北方向の地割りが認められるが、この地割り方向は山直一帯に見られる畦畔とは異なるものである。 (古川)

1246-O B (図版51)

L07OC地区を中心として確認した掘立柱建物である。桁行3間、梁行2間(6.28m×4.87m)の東西棟である。柱間の距離は柱痕跡が認められたもので、以下の通りである。桁行では、1342-O P・1347-O Pで1.60m、1246-O P・1394-O Pで1.54mを測る。梁行では1347-O P・1585-O Pで2.14m、1246-O P・1585-O Pで2.00mを測る。梁行の西端の間合いが狭い。

1248-O B (図版52)

L07OB地区を中心として確認した掘立柱建物である。1240-O Bを切る。桁行3間、梁行2間(5.92m×3.94m)の南北棟である。総柱の建物であり、1370-O Pには柱痕跡に接して幼児頭大の石が置かれていた。柱痕跡から見た間合いは、桁行では1361-O P・1364-O Pで1.90mを測る。梁行では、1252-O P・1259-O Pで1.94m、1259-O P・1275-O Pで2.12m、1364-O P・1385-O Pで1.96m、1361-O P・1370-O Pで1.70mを、1370-O P・1380-O Pで2.08mをそれぞれ測る。桁行中央の間合いが広い。



第43図 1377-O B平・断面図

1377-O B (第43図)

L07OE地区を中心として確認した掘立柱建物である。立会調査の結果から見て、桁行は3間、梁行は2間(5.25m前後×3.82m)の東西棟と考えられる。

2060-O B (図版53)

L07QF地区を中心として確認した掘立柱建物である。桁行4間、梁行2間(7.72m×4.44m)とも、あるいは3間×2間と考えられるが、桁行北端の間合いが広く疑問点が残る。西の桁行は近

世の削平によって、砂礫層への痕跡として確認したため、掘方の規模は不正確である。また梁の中通が中央より東にずれている。柱痕跡から見た柱間の距離は、桁行の2064-O P・2065-O Pで1.34mを測る。

1602-O F (図版38)

L07LB地区で確認された櫛状の遺構である。東西に延びて調査区外に至る。柱穴の掘り方はいずれも大型のもので1240-O Bのものに近い。

須恵器土師器の破片が出土しており、平安時代のものと考えられる。

921-O S (図版38、写真図版51・74・75)

L06HU地区を中心として確認した東西に走る溝遺構である。1578-O Sを切る。907B-O Sに切られ、また両端が調査区外に延びているために、規模は不明である。土層は単純である。

遺物は溝肩からまとまって出土した(692~710)。土師器杯・碗、須恵器杯・甕のほか、硯や緑釉の碗・皿が多数出土している。

969-O S (図版38、写真図版76)

L06MY地区を中心として確認した南北に走る溝遺構である。北端は調査区外に延びており、南は近世水田によって切られている。1052-O B・1220-O B・1598-O X・1615-O Xを切る。残りのよい部分で幅2m、深さ0.25mを測る。堆積土は2層に分けられる。

遺物は若干出土しているが、時代を決めるようなものはない。

1051-O S (図版38、写真図版76)

L07MA地区を中心として確認した南北に走る溝遺構である。北端は曖昧に終わっている。南は近世水田によって切られている。浅く小規模なものであり、幅0.6m、深さ0.05mを測る。土層堆積は単純である。

遺物は若干出土しており、奈良時代の遺物とともに平安時代と考えられる小片がある。

1578-O S (図版38)

L06GV地区を中心として検出した溝遺構である。両端が調査区外に延びているため全容は不明である。北から流れてきて緩やかに90°折れ曲がり、東に延びる。幅3.08m、深さ0.44mを測る。土層堆積は単純であり、灰黄色(2.5Y6/2)砂質土である。

遺物が若干出土しており、小片からみて平安時代と考えられる。

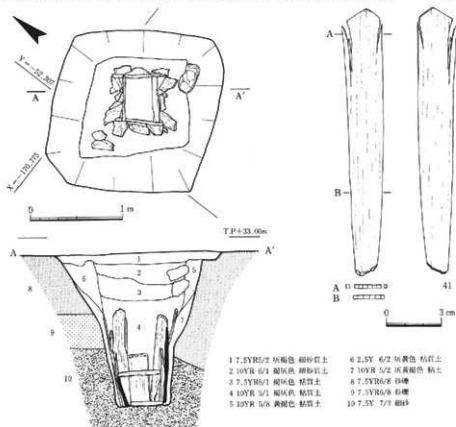
1579(3020)-O S (図版38、写真図版68・71)

L06HX地区を中心として確認した東西に走る溝遺構である。西端は調査区内で終わっ

ているが、東端は調査区外のため不明である。幅1.6m、深さ0.44mを測る。土層堆積は単純で、暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土である。立会調査の際に、この溝の延長部分(3020-OS)を確認した。この時、長岡京期の遺物が多数出土している。(佐々木・豊岡) 251-OW(第44図、写真図版52・68)

L12S X区に位置する。一辺約1.80mの方形掘り方に、長辺約0.70m、短辺約0.50mの方形木組をもつ井戸である。木組は、板材を縦方向に組み、それを横棧で保持している。横棧は向かい合う縦板の間に挟まれる形で支えられている。埋土は方形木組の痕跡を示すかのように、中央部分に粘土を主とする堆積層が厚く認められ、木組の外の掘り方との間に当たるところには灰黄色系の粘質土が充填されていた。なお、この井戸は805-ODを切っている。

遺物としては須恵器壺、土師器碗が上層の埋土内から出土している。また畜串(41)1点、および加工痕のない小枝数点、瓢箪の表皮が井戸底から出土している。(白井)



第44図 251-OW平・断面図、同出土畜串

1747-O X (第45図、写真図版53・75)

L24B D地区で確認したピットである。一辺0.75m、深さ0.26mの方形を呈する。

土層は2層に分けられ、いずれも細片化した多くの土師器や、須恵器片が出土した。

出土遺物からみた遺構の時期は平安時代と考えられる。(豊岡)

1395-O X (第46図、写真図版47・70・73)

L07N B地区で検出された円形の土壌である。直径0.78m、深さ0.23mである。遺構を検出する際には、輪郭が不鮮明であったが、掘り進むにしたがって輪郭は明瞭になった。

土壌の中には灰色味を帯びた黄褐色の泥土が堆積していた。

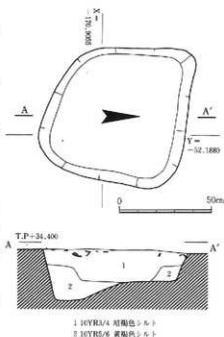
遺物(図版64)は黒色土器3個体(765~767)、土師器6個体(759~764)、緑釉陶器香炉1個体(758)を検出している。

遺構の性格は限定できないが、遺構の年代は含まれている土器の年代から9世紀後半~10世紀に所属すると推定できる。

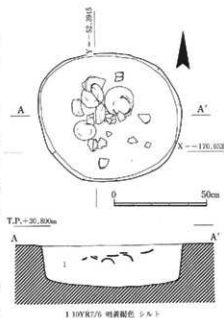
1240-O Bなどが廃絶した後、一旦整地を行ない、整地層を掘り込んでこの遺構が形成されたために、遺構検出の際、輪郭が不鮮明になったものと考えられる。したがって本遺構の年代はこの地区で検出した建物、1240-O Bなどの年代を決める資料である。(吉川)

1401-O X (第47図、写真図版77)

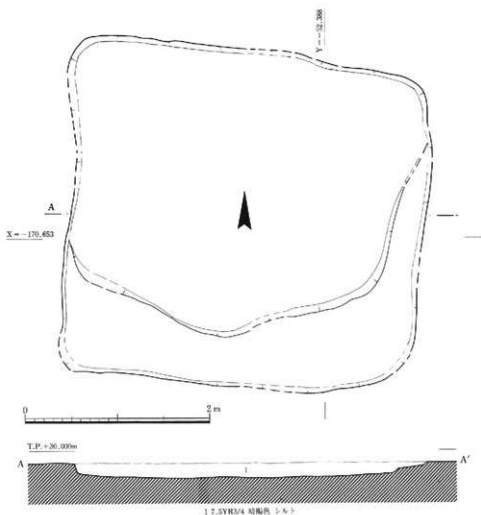
L07L C地区を中心として検出された、一辺約3.8m、残存の深さ16cmを測る方形の落ち込み状の遺構である。第V層上面を整地した際に



第45図 1747-O X 平・断面図



第46図 1395-O X 平・断面図



第47図 1401-O X 平・断面図

埋没している。L.07地区の建物群はこの遺構に後出すると理解できる。

出土遺物（図版63）には、須恵器杯蓋や土師器高杯・甕などがあり（717～722）、この遺物の年代から遺構の時期は奈良時代前半と考えられる。（豊岡）

D 中世の遺構

1529-O W（第48図、写真図版52）

L.06 S C地区で確認した井戸である。平面形は南北に長軸をとる楕円形を呈する。中央の下半は円筒形になっている。平面の長軸径2.44m、円筒部の径0.98m、深さ1.28mを測

る。井戸の底には幼児頭人の礎が敷かれており、この上に接するようにして、曲げ物の井戸筒がわずかに残存していた。

出土遺物はわずかであり、時代の判明するものはなかったが、中世の所産と考えられる。(豊岡)

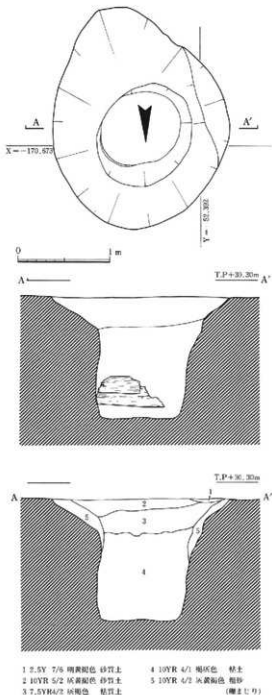
第4節 遺物の検討

山直北遺跡からは弥生土器、土師器、須恵器、陶器、輸入陶磁器、瓦器、埴輪、土製品、瓦、瓢箪、畜串などが多数出土している。

弥生土器は326・817-〇〇から出土している(562~580)。いずれも第V様式の新しい段階に属する。また、817付近には古墳時代と推定される古い整地層があり、この中にも第V様式の底部が含まれている。

古墳時代の土器類は全て須恵器出現以降のもので、杯・杯蓋・壺・甕・器台・瓶・甗などの器形がある。5世紀末から7世紀まで時期幅があるが、出土した土器の量的中心は6世紀後半代にある。

1598-〇X出土の杯(660)は今回検出した須恵器の中では最も古いもので、底部は回転を利用しないヘラケズリ調整をしている。



第48図 1529-〇W平・断面図

790-OX出土の須恵器は一括資料かどうかは問題があるが、埋没の時期が同一である可能性は高い。確認できた器形は杯(635)、杯蓋(632)、高杯(636)、短頸壺(637~640)、短頸壺蓋(633・634)、広口壺(641~644)、細頸壺(645~647)、台付壺(648~650)、甕(651・652・654~658)、大型壺(653)、蛸壺(659)などがある。このうち(633)の蓋と(637)の壺は蓋が被さったような状態で検出されているため、一組であった可能性がある。また790-OXの上層に奈良時代の田もしくは畠とおもわれる遺構があり、この中に含まれている遺物(779・782・816)などは本来、790-OXの一群に所属していた可能性がある。

第四章 総 括

遺 跡

今回の調査は工事発注の都合で山ノ内遺跡の南半分（B地区）と山直北遺跡を同時に調査した。調査の結果、山ノ内遺跡は縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、鎌倉時代、室町時代にまたがる複合遺跡であり、また山直北遺跡は弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉時代、室町時代の複合遺跡であることが明らかとなった。

縄文時代の遺構、遺物は質量共に山ノ内遺跡に集中し、山直北遺跡ではほとんど確認することができなかった。山ノ内遺跡での遺物の出土は、層序の所で明らかにしたとおり、調査区の東に広がる段丘上から流出したものである。調査区で貯蔵穴など村の周囲にあるべき遺構が検出されていることと考えあわせると、おそらく今回調査されなかったこの段丘面上には、縄文時代の集落遺構が広がっているものと考えられる。またこの縄文時代の村のひろがりは段丘下での遺物分布からみて、南の山直北遺跡方向にはなく現在の府宮田治米団地一帯の方向に続くであろうと考えられる。

弥生時代の遺構は、中期後半の時期から確認された。段丘下の山ノ内遺跡では住居址を確認し、段丘上の山直北遺跡では土壇および土壇墓を確認した。このことから段丘上の沖積地を可耕地としてその周辺に住居を営み、利用価値の少ない段丘上を墓地としたものと推定したい。また第Ⅳ様式後半及び第Ⅴ様式後半期の集落はの在り方は散村状であったことが、北隣の山ノ内遺跡A地点の調査成果と合わせて指摘できる。

今回検出された弥生時代住居958-ODは、住居掘方を検出した点で注目される。近畿地方では住居址の遺存状態がよくないために注意されることがなかったが、他の地方の例と同様に丁寧な住居建築が行なわれていたことが明らかであり、なお類例を待ちたい。

古墳時代になると、集落は段丘上の山直北遺跡で確認できる。やはり散村状に近いが、堅穴住居の時期から掘立柱建物が伴うようになる時期の間に集落区画の溝を掘削するなど、集落のありかたに変化が認められる。こうした集落区画は、和泉地域の平野部の中心では逸早く5世紀末から始まっているが、山直北遺跡では遅れて6世紀後半のことである。この集落区画に伴う遺構は調査区の南にあると推定され、明らかではない。山直地域での古墳時代集落が変容していく姿は、今後の資料に期待されるところである。

奈良・平安時代にはL12・13地区とL06・07地区で建物群を確認した。前者は奈良時代

後半から平安時代前半に中心を持ち、後者は平安時代を通じてのものである。

L06・07地区で確認された建物群は、969-OSとの切り合からみて二大別期に分けられる。第1期は、1052-OB・1220-OBがあげられ、1246-OB・1377-OBなども可能性がある。第2期は、916-OB・958-OB・1240-OB・1248-OBなどがあげられ、2060-OBも可能性がある。

年代の根拠としては第1期は、1579-OSからの出土遺物によって、8世紀末から9世紀初頭ごろに年代の一時点があると考えられる。さらに建物のもつ方位から、第1期がいくつかの小期に分けられると考えられる。第2期の年代は、それに伴う921-OSからみて、9世紀後半から10世紀に中心を持つと思われる。また明らかに1248-OBが1240-OBを切ることから、第2期もいくつかの小期に分けることができると考える。

このほかにL06地区に中心を持つピット群は、おそらく中世の建物である可能性が高い。遺構の連続性は不明であるが、この地区が中世にも居住区であったと考えられる。

ところでこれらの建物の方位は現在の畦畔の方向と異なり、座標系の北に近い方位を有している。しかも建物と方位を同じくする地割りも、調査区の周囲では近現代にまで引き継がれおり、たとえば今回検出した江戸時代喻栗も、この地割りにのっている。つまり発掘地周囲の地割りは、山直郷に認められる条里地割りとは方向を異にしているのである。

この調査区の周囲にいまも残る方形の地割りが、建物と同時代の条里と同一であると仮定すると、当時のこの地域の条里の方向を復元する手掛かりになる。また、本来の条里と同方向ではないと仮定すると、今回検出した建物群が周辺の地割りを無視して建てることのできる建物、もしくは建てなければならない建物である寺院・郡衙、あるいはそれに付随する建物である可能性が予想されることになる。

今回検出した遺構は時期的に律令体制の緩み始める時期の所産であり、郡衙やその付属施設だけではなく、荘園の管理者や国衙、郡衙の幹部になっている地元豪族の居館である可能性も捨てきれものではない。山直北遺跡の南にあたる三田遺跡の北部でも同様な地割りが部分的にあるところがあり、あるいは山直北遺跡とあわせて本来一体のものであった可能性も指摘できる。したがって山直北遺跡を中心としてその周囲に広がる南北の地割りは、何棟もの建物が立ち並ぶ大きな区画であったことを推察するにあながち無理はなく、今後の調査に大いに期待がかけるところである。

(吉川・豊岡)

遺物

石器

山之内遺跡から出土した石器は、その量の膨大さに満足のいく整理はできなかった。そのうちなかで、基本的な点で重要であると考えられることをまとめておく。

剥片生産技術として注目されるのは、剥片素材の石核が定量的に確認されたことである。しかも160-OPの資料は、石核に転用される剥片が生産される過程を接合関係から明らかにした点でこれからの基礎資料となろう。また剥片素材の石核の一部に典型をみた、小形剥片を連続的に生産する石核の存在は石鏃の生産と深く係っていることが理解される。また石鏃に限らず出土した剥片の分量が示すところは、有用な剥片生産が目的とするツールと深く結び付いているということである。縄文時代の剥片生産技術は一律に低く見られがちであるが、確かに旧石器の技術とは比べものにならないまでも、有効な剥片生産技術として存在していることは確かである。

ツールのなかでは楔形石器の多さが目をひく。石鏃も多数が検出され、2800点を越える。おそらく縄文遺跡の発掘では、本来これに似た遺物の分布があると考えられる。

石材については、基本的には近隣の地区で入手できる素材を用いている。しかし黒曜石やヒスイ・メノウなど、広い交流を前提としなければならない遺物もある。しかも黒曜石やメノウの残った礫面からみて、大きな労力にもかかわらず小さな素材礫しか入手できなかったことが推察される。たとえば縄文時代晩期にかぎってみれば、黒曜石が出土した近隣の遺跡としては奈良県橿原遺跡があげられ、メノウでは大阪府四条畷市更良岡山遺跡があげられる。またヒスイでは前記二遺跡の他に大阪府東大阪市馬場川遺跡・和歌山県日高町和佐遺跡があげられる。これらの石材の分布は近畿地方縄文時代の、他地域との交流を考えるうえで重要な資料となろう。

(付章) 石材について

奥田 尚

石材を肉眼で観察した。識別した石種は斑レイ岩、流紋岩A・B・C、粗面岩、輝石安山岩、流紋岩質溶結凝灰岩、酸性凝灰岩?、玄武岩質凝灰岩、砂岩A・B・C、泥岩、玄武岩質凝灰岩質片岩、砂質片岩、点紋片岩A・B、泥質ホルンフェルス、蛇紋岩、メノウ、滑石、石英である。

各石種について述べる。()内は図版の番号。ただしSではじまるものは登録番号であり、図版には掲載していない。

斑レイ岩(S15060)；円礫の破片で、色は黒である。造岩鉱物は長石、角閃石、輝石である。長石は白色、粒径が0.5~0.7mm、量が僅かである。角閃石は黒色、粒径が0.5~0.8mm、量が非常に多い。輝石は黒色、粒径が0.5~0.7mm、量が僅かである。

流紋岩A(412)；色は白灰色である。造岩鉱物は石英、長石、黒雲母である。石英は無色透明、粒径が0.3~0.5mm、量が僅かである。長石は無色透明、粒径が0.3~0.5mm、量がごく僅かである。黒雲母は黒色板状、粒径が0.3~0.7mm、量が僅かである。石基は白色、ややガラス質である。

流紋岩B(543)；色は表面が赤褐色の場合もあり、内部は灰色である。斑晶が認められず、石基は灰色、ガラス質である。

流紋岩C(写真図版36下-左下)；板状節理が顕著な板石を割った石である。造岩鉱物は石英、長石、黒雲母である。石英は無色透明、粒径が1~4mm、量が多い。長石は無色透明、粒径が0.5~1.5mm、黒雲母は黒色板状、六角形、粒径が1~1.5mm、量がごく僅かである。石基は褐色、ガラス質である。発泡孔がごくごく僅かで、孔径が1~8mmである。

粗面岩(544)；色は灰色、礫形が円である。軽石粒は白色、粒径が5~8mm、量が僅かである。造岩鉱物は石英、長石である。石英は無色透明、粒径が1~1.5mm、量がごくごく僅かである。長石は白色、粒径が5~10mm、量が僅かである。石基は灰色、ガラス質で、発泡孔がある。孔径は1~1.5mmである。

輝石安山岩(542)；色は黒色で、一部に風化面がみられる。造岩鉱物は長石、輝石である。長石は白色、無色透明、粒径が0.3mm以下、量が多い。輝石は黒色、粒径が0.2~0.3

■、量がごくごく僅かである。石基は黒色、ガラス質である。

流紋岩質溶結凝灰岩 (554) ; 色は灰白色、礫形が円である。表面には鉱物粒 (長石) のぬけた穴がある。溶結が顕著である。造岩鉱物は石英、長石である。石英は無色透明、粒径が0.5~1.5mm、量が僅かである。長石は白色、粒径が0.5~3mm、量が中である。基質は灰色、ガラス質である。

酸性凝灰岩? (525) ; 色は青灰色で、透明である。ガラス質である。

玄武岩質凝灰岩 (528) ; 色は灰緑色である。僅かに片理がある。造岩鉱物は長石、輝石である。長石は無色、白色透明、短柱状で、粒径が0.5~1mm、量が僅かである。輝石は濃緑色、黒色、粒径が0.3~0.7mm、量が僅かである。基質はややガラス質である。

砂岩 A (536, 538, 545~549, 551~553, 555, 556, 559~561) ; 色は灰色、礫形が円である。構成粒は流紋岩?、チャート、石英、長石である。流紋岩は?白色、礫形が亜角、亜円、粒径が0.5~1.5mm、量が僅かである。チャートは茶褐色、黒色、礫形が角、亜角、粒径が0.5~2mm、量が中である。石英は無色透明、礫形が角、粒径が0.5~1.5mm、量が多い。長石は白色、礫形が亜角、粒径が0.5~1.5mm、量がごく僅かである。

砂岩 B (529) ; 色は灰色である。構成粒は石英である。石英は無色透明、粒径が0.2~0.3mm、量が多い。

砂岩 C (537) ; 色は青灰色で、礫形が亜円である。僅かに片理がある。構成粒は中粒である。

泥岩 (526) ; 色は赤色で、緻密である。

玄武岩質凝灰岩質片岩 (25, 531) ; 色は灰緑色である。片理が顕著である。角礫岩状の場合もある。造岩鉱物は長石、輝石である。長石は白色、やや粒状で、粒径が0.5~1mm、量が僅かである。輝石は黒色、やや球状、粒径が0.5~0.7mm、量が僅かである。基質は緻密で固い。

砂質片岩 (514) ; 色は淡青灰色である。片理が僅かにある。石英、金雲母が見られる。石英は無色透明、粒状、粒径が0.2~0.3mm、量が多い。絹雲母は細粒で僅かである。基質はややガラス質である。

点紋片岩 A (558) ; 色は青灰色である。片理が顕著である。長石は白色、球状で、粒径が0.2~1mm、量が多い。基質は青灰色、緻密で固い。

点紋片岩 B (S 15012) ; 色は暗青灰色である。片理がある。長石は白色、球状で、粒径が0.2~1mm、量が多い。

泥質ホルンフェルス(530)；色は黒色、暗灰緑色である。長石の細粒斑晶がある。粒径は0.2～0.5mm、量が多い。基質はやや粒状である。

蛇紋岩(532～534)；色は青灰色である。片理が顕著である。白色の透閃石脈が多くみられる。

メノウ(破片)；色は淡黄色透明である。リーゼガング現象がみられる。色がついていることから焼成した可能性がある。

滑石(39)；色は淡茶色である。部分的に0.5～1mmの黒色粒状の物が集合してレンズ状をなす。

石英(524)；色は白色、透明である。

石材の採集地を選跡から近地点で求める。近地点にて同様の岩相を示す岩石の分布地を石材の採取地とする。

流紋岩A・Bは泉南酸性岩の岩相の一部に類似する。加工石で原石の形が不明なものもあるが円礫もみられる。円礫は当付近の河川礫というよりも海岸礫に似る。

流紋岩Cは岩相的に奈良県宇陀郡一帯に広く分布する室生火山岩の岩相の一部に酷似する。

輝石安山岩は岩相的にサメキトイドに属するものである。二上山付近や香川県北部や当選跡付近の礫層等にもみられ、場所を限定するに至らない。

酸性凝灰岩・泥岩は、紀ノ川南方の秩父帯や四万十帯の地層中に部分的にみられる岩相に酷似する。紀ノ川の川原石中にも見られる。

玄武岩質凝灰岩・玄武岩質凝灰岩質片岩・砂質片岩は紀ノ川流域の三波川帯弱変成岩の岩相の一部に酷似する。和歌山市内の紀ノ川には川原石としてもみられる。

蛇紋岩は透閃石を多く含むことから和歌山市東方の舟戸付近の蛇紋岩の岩相に酷似する。川原石として紀ノ川ではみられないことから、舟戸周辺が採取地と推定される。

滑石は舟戸付近や兵庫県養父郡一帯に多く産する。舟戸付近のものであろうか。

砂岩は岩相的に和泉層群の砂岩の一部に酷似する。礫形は円が多いことから海岸の礫が推定される。選跡近くの海岸から採石したのであろうか。

石材の採石には選跡近くの海岸、和歌山市内の紀ノ川等が主であり、かなり遠方までいかなければ得られないメノウのようなものもある。

各遺物観察・データ表

注

- 遺物観察表及び遺物のデータ表は担当者から提出されたものを、資料係で一覧表の形に再編集したものである。
- 再編集に当たって項目の削除、追加を行っているため、一部担当者の意図と異なる部分があるかもしれない。
- 石器の観察表、データ表のうち地区名の確認ができなかったものは地区不明の欄に含めた。
- 縄文土器の時期判断では、渡辺昌宏氏の御教示を得た。

第2表 山ノ内遺跡B出土縄文土器データ表(1)

(法量の単位: cm)

遺物番号	地区	遺物番号	法量 幅×高さ	色調	特徴	備考
4	K08RA	2012		外	口縁部LR模田輪・胴部LR縦田輪縄文	中津式
5	K08RA	2012		外	流状口縁	中津式
6	K08RA	2012		外	流状口縁	中津式
32	K08BQ	228	6.1×6.3	内 におい・黄褐色	口縁	中津式?
43	K08BM	961	4.6×6.3	外 灰褐色	口縁	
44	K08TW	470	4.6×3.2	外 におい・赤褐色	口縁	
45	K08CX	001	4.0×3.4	外 におい・黄褐色	外側縄文	元住吉山1式?
46	L01TK	2番	3.9×4.0	内 におい・橙色	外面磨消し縄文・LR	*
47	L01LA	096	4.7×3.3	外 褐色		*
48	K08GV	516	4.2×3.6	外 灰白色	口縁部片屑状状態	*
49	L01LA	095	5.2×6.3	外 明黄褐色		*
50	K08LX	054	3.1×4.5	内 黒褐色		*
51	K08KX	001	5.7×1.5	内 黄褐色		*
52	K08KV	553	4.8×3.4	外 におい・黄褐色		*
53	—	25	3.8×3.3	外 黄灰色		*
54	L01OD	827	11.0×5.5	外 灰黄褐色	口縁 外面黒焼	元住吉山1～日式
55	L01ND	803	3.4×2.9	内 褐灰色	口縁 内面磨き	*
56	L01LA	096	7.7×6.0	内 におい・黄褐色	内面条痕	*?
57	K08W	400	8.8×8.6	外 黄灰色	口縁外面条痕	*?
58	K08KW	601	3.7×3.8	内 褐灰色	口縁	高賀原1～日式
59	K08KW	601	3.1×3.2	内 灰白色	口縁	*
60	L01LB	700	7.9×4.1	外 黒褐色	口縁	*
61	L01NA	851	3.9×3.3	内 褐色	口縁 生駒西縁成?	*
62	K08LY	671	3.5×3.9	内 黄灰色	口縁	*
63	K08KW	601	3.4×2.6	内 におい・褐色	口縁	*
64	K08KY	673	3.9×3.0	外 淡黄色		*
65	K08LX	089	口径27.0(復)	外 におい・褐色		高賀原1式
66	K08LX	088	口径23.0(復)	外 褐色		*
67	K08LX	088	口径31.0(復)	内 におい・黄褐色		*
68	K08LX	089	口径4.0	内 におい・黄褐色	36と同一個体	*
69	K08LX	086	10.8×11.7	内 におい・黄褐色		*
70	K08LX	089	3.9×5.7	外 におい・褐色		*
71	L01MA	093	口径40.0(復)	内 黒褐色	口縁	高賀原1～日式
72	L01MA	093	口径15.4(復)	外 灰黄褐色	口縁	*
73	L01MA	093	3.3×2.9	外 黒褐色		*
74	L01MA	093	4.0×3.7	内 褐灰色		*
75	L01MA	093	3.1×3.6	外 黒褐色		*
76	L01MA	093		内 灰黄色		*
77	L01MA	093	7.1×5.0	外 におい・褐色		*
78	L01MA	093	4.9×4.6	外 洗滌褐色		*

山ノ内遺跡B出土縄文土器データ表(2)

(法量の単位: cm)

遺物番号	地区	遺物番号	法量幅×高さ	色調	特徴	備考
79	L01MA	693	3.4×3.6	内 ぶい・褐色	口縁	最寛部1～2式
80	L01MA	693	4.1×4.9	内 ぶい・黄褐色		※
81	L01MA	693	5.9×5.5	外 緑色		※
82	L01MA	693	3.3×4.1	外 ぶい・黄褐色	研磨	※
83	L01MA	693	4.0×3.0	内 黒褐色		※
84	L01MA	693	2.1×3.6	外 ぶい・黄褐色		※
85	L01RE	949	1.7×3.0	外 灰黄褐色		※
86	L01MA	693	3.5×2.9	外 灰黄褐色		※
87	L01MA	693	直径2.6	外 緑色	底部	※
88	L01MA	693	直径3.6	外 暗赤褐色	底部	※
89	L01PC	3層	7.4×6.7	外 暗黄褐色		元住吉山1式
90	K05JY	3層	5.0×4.7	外 灰黄褐色		※
91	L01MA	3層	5.1×4.6	外 灰白色	外面染成	※
92	K05LX	3層	5.6×3.8	外 暗黄褐色	外面縄文	※
93	K05JY	3層	6.0×4.1	外 ぶい・黄褐色		※
94	L01OD	3層	3.9×3.3	外 灰白色	口縁染成	※
95	K05LX	3層	4.4×5.9	外 灰褐色	口縁染成	※
96	L01OA	3層	3.9×3.9	外 灰白色	口縁	※
97	L01LA	2層	3.9×2.5	外 灰白色	口縁	※
98	L01NA	3層	3.6×2.2	外 灰黄褐色	口縁	※
99	L01KA	3層	4.4×3.5	内 灰黄褐色		※
100	K05KW	3層	3.8×3.5	外 灰黄褐色	外面擬似縄文	※
101	L01RG	3層	7.5×5.3	内 浅褐色	外面押し込み?	※
102	L01OA	3層	5.3×3.6	外 灰黄褐色		※
103	K05KY	3層	3.3×2.8	内 灰白色		※
104	L01PB	3層	3.6×4.5	外 ぶい・黄褐色	口縁 口唇部斜み	※
105	K05LY	3層	6.8×5.7	外 暗灰色	口縁外面染成・擬似縄文 内面染成	※
106	L01PD	3層	3.8×4.8	外 灰黄色	口縁	※
107	L01LA	3層	3.9×5.5	外 灰白色	口縁	※
108	L01LA	3層	7.7×6.4	外 灰白色	口縁	※
109	L01RF	3層	4.1×5.0	内 灰白色	口縁	※
110	L01QC	3層	6.4×6.0	外 暗灰色	口縁	※
111	K05JY	3層	9.4×6.3	外 暗褐色		※
112	L01SD	3層		外 暗赤褐色	注口土器	※
113	L01MA	2層	7.7×8.5	外 ぶい・黄褐色	口縁突起部 押込工具による割欠	元住吉山1式
114	K05Y	3層	3.5×5.1	外 ぶい・褐色	口縁突起部 外面磨消し縄文	※
115	K05KX	3層	4.0×5.6	内 ぶい・黄褐色	口縁突起部	※
116	L01MA	3層	5.2×6.7	外 灰黄褐色	口縁突起部 外面磨消し縄文・割欠	※
117	L01TH	2層	4.9×4.5	内 灰色	口縁突起部 土曜器具正成	※
118	L01PA	2層	5.6×7.2	内 黒褐色	口縁突起部 器具正成	※

山ノ内遺跡B出土縄文土器データ表(3)

(法量の単位: cm)

遺物番号	地区	遺物番号	法量 幅×高さ	色調	特徴	備考
119	L010D	2層	6.3×3.9	外 黄灰色	口縁突起部	元住吉山1式
120	L010D	2層	5.3×4.4	内 黄褐色	口縁突起部	*
121	L010E	3層	5.4×3.0	外 黄灰色	口縁突起部	*
122	L010F	3層	5.3×2.1	内 黒褐色	口縁	*
123	L010C	3層	10.7×5.9	外 黒褐色	波状口縁肩部に巻貝圧痕	*
124	L010D	3層	7.8×5.1	外 黄灰色	口縁 内外巻痕	*
125	L010C	2層	6.3×5.9	内 黄褐色	口縁 巻貝による凹線	*
126	L010A	3層	11.6×6.4	外 淡黄色	口縁 波線凹線み	*
127	K050X	3層	5.2×5.8	外 にじみ・黄褐色	波線凹線み	*
128	L010C	2層	7.3×7.5	外 淡黄褐色	外周縁部凹み	*
129	L010C	3層	6.0×7.0	内 にじみ・黄褐色		*
130	L010QF	3層	4.0×3.2	外 黒褐色	縦線刻文	宮滝1式
131	L010C	3層	4.1×5.5	外 黒褐色		*
132	K050Y	3層	6.4×3.2	外 にじみ・褐色	外周削突	*
133	L010C	2層	4.6×2.6	外 黄褐色		*
134	K050Y	3層	8.4×5.3	外 黒褐色	波線凹線突	元住吉山11~宮滝1式
135	L010A	3層	7.2×6.2	外 にじみ・黄褐色		宮滝1式
136	K050W	3層	3.5×4.0	外 淡黄色	波状口縁 削突部	元住吉山11~宮滝1式
137	L010D	3層	7.0×5.3	外 輪状黄褐色	口縁	宮滝1式
138	K050X	3層	5.5×4.7	外 輪状オレンジ褐色	口縁 巻貝による凹線	*
139	L010A	3層	2.9×1.9	内 褐色	口縁	*
140	K050Y	3層	4.0×3.0	外 淡黄色	口縁 削突?	*
141	K050Y	3層	7.5×3.1	内 にじみ・黄色	口縁	*
142	L010D	3層	5.1×2.5	内 黄灰色	口縁 生駒西縁部に類似	*
143	L010T	3層	3.2×3.5	内 灰褐色	外周巻貝による圧痕	*
144	K050Y	3層	4.8×5.0	外 褐色	削突?	*
145	K050Y	3層	4.4×7.5	外 にじみ・黄褐色	口縁 内外周巻貝?による巻痕	*
146	L010L	3層	8.0×6.0	外 黒褐色	口縁 外周巻痕	*
147	L010A	3層	2.1×3.0	内 暗褐色	外周巻貝による圧痕	*
148	L010D	3層	口徑28.0(実)	外 にじみ・褐色	口縁巻貝による凹線・波状削突	元住吉山11~宮滝1式
149	K050X	2層	6.0×3.7	内 黒褐色	口縁巻貝による凹線・圧痕・波状削突	*
150	L010C	3層	6.9×4.5	外 黒褐色	口縁	*
151	L010A	3層	7.6×3.0	外 淡黄褐色	口縁 削突文	*
152	L010T	3層	3.8×3.3	外 にじみ・黄褐色	口縁 削突文・波線凹線み	宮滝1式
153	L010C	3層	6.4×4.6	外 淡黄褐色	口縁 巻貝による凹線	元住吉山11~宮滝1式
154	L010D	3層	4.5×3.5	外 灰色	唇部部に刻み判	宮滝1式
155	L010T	3層	5.2×5.5	内 にじみ・黄褐色	口縁内周削み	元住吉山11~宮滝1式
156	L010C	3層	12.4×9.3	内 暗灰黄色	口縁内周削み	*
157	L010C	3層	5.9×5.6	外 褐色	口縁内周波線 補修孔	*
158	L010A	3層	6.9×4.4	外 淡黄褐色	口縁内周削み	*

山ノ内遺跡B出土縄文土器データ表(4)

(法量の単位: cm)

遺物番号	地区	遺物番号	法量 幅×高さ	色調	特徴	備考
109	L01TJ	3層	5.6×3.0	内 にごい・赤褐色	口縁内面削み・沈線	元山吉山頂～宮滝Ⅰ式
100	L01OD	2層	3.8×1.9	外 にごい・褐色	口縁内面削み・沈線	※
101	L01PD	3層	5.8×3.2	外 にごい・黄褐色	外面巻貝圧痕	※
102	L01PD	2層	5.4×5.0	内 黄灰色	口縁外面棒状工具による削突	宮滝Ⅰ式
103	L01PB	3層	3.6×2.5	内 黒褐色	口縁	※
104	L01PC	2層	0.8×7.3	外 暗褐色	口縁 内面条痕	※
105	L01KA	2層	5.3×4.9	内 にごい・黄褐色	外面巻貝による凹線	※
106	K06LW	3層	6.2×3.2	外 黒褐色	外面巻貝による凹線・巻貝条痕	※
107	K06MY	3層	4.9×3.6	外 浅褐色		※
108	K06NX	3層	3.1×2.8	外 黄灰色	外面巻貝状の圧痕	※
109	K06W	2層	5.0×4.3	外 黄灰色	外面窪曲棒削突	※
170	K06JY	2層	4.6×4.8	内 灰白色	口縁	※
171	K06KY	3層	4.5×4.7	内 灰白色	口縁	※
172	K06KX	3層	4.8×3.2	内 紫褐色	口縁	※
173	L01OC	3層	11.2×4.3	外 灰黄褐色	口縁 外巻貝凹線・汗痕、持ち 内面条痕	※
174	K06KX	3層	9.7×7.9	外 灰色	内面巻貝圧痕	宮滝Ⅰ式
175	K06KY	3層	7.6×7.2	外 にごい・黄褐色		※
176	L01PC	3層	4.9×7.7	外 にごい・黄褐色		※
177	L01NA	3層	5.6×3.6	外 黄灰色	口縁 凹線内巻貝圧痕	※
178	L01PB	3層	3.5×3.2	内 黒色	口縁 下半条痕	※
179	L01NB	3層	—	外 灰白色		遺跡Ⅰ式
180	L01QD	3層	—	外 黒色	口縁 持ち目交差部	遺跡Ⅱ式

第3表 山ノ内遺跡B出土 石鏃観察表(1)

(単位: mm, g)

遺物番号	地区	遺層 階位	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考
201	K05GV	3層	20.5	18.5	2.8	0.6	Aa1	N
202	K05HV	2層	14.7	17.4	2.6	0.46	Aa1	N
203	K05KW	3層	14.4	17.0	2.6	0.49	Aa2	N
204	K05LY	2層	15.0	15.5	2.3	0.35	Aa2	N
205	K05MV	3層	17.2	15.0	2.3	0.41	Aa2	N
206	K05NW	2層	17.1	17.4	3.4	0.68	Aa2	N
207	L01OA	2層	22.2	16.5	2.5	0.55	Aa2	N
208	L01PA	2層	24.0	19.5	2.9	0.98	Aa2	N
209	L01QA	2層	19.5	18.7	2.9	0.75	Aa2	N
210	K06CQ	2層	26.4	19.8	3.5	1.33	Ab0	N
211	K06FO	2層	16.8	14.1	2.3	0.35	Ab2	N
212	K06LV	3層	18.7	16.3	2.5	0.56	Ab3	N
213	L01LA	2層	23.2	19.5	3.4	1.06	Ab3	N
214	L01PA	2層	18.1	13.5	3.7	0.58	Ab3	N
215	K06RU	4f	17.5	18.1	3.0	0.89	Ab3	N
216	K06X	2層	18.0	22.5	2.9	1.08	Aa2	N
217	K06DO	2層	18.8	15.6	3.5	0.63	Ba2	N
218	K06LX	2層	21.4	18.4	3.5	0.86	Ba3	N
219	L01LA	3層	13.8	14.9	3.0	0.48	Ba3	N
220	L01PA	3層	16.9	15.2	3.1	0.37	Ba3	N
221	K06CX	3層	11.5	12.3	3.5	0.22	Ba3	N
222	L01QR	3層	14.4	13.8	3.1	0.29	Ba3	N
223	L01UG	3層	16.6	14.3	3.1	0.33	Ba3	A
224	L01NA	3層	20.4	18.4	3.5	0.83	Bb0	N
225	K06GS	2層	27.6	23.9	4.3	1.54	Bb0	N
226	K06DO	2層	20.2	15.6	3.2	0.73	Bc0	N
227	K06OY	3層	18.8	18.2	2.6	0.78	Bc0	N
228	L01TI	3層	25.8	16.1	3.8	1.00	Bc0	N
229	K06FT	3層	17.8	19.0	4.3	0.88	Ca0	N
230	K06GV	2層	24.4	15.9	2.8	0.64	Ca0	N
231	K06NX	3層	18.2	17.6	3.0	0.58	Ca0	N
232	K05LW	3層	25.8	11.0	2.5	0.56	Ca0	N
233	K05FU	2層	18.7	20.1	2.9	0.88	Da4	N
234	K06IV	2層	15.8	16.5	2.8	0.61	Da4	N
235	K06W	3層	17.5	16.7	3.1	0.82	Da4	N
236	K05KW	3層	14.2	14.3	3.1	0.61	Da4	N
237	K05KW	2層	17.7	15.4	3.7	0.83	Da4	N
238	K06NW	3層	19.4	18.0	3.9	1.15	Da4	N
239	K06OY	3層	13.9	15.4	3.3	0.51	Da4	N
240	L01KA	2層	16.0	16.2	3.0	0.89	Da4	N
241	L01LA	2層	17.8	17.2	4.3	1.12	Da4	N
242	L01LA	2層	14.3	14.7	3.2	0.63	Da4	N
243	L01LA	2層	20.3	18.9	5.2	1.3	Da4	N
244	L01NA	2層	20.1	18.1	4.4	1.64	Da4	N
245	L01OA	2層	18.5	15.9	3.1	0.64	Da4	N
246	L01PB	3層	13.0	12.8	2.6	0.3	Da4	N
247	L01QC	3層	10.9	13.3	2.8	0.26	Da4	A
248	L01RF	3層	19.5	17.6	3.1	0.75	Da4	N
249	K05FU	2層	19.3	15.8	3.7	0.88	Da4	N
250	L01MA	2層	26.8	22.5	4.4	2.06	Da4	N
251	K06IV	2層	17.2	18.0	3.3	1.0	Db1	N
252	K05KW	3層	16.9	12.9	3.5	0.71	Db1	N
253	K06MY	3層	18.2	13.9	3.0	0.61	Db1	N
254	K06NX	3層	14.6	16.8	3.0	0.68	Db1	N
255	K06OY	2層	17.2	13.9	3.3	0.56	Db1	N
256	K06OY	3層	23.5	19.7	3.3	1.16	Db1	N
257	L01NA	2層	18.9	16.2	2.6	0.82	Db1	N
258	L01NA	3層	22.2	18.7	3.2	1.14	Db1	N
259	L01OA	3層	15.4	11.7	3.1	0.42	Db1	N
260	L01OB	2層	19.9	16.9	3.4	1.0	Db1	N
261	L01SD	3層	16.6	12.3	2.4	0.33	Db1	N
262	K05FQ	2層	23.1	14.5	4.5	1.25	De1	N
263	K05GV	2層	17.5	10.7	2.7	0.37	De1	N
264	K05HV	2層	21.1	12.8	3.1	0.91	De1	N
265	K05MV	2層	17.7	12.0	2.7	0.41	De1	N
266	L01RG	3層	20.7	12.0	2.8	0.50	De1	N
267	K05MW	2層	25.4	18.9	3.6	1.35	De1	N
268	L01NA	2層	25.3	14.6	7.9	2.29	De1	N
269	L01OA	2層	22.6	16.6	4.1	1.13	De1	N
270	L01OA	3層	28.2	15.0	2.4	0.98	De1	N
271	K06ET	2層	31.4	17.3	6.1	3.20	De1	N
272	K05HT	2層	20.4	14.6	4.5	1.48	De1	A
273	K06NX	3層	29.0	14.7	2.2	0.90	De1	N
274	K06OY	2層	19.5	15.8	4.4	1.49	De1	N
275	L01PA	2層	22.7	15.5	4.5	1.69	De1	N
276	K05LY	2層	18.8	16.3	3.5	0.70	Ea4	N
277	K05LY	2層	14.2	13.0	2.6	0.32	Ea4	N
278	K06MX	2層	16.8	16.2	3.8	0.83	Ea4	N
279	K06MY	3層	16.2	14.1	2.9	0.41	Ea4	N
280	K06NY	2層	18.0	16.3	3.2	0.68	Ea4	N

山ノ内遺跡B出土 石鏃観察表(2)

(単位: mm, g)

遺物番号	地区	遺層 層位	長さ	幅	厚さ	重量	形 態	備考
281	K06OY	3層	17.8	15.5	3.0	0.57	Ea4	N
282	L01VK	3層	14.6	13.7	2.8	0.38	Ea4	N
283	L01QE	3層	17.2	16.7	4.6	0.81	Ea4	N
284	K06LY	2層	19.4	14.0	3.1	0.54	Eb4	N
285	K06MX	2層	30.8	16.6	3.4	0.82	Eb4	N
286	K06MY	2層	15.7	12.6	2.1	0.36	Eb4	N
287	K06NX	3層	21.5	16.7	2.6	0.80	Eb4	N
288	K06OY	3層	16.3	16.5	3.5	0.68	Eb4	N
289	L01LA	2層	18.8	15.0	4.0	0.91	Eb4	N
290	L01NA	3層	15.1	11.4	2.5	0.28	Eb4	N
291	L01TF	3層	13.7	12.0	2.6	0.26	Eb4	N
292	L01OB	2層	17.1	15.0	3.4	0.69	Eb4	N
293	K06IW	3層	30.6	10.8	2.7	0.47	Ea4	N
294	K06MY	3層	19.7	12.8	3.4	0.78	Ea4	N
295	K06OY	3層	18.7	12.0	3.3	0.52	Ea4	N
296	K06KX	2層	30.1	21.7	3.5	1.01	Eb4	N
297	L01PB	3層	20.1	19.3	3.8	0.90	Eb4	N
298	K06FS	2層	24.1	16.4	4.4	1.28	Ea4	N
299	K06HV	2層	26.2	18.7	3.2	1.2	Ea4	N
300	L01PB	3層	27.8	15.0	3.5	1.09	Ea4	N
301	K06GT	2層	14.0	15.8	2.8	0.45	Fa4	N
302	K06IX	2層	14.1	16.0	3.2	0.5	Fa4	N
303	K06NX	3層	15.5	13.6	2.6	0.39	Fa4	N
304	K06OY	2層	16.8	15.8	3.0	0.66	Fa4	N
305	L01OA	3層	19.0	17.3	3.1	0.86	Fa4	N
306	L01VK	3層	27.6	23.1	6.0	2.75	Fa4	N
307	K06LW	3層	16.6	13.5	2.7	0.53	Fa4	N
308	L01OA	2層	16.8	18.1	3.3	0.73	Fa4	N
309	K06IT	2層	21.6	17.5	3.3	0.82	Fb4	N
310	K06HU	2層	18.1	15.8	3.2	0.64	Fb4	N
311	K06KX	2層	18.1	15.5	3.5	0.66	Fb4	N
312	L01JA	2層	20.2	17.4	2.9	0.66	Fb4	N
313	L01JA	2層	20.6	22.0	4.8	1.35	Fc4	N
314	L01NA	3層	16.1	14.9	3.8	0.66	Fc4	N
315	L01KA	6層	20.8	18.8	3.8	1.03	D3	N
316	K06EN	2層	22.5	16.5	4.5	0.94	Fc4	N
317	K06GT	2層	25.2	17.2	4.2	1.11	Fc4	N
318	K06LY	2層	24.1	18.3	3.5	1.06	Fc4	N
319	L01NA	2層	17.7	10.8	3.3	0.42	Fc4	N
320	L01PC	3層	20.8	12.5	2.5	0.49	Fc4	N
321	K06LX	2層	13.0	12.9	2.4	0.44	Ga5	N
322	K06MW	3層	19.1	17.7	3.3	0.82	Ga5	N
323	K06MX	3層	21.0	18.7	4.8	1.67	Ga5	N
324	L01MA	2層	16.8	15.9	4.1	1.17	Ga5	N
325	K06KY	2層	21.0	23.1	6.1	2.98	Ga5	N
326	K06KX	2層	27.3	23.1	7.3	4.15	Ga5	N
327	L01OA	3層	25.2	25.1	7.3	3.38	Ga5	N
328	L01PA	2層	33.1	26.4	8.5	7.39	Ga5	N
329	K06FP	2層	28.0	18.9	4.4	2.02	Gb5	N
330	L01QE	3層	20.0	16.6	2.8	0.8	Gb5	N
331	K06MX	2層	18.2	13.2	2.9	0.65	Gc5	N
332	K06NX	3層	22.5	14.8	4.5	1.37	Gc5	N
333	K06NX	3層	22.7	15.3	2.6	0.94	Gc5	N
334	L01PB	3層	23.9	15.9	4.7	1.68	Gc5	N
335	L01UH	3層	26.3	20.8	5.1	3.03	Gc5	N
336	K06JX	2層	16.6	12.9	3.3	0.65	Gc5	N
337	K06GV	2層	21.3	20.1	4.6	1.67	Ha5	N
338	K06HV	2層	20.5	19.8	3.8	1.46	Ha5	N
339	K06LY	2層	19.9	17.8	2.8	0.87	Ha5	N
340	L01PB	2層	15.8	16.8	3.8	0.78	Hb5	N
341	L01OD	2層	26.9	18.4	6.0	2.65	Hc5	N
342	K06KX	2層	22.5	20.9	4.1	1.24	Ia5	N
343	L01MA	3層	30.8	17.1	3.5	0.77	Ib5	N
344	L01QF	3層	22.3	15.8	3.6	1.03	Ic5	N
345	K06GV	3層	22.5	21.8	5.2	3.39	Ja6	N
346	K06KW	3層	16.8	6.9	3.4	0.85	Ja6	N
347	K06KY	2層	16.6	16.0	2.3	0.65	Ja6	N
348	L01KA	2層	16.5	17.2	3.9	0.96	Ja6	N
349	K06NX	3層	18.0	25.3	4.5	0.87	Ja6	N
350	L01PA	3層	31.5	24.5	5.3	2.14	Ja6	N
351	L21-JA	銅鏃	28.5	25.8	6.0	4.33	Ja6	N
352	L01NB	3層	17.7	14.6	2.7	0.66	Jb6	N
353	L01JA	2層	15.8	12.0	3.7	0.64	Jb6	N
354	L01MA	2層	21.2	16.8	2.7	1.06	Jb6	N
355	K06EO	2層	32.2	20.9	7.8	7.57	Ja8	N
356	L01PB	2層	31.4	25.7	7.4	5.77	Ja8	N
357	L01PA	3層	36.5	18.3	5.3	2.42	Ja8	N
358	L01UH	3層	28.6	16.1	6.0	1.85	Ja8	N
359	K06JV	2層	33.6	22.4	6.0	4.73	Ja8	N
360	L01OA	2層	16.6	15.2	2.8	0.77	Ka6	N

山ノ内遺跡B出土 石鏃観察表(3)

(単位: mm, g)

遺物番号	地区	遺層位	長さ	幅	厚さ	重さ	形状	備考	遺物番号	地区	遺層位	長さ	幅	厚さ	重さ	形状	備考
361	K05FS	2層	16.1	15.7	3.4	0.46	Ka6	N	385	K05JW	2層	29.7	22.1	6.8	3.66	Ne7	N
362	K06NX	3層	19.3	15.3	3.1	0.82	Kb6	N	386	L04QD	3層	30.6	21.8	7.5	4.17	Ne7	N
363	K08TU	2層	22.4	18.5	3.8	1.40	Kb6	N	387	K03DQ	40	19.3	18.3	4.1	1.53	Oe7	N
364	K08GS	2層	27.3	22.0	4.6	2.14	Kb6	N	388	K08NX	2層	25.0	18.3	3.8	1.31	Oc10	N
365	K06NW	2層	22.8	19.0	4.7	1.59	Lb6	N	389	K05DQ	2層	25.6	10.3	3.3	0.88	Pe7	N
366	K06NX	3層	18.4	17.8	4.0	1.01	Lb6	N	390	K05GV	2層	30.9	20.2	7.3	4.54	Iv7	N
367	L04PC	3層	17.6	17.2	2.0	1.49	Ma1	N	391	K06NX	3層	26.3	20.6	5.8	3.21	Pe7	N
368	K08KW	2層	19.6	15.2	2.9	0.81	Mb1	N	392	K08MX	3層	32.7	23.9	6.2	4.64	Pe7	A
369	K08LW	3層	18.8	15.0	3.2	0.67	Mb1	N	393	L04OA	3層	27.2	17.7	5.0	2.29	Pe7	N
370	K08LY	2層	18.6	15.6	2.9	0.61	Mb1	N	394	L04BD	3層	22.8	14.3	5.4	1.95	Pe7	N
371	K08OY	2層	17.9	15.2	2.5	0.46	Mb1	N	395	L04SF	2層	34.1	15.6	5.2	2.72	Pe7	N
372	K06JX	3層	23.1	16.2	3.2	0.81	Mb1	A	396	G25YN	667	46.4	17.8	5.3	3.87	Pe7	N
373	K06MX	3層	20.8	23.2	2.7	1.24	Mb1	N	397	K08IR	2層	22.8	16.1	3.6	1.35	Pe8	N
374	L04TK	3層	25.6	13.4	2.0	0.54	Me2	N	398	K06GW	2層	26.5	12.1	7.4	2.43	Pe8	N
375	L04QE	3層	17.1	12.7	2.2	0.44	Me1	N	399	K06JW	2層	26.7	9.3	2.2	0.64	Iv8	N
376	K08KW	3層	22.5	16.5	3.4	1.04	Me1	N	400	L04LU	2層	31.3	13.7	5.8	1.67	Pe9	N
377	K08KX	2層	18.7	13.3	2.0	0.58	Me1	N	401	K05BQ	2層	26.8	11.5	3.3	1.06	Pe8	N
378	K08LX	2層	21.5	13.7	2.6	0.30	Me1	N	402	G25YN	667	31.0	13.8	4.0	1.76	Pe8	N
379	L04OB	2層	20.2	12.8	3.0	0.72	Me1	N	403	K06GT	2層	31.2	13.1	3.8	1.7	Pe8	N
380	K05FS	2層	27.3	19.8	4.7	1.64	Me1	N	404	K06FV	3層	37.1	19.2	4.6	2.64	Pe10	N
381	K06LY	2層	23.7	15.2	3.7	1.04	Me1	N	405	K08HT	2層	22.9	10.3	5.5	1.06	Pe9	N
382	K06NY	3層	13.8	15.1	3.3	0.82	Me1	N	406	K08HU	2層	24.6	9.8	4.9	1.23	Pe9	N
383	K06GO	2層	22.0	14.4	3.4	0.83	Me5	N	407	K08ET	2層	19.8	12.0	2.9	0.80	Iv9	N
384	K08JW	2層	18.3	13.0	2.3	0.48	Me5	N	408	K06MW	3層	27.8	20.6	3.4	1.73	Pe10	N

第4表 山ノ内遺跡B出土 各種石器観察表

石 槍

(単位: cm, g)

遺物番号	地区	遺物層位	長さ	幅	厚さ	重量
409	K05LU	2層	6.4	2.5	1.9	21.36
410	表様		6.1	3.6	0.8	8.90
411	K06FT	3層	3.5	2.6	1.4	18.75
412	K05JY	2層	3.2	2.4	0.7	5.33
413	K05JW	2層	4.2	2.8	1.1	13.01

スクレイパー

(単位: cm, g)

遺物番号	地区	遺物層位	長さ	幅	厚さ	重量
422	L06EO	2層	3.1	4.7	0.6	8.79
423	K05KX	2層	1.9	5.9	0.9	11.00
424	L01TJ	2層	3.2	7.4	1.1	38.19
425	K05GP	2層	3.3	6.3	0.8	30.96
426	K05GV	3層	3.8	6.6	0.7	20.72
427	K05JY	3層	4.9	6.7	1.4	47.31
428	L01LA	2層	3.6	7.4	0.9	31.03
429	K05KY	3層	4.7	6.9	1.0	35.35
430	L01PC	2層	4.5	12.1	2.0	101.25
431	L01RE	3層	4.5	6.8	1.1	38.00
432	L01UI	2層	4.3	5.1	0.8	19.99
433	L01PE	3層	3.7	7.4	1.6	48.63
434	K05IW	309砂)	4.9	4.8	0.8	20.97
435	K05LN	2層	5.2	4.4	0.9	23.85
436	K05RR	2層	6.2	5.4	1.3	51.84
437	L01RG	3層	5.6	3.0	0.9	22.40
438	K05DR	3層	8.3	6.4	1.7	92.70
439	K05JY	2層	4.9	3.3	0.7	11.72

ドリル

(単位: cm, g)

遺物番号	地区	遺物層位	長さ	幅	厚さ	重量
414	L01QD	3層	4.6	3.6	1.1	0.98
415	L01OB	2層	2.8	1.2	0.4	1.29
416	L01QB	3層	3.4	1.7	0.5	3.37
417	L01SP	3層	3.2	1.9	0.8	2.49
418	L01TH	2層	3.4	2.2	1.0	5.85
419	L01QE	3層	3.0	0.8	0.3	1.10
420	K05CR	2層	2.8	1.4	0.6	1.90
421	K05KX	001	3.0	2.1	0.8	4.90

第5表 山ノ内遺跡B出土 石核 観察表

(単位: cm, g)

遺物番号	地区	遺物層位	長さ	幅	厚さ	重量
451	K06IX	2層	40.9	72.9	23.2	70.06
454	K05KU	2層	58.1	70.8	34.7	133.19
455	K05NY	2層	71.8	38.5	24.8	30.43
456	L01PB	2層	63.3	48.5	25.3	69.10
457	L01QC	3層	33.6	68.8	45.8	125.35
458	L01QE	3層	42.1	25.8	14.7	13.85
459	L01VG	3層	55.9	45.5	28.1	79.94
470	L06CN	3層	48.5	55.2	39.1	93.53
471	L06	2層	44.9	36.5	30.5	65.89
472	L01VJ	2層	66.4	68.2	32.7	131.51
473	K05MY	2層	94.2	67.6	38.6	187.40
474	L01WH	1097	75.2	61.2	38.6	161.77
475	L01PD	3層	41.6	38.6	12.5	29.39
476	L01PE	2層	26.3	45.3	16.4	25.77
477	L01UH	3層	37.5	39.8	16.6	22.14

遺物番号	地区	遺物層位	長さ	幅	厚さ	重量
478	L01UK	3層	39.3	49.2	17.1	21.86
479	L01LA	3層	53.1	68.6	24.6	90.52
480	L01PD	3層	71.0	58.9	21.2	75.44
481	L01PC	3層	44.5	67.1	29.5	75.44
482	L01PE	2層	74.6	44.8	31.2	99.79
483	L01QE	2層	44.6	58.0	29.1	82.77
484	L01RD	2層	71.6	64.1	20.2	84.36
485	L01QE	3層	73.2	54.9	16.9	66.28
486	L01WK	2層	56.8	86.2	19.9	86.38
487	砂土		51.6	76.9	20.4	86.12
488	L01UK	3層	95.2	76.5	24.5	135.75
489	L01PC	3層	98.1	108.5	41.2	598.27
490	K05NX	3層	113.0	95.2	25.8	239.64
491	L01UH	3層	77.2	58.4	45.4	182.13

第6表 山ノ内遺跡B出土石器観察表

石 斧

(単位: ㎝, ㌘)

遺物番号	地区	層位 遺構	長さ	幅	厚さ	重量
527	KOSLY	3層	102.5	44.1	29.8	133.06
528	KOBFN	3層	89.0	44.0	26.2	145.43
529	KOSKY	2層	63.8	27.0	25.1	31.59
530	KOSLU	2層	82.5	45.9	27.5	184.25
531	LOIPC	2層	47.7	42.9	15.4	36.64
532	LOITI	3層	63.4	49.2	15.2	39.78
533	LOIQE	—	52.8	35.2	11.0	33.75
534	KOSOX	3層	47.1	34.8	11.0	25.89

砥 石

遺物番号	地区	層位 遺構	長さ	幅	厚さ	重量
535	KOBNX	2層	100.9	29.9	18.4	82.92

石 錘

遺物番号	地区	層位 遺構	長さ	幅	厚さ	重量
536	KOGKW	2層	57.4	41.8	15.3	48.30
537	KOSFP	3層	84.1	33.4	14.8	60.01
538	LOIMA	3層	69.0	99.4	17.2	181.66
539	KOSIX	—	117.8	54.4	34.9	334.81
540	LOILA	2層	59.8	50.2	46.6	303.05

ハンマー

遺物番号	地区	層位 遺構	長さ	幅	厚さ	重量
541	KOSES	3層	74.9	22.5	14.7	50.41
542	LOIPA	—	46.6	36.8	28.1	53.97
543	KOSNY	—	49.1	32.5	30.1	92.26

叩き石

遺物番号	地区	層位 遺構	長さ	幅	厚さ	重量
544	KOSJX	3層	91.6	78.2	49.6	443.49
545	LOIRE	3層	75.6	44.7	52.3	290.42
546	KOSKX	3層	100.8	54.0	31.3	263.30
547	KOSIV	2層	115.1	98.3	44.8	764.92
548	LOIRE	3層	85.9	63.4	38.1	305.32
549	KOSIV	2層	108.2	99.1	24.1	287.90
550	KOSLV	2層	104.5	91.9	56.3	811.16
551	KOSNX	2層	105.4	82.0	49.1	610.78
552	KOSIV	2層	148.0	97.4	37.3	832.34
553	KOSJY	3層	111.0	73.8	55.4	674.40
554	KOSOY	3層	97.4	59.9	32.3	261.74
555	KOSLY	3層	115.3	70.1	49.7	581.47
556	KOSJY	3層	102.5	66.2	49.5	460.7
557	LOIKA	3層	106.5	80.1	46.9	594.06
558	LOIQE	3層	98.2	65.3	36.3	410.36
559	LOI東	表段	121.5	100.2	83.0	1326.15

台 石

遺物番号	地区	層位 遺構	長さ	幅	厚さ	重量
560	KOSGX	2層	96.8	85.6	51.5	694.18
561	KOSLU	2層	107.3	80.7	50.9	853.66

第7表 山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(1)

(地区名の数字: 2=1・2層 3層、重量: g)

地区	石 器		彫形石器		石 槌		フレイク		チップ		土 器		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	重量	重量	点数	重量	
不明	2	68	2	62.43	65	550.96	15	477.77	588	2368.48	492.09	3272	4662
	2	2.23	--	--	--	--	1	16.57	--	--	34.15	276	1142
G25Y12	1	0.35	1	5.08	--	--	--	2	11.80	--	--	1	6
G25Y12	3	6.16	1	2.75	--	--	--	7	21.61	6.88	91	371	
G25Y02	--	--	--	--	--	--	--	1	2.05	--	--	26	111
K05AM2	1	0.71	3	21.43	1	41.54	22	83.70	12.73	156	422		
K05AN2	3	--	--	--	--	--	11	42.71	7.67	96	238		
	3	--	--	--	1	21.89	--	--	--	--	--		
K05AO2	--	--	--	--	--	--	9	33.36	--	4	15	53	
K05AP2	--	--	--	--	--	--	--	--	0.73	--	--	--	
K05AQ2	3	--	--	--	--	--	4	6.08	4.45	5	14		
	3	--	--	--	--	--	1	6.19	1.99	13	30		
K05R12	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	17	31	
K05B12	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	121	217	
K05B12	--	--	1	3.75	--	--	--	--	--	--	16	15	
K05RO2	--	--	--	--	--	--	--	--	0.31	2	12		
K05BP2	3	--	--	--	--	--	6	12.13	4.37	88	369		
	3	--	--	--	--	--	7	11.19	--	--	--		
K05BQ2	1	1.25	4	25.31	1	92.21	15	45.91	14.43	220	1281		
	3	--	--	--	--	--	2	1.92	0.58	47	245		
K05BR2	--	--	1	12.36	--	--	5	32.60	0.60	1	36		
K05CO2	3	--	2	14.09	1	45.28	14	45.31	--	26	80		
	3	--	--	--	--	--	5	148.85	--	10	65		
K05CP2	3	10.32	4	42.17	--	--	23	141.90	13.28	14	108		
K05CQ2	1	1.33	6	83.62	--	--	21	86.11	15.68	25	125		
	3	--	--	--	--	--	2	4.32	--	2	125		
K05CR2	2	6.12	4	22.90	2	90.59	9	40.55	14.30	23	218		
K05CS2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	2	10		
K05DN2	1	0.94	2	23.44	--	--	7	22.29	5.32	30	13		
	3	--	--	--	--	--	2	6.40	--	4	10		
K05DO2	3	3.51	4	44.47	3	276.83	30	143.54	32.18	41	142		
	3	--	--	--	1	14.96	6	42.21	3.95	15	27		
K05DP2	1	1.04	3	25.45	--	--	21	103.81	6.00	90	323		
	3	--	1	6.10	--	--	--	--	--	13	30		
K05DQ2	4	4.57	13	147.49	1	32.03	33	118.55	42.22	91	317		
	3	1.95	1	7.38	--	--	3	6.20	1.11	4	35		
K05DR2	3	2.65	4	84.54	--	--	33	105.12	25.66	34	229		
	3	--	1	8.79	1	21.55	3	21.15	--	66	353		
K05DS2	1	2.53	3	17.32	1	169.61	14	62.38	--	69	259		
	3	--	--	--	--	--	1	5.35	--	4	20		
K05DT2	1	1.49	--	--	--	--	1	6.16	1.25	7	32		
K05EN2	3	--	5	63.58	2	78.73	18	96.05	2.62	51	156		
	3	--	--	--	--	--	2	6.29	--	20	83		
K05EO2	2	8.25	6	32.96	2	35.80	46	183.63	29.33	103	367		
	3	--	1	5.06	--	--	4	5.11	3.21	35	154		
K05EP2	2	12.86	10	71.69	--	--	24	66.18	43.12	111	371		
	3	--	1	4.55	--	--	7	73.06	1.89	45	204		
K05EQ2	5	6.55	4	57.81	--	--	61	254.16	27.61	100	382		
	3	--	3	130.01	--	--	7	30.21	2.52	11	26		
K05ER2	2	1.11	5	85.66	4	85.33	22	74.25	20.42	35	131		
	3	--	1	36.52	--	--	3	13.53	--	15	74		

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(2)

(地区名の後の数字: 2-1, 2層 3-3層, 重量: g)

地区	石 器		割形石器		石 槌		フリヤタ		チャップ		土 器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
K05E32	3	5.38	6	45.83	3	44.89	15	54.96	15	15.16	132	517
3							1	2.10	19	0.81	19	77
K05E72	5	6.79	11	77.19	1	49.51	35	99.77	37	31.31	49	274
3							2	5.01	9		9	44
K05EU2	1	1.40	3	62.10			5	14.71	6	6.65	3	36
3			1	4.33			5	15.30	6	0.53	16	97
K05FN2							5	12.92			2	11
3												37
K05FO2	3	1.31	5	49.22	1	36.61	15	40.57	5	5.17	18	79
3							1	27.40			1	5
K05FP2	2	3.75	1	6.35	2	90.86	43	169.91	29	29.59	76	251
3							5	25.76	2	2.62	16	37
K05FQ2	9	7.96	5	30.85	1	25.29	33	133.76	23	1.30	96	380
3			2	35.77			6	32.32	5		5	49
K05FR2	2	3.37	5	45.50	1	33.87	21	80.33	12	3.35	36	161
3							1	2.03	2	2.26	205	63
K05FS2	4	4.52	9	65.25			20	108.03	21	21.89	21	158
3							2	7.39	2	0.42	18	23
K05FT2	6	4.79	3	35.75			62	246.68	60	60.51	100	330
3			2	13.29	1	17.80	7	36.58	8	0.83	42	274
K05FU2	3	3.69	18	142.80	2	46.48	148	503.51	86	55.42	432	1687
3			1	55.42	1	19.00	33	211.66	7	7.63	152	602
K05FV2	3	5.15	5	38.77			23	117.27	22	22.37	60	248
3			6	44.37			10	37.50	3	3.16	31	77
K05G02	1	0.83					5	50.21	8	8.71	1	10
K05GP2	1	0.60	2	6.07	1	15.84	17	73.70	9	9.18	28	92
3			3	30.32			7	76.25	3	3.52	32	303
K05GQ2	1	2.33	5	46.36	3	82.10	13	48.66	11	11.40	82	335
3			1	8.53	1	22.14	14	108.57			11	55
K05GR2	3	3.08	1	2.67	2	84.75	23	88.41	10	10.32	38	158
3							2	12.41	2	0.56	138	100
K05GS2	3	5.90	4	47.36	1	78.24	25	131.95	25	25.18	64	198
3			1	8.13			1	10.24			25	129
K05GT2	3	7.86	8	86.87	3	41.68	50	305.96	40	40.82	102	353
3			2	38.92			6	126.07	6	0.92	44	187
K05GU2	8	11.72	26	174.49	5	67.06	145	577.25	88	63.20	300	702
3			2	18.48	2	27.96	40	196.12	13	13.64	200	942
K05GV2	15	17.61	28	338.47	2	156.35	156	651.96	134	134.43	613	1570
3			15	122.05	9	280.12	87	306.52	31	31.27	118	646
K05GW2	3	4.39	6	76.22	1	32.18	32	90.28	35	35.89	86	454
3			1	12.66			7	36.09	3	3.71	35	148
K05HP2							2	7.30	3	3.53	4	21
K05HQ2	2	3.04	2	39.04			12	36.59	21	21.73	2	106
3							1	1.33	1	1.17	16	96
K05HR2	2	2.63	4	37.61			28	103.85	14	14.51	61	273
3							6	42.38	1	1.37	22	90
K05HS2	5	6.73	2	13.90			31	163.32	17	17.23	58	222
3							2	5.68	2	2.92	85	209
K05HT2	8	9.20	11	98.00			55	232.52	27	27.16	125	559
3							2	9.10	3	3.00	42	97
K05HU2	12	14.16	9	48.50	3	123.96	92	316.70	86	86.05	169	623
3			4	51.40			19	86.34	11	11.01	100	315
K05HV2	30	30.00	27	351.91			245	751.45	254	254.60	647	1756
3			7	112.61	1	55.11	80	315.02	85	85.86	213	969
K05HW2	8	7.02	11	163.79			88	291.33	113	113.36	432	1514
3			11	472.25	4	73.89	137	752.86	133	133.56	392	2004

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(3)

(地区名の後の数字: 2=1, 3層 3=3層, 単位: g)

地区	石 器		彫形石器		石 核		フレイク		ケツブ		土 器		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	重量	重量	点数	重量	
K05HX2	2	4.06	4	25.88	--	--	35	286.77	10.56	40	281		
K05IQ2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	1	3		
K05IR2	--	--	1	23.70	--	--	14	87.26	8.75	17	72		
K05IS2	2	1.70	--	--	1	13.74	32	117.17	11.25	22	105		
K05IT2	3	2.29	12	87.42	4	96.72	54	340.55	36.49	419	769		
K05IU2	17	40.63	38	216.77	2	67.86	108	406.03	92.19	160	331		
K05IV2	3	0.96	3	32.41	--	--	19	64.06	8.00	100	179		
K05J2	3	7.35	--	--	4	338.74	105	309.45	83.47	354	1068		
K05W2	3	25.96	26	230.81	6	206.73	198	718.35	152.05	734	3016		
K05X2	12	9.93	17	118.67	4	139.11	155	626.01	119.46	1417	3707		
K05Y2	11	14.96	8	271.39	1	22.93	113	515.18	58.30	767	4002		
K05V2	3	5.79	3	21.32	1	24.73	52	134.12	19.37	390	2940		
K05S2	3	--	2	12.53	--	--	13	73.59	11.48	78	650		
K05J2	3	0.82	3	56.67	--	--	15	75.54	6.99	21	130		
K05J2	3	--	8	55.88	--	--	41	137.63	25.33	67	337		
K05J2	3	--	--	--	--	--	1	4.07	--	12	36		
K05J2	3	1	0.49	11	73.64	3	36.11	39	176.56	31.44	96	297	
K05J2	3	--	--	--	--	--	--	--	1.17	18	98		
K05J2	3	11	18.27	38	226.43	3	37.31	167	792.43	194.37	223	812	
K05J2	3	--	1	4.76	--	--	167	87.01	1.67	88	393		
K05J2	3	22	29.67	59	620.95	5	140.99	302	1275.37	221.62	1168	2735	
K05J2	3	3	1.24	2	11.67	--	--	12	126.62	42.14	525	1331	
K05J2	3	13	13.88	29	272.57	8	197.37	300	992.24	96.81	1380	3325	
K05J2	3	36	38.30	14	198.79	6	272.51	273	1036.62	231.66	3418	9999	
K05J2	3	16	12.44	5	62.72	3	106.64	129	519.08	67.66	992	6173	
K05J2	3	30	25.33	7	45.81	2	60.95	255	1017.46	188.82	1794	7625	
K05K2	2	2.73	6	33.90	--	--	33	132.73	29.49	27	130		
K05K2	3	1	0.34	10	60.65	1	133.10	54	289.02	21.91	270	983	
K05K2	3	1	0.36	--	--	--	--	--	--	10	60		
K05K2	3	11	14.16	47	314.17	3	53.62	205	789.69	206.22	629	1342	
K05K2	3	11	10.15	13	91.48	3	51.93	96	276.50	171.94	216	436	
K05K2	3	29	37.01	63	538.71	7	239.73	317	1279.63	267.01	3556	9657	
K05K2	3	23	22.85	40	221.33	5	119.45	179	539.62	251.34	1248	3285	
K05K2	3	25	36.92	50	496.08	12	433.68	203	895.36	191.50	1647	7123	
K05K2	3	18	16.59	23	201.16	7	219.60	259	1119.47	325.47	1949	4950	
K05K2	3	10	11.38	16	202.88	7	297.14	144	660.32	78.12	2964	9488	
K05K2	3	81	72.26	19	159.30	5	192.82	300	1116.26	2190.52	14924	31028	
K05LU2	3	8	8.21	7	38.84	--	--	51	164.33	35.18	108	325	
K05LU2	3	3	--	--	--	--	--	9	27.91	7.70	49	80	
K05LV2	3	1	0.97	7	41.90	8	222.67	54	228.64	59.21	137	467	
K05LV2	3	3	1.74	4	22.47	1	8.82	32	120.37	43.55	131	501	
K05LW2	3	7	11.07	97	282.58	5	226.79	116	577.51	67.72	1754	2917	
K05LW2	3	20	15.75	7	60.62	--	--	89	307.45	239.29	2653	4959	
K05LX2	3	8	12.16	45	300.79	6	167.08	270	1282.06	136.45	1334	5127	
K05LX2	3	16	22.30	3	13.33	4	127.77	176	861.91	110.00	2140	10229	
K05LY2	3	30	19.76	38	374.27	15	444.06	262	1399.32	185.07	896	3333	
K05LY2	3	13	14.90	18	163.68	5	189.66	210	698.51	112.15	2266	6392	
K05NU2	3	--	--	--	--	--	--	4	11.33	--	42	113	
K05NU2	3	--	--	--	--	--	--	4	11.33	7.23	--	--	

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(4)

(地区名の後の数字: 2=1, 2層 3=3層, 重量:g)

地区	石 器		磨製石器		石 槌		フシイタ		チャップ		土 器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
K05MV2	3	2.54	6	29.11	2	30.21	40	116.96	13.28	38	145	
	3	3.09	—	—	—	—	4	30.06	2.65	7	3	
K05MW2	3	4.58	13	107.82	—	—	88	116.65	45.69	325	855	
	3	8.45	6	35.55	1	26.13	64	335.14	80.27	160	371	
K05MX2	16	18.54	38	902.02	1	17.26	233	1006.78	145.69	1327	4242	
	3	24.25	19	153.50	2	42.57	158	969.83	473.63	3925	10777	
K05MY2	23	29.56	53	116.43	19	908.49	296	1330.67	190.92	1028	3526	
	3	9.44	15	117.02	5	83.89	172	320.61	213.63	7381	7918	
K05NW2	7	9.47	7	48.35	1	32.19	38	213.09	29.78	296	884	
	3	8.68	11	63.74	2	30.47	60	176.82	54.44	—	—	
K05NX2	17	15.40	31	283.91	4	304.91	208	906.13	181.58	2645	6009	
	3	—	47	292.39	12	257.18	472	1543.85	655.00	1577	3144	
K05NY2	17	18.80	36	352.97	17	880.43	292	1213.45	253.88	1604	5342	
	3	40.52	55	533.53	5	137.84	389	1206.06	361.71	2890	8621	
K05OX2	8	9.80	13	77.03	5	121.21	61	187.22	85.71	528	1156	
	3	19.24	11	108.35	8	109.64	86	330.66	95.41	719	530	
K05OY2	6	17.16	15	416.86	3	81.53	216	1074.41	176.57	2292	9061	
	3	101	86.65	64	494.00	11	214.33	729	2325.97	964.96	3571	5121
K05PY2	5	3.90	6	31.71	—	—	36	196.78	13.36	551	1540	
	3	7	6.53	12	89.93	2	32.78	23	227.95	183.01	308	511
K06SO3	—	—	—	—	1	17.85	—	—	—	—	—	
L01JA2	4	6.91	5	59.80	—	—	50	196.37	54.46	1331	3384	
	3	2.95	4	15.87	—	—	46	115.51	51.63	723	2973	
L01KA2	12	19.38	23	544.78	4	144.29	118	541.66	68.41	584	3049	
	3	14	12.38	9	72.41	3	60.61	113	521.47	88.34	1661	10655
L01KB2	2	1.44	4	37.02	—	—	11	62.00	8.72	51	408	
	3	—	—	—	—	—	5	21.82	2.20	26	105	
L01LA2	19	29.87	35	543.06	6	147.19	148	804.82	194.33	2110	7089	
	3	9	11.22	5	47.95	6	381.35	91	427.44	482.91	716	5820
L01LB2	2	3.43	6	45.95	3	183.15	39	142.60	28.47	254	1201	
	3	8	8.66	9	80.91	3	77.58	101	327.68	47.53	762	3012
L01LC2	—	—	1	39.73	—	—	12	117.06	4.44	153	89	
L01MA2	21	20.91	33	381.48	19	815.27	319	1421.58	196.61	1132	3633	
	3	26	32.09	14	129.51	2	29.80	150	555.50	79.33	3696	39036
L01MB2	2	1.99	8	70.37	2	72.86	52	266.27	30.80	219	1282	
	3	2	1.76	54	31.12	—	—	15	37.38	16.50	114	508
L01MC2	—	—	5	74.81	—	—	31	151.54	19.53	31	187	
	3	2	1.56	—	—	—	6	16.49	3.08	30	301	
L01MD2	1	6.65	1	16.43	—	—	10	30.57	—	31	134	
L01NA2	14	31.07	61	323.71	12	450.52	374	1705.29	419.73	648	2462	
	3	24	21.15	16	184.41	1	21.01	210	725.88	219.16	1568	4723
L01NB2	4	4.61	15	218.45	2	190.90	60	454.63	37.45	167	1110	
	3	1	0.66	2	7.37	—	—	16	87.73	21.66	79	256
L01NC2	—	—	2	32.05	1	37.55	17	92.72	39.68	49	299	
	3	1	0.76	—	—	—	6	16.57	7.48	31	109	
L01ND2	1	1.00	2	8.74	—	—	2	9.32	7.83	45	421	
	3	—	—	—	—	—	—	4.00	—	4	30	
L01NE2	—	—	1	14.60	—	—	—	—	—	13	45	
L01OA2	15	12.38	—	—	4	115.74	292	1574.37	139.81	1916	4348	
	3	—	35	351.00	12	254.37	685	2016.64	2749.41	14003	22401	
L01OB2	20	21.81	50	877.67	5	199.36	264	1442.38	155.96	590	2701	
	3	—	11	122.34	5	193.36	90	329.61	278.61	2173	4129	
L01OC2	2	29.36	10	83.31	8	228.40	51	421.85	35.72	467	3181	
	3	10	7.27	6	63.76	3	82.30	103	288.70	86.77	644	4599

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(5)

(地区名の後の数字: 2=1, 3層 3=3層, 重量:g)

地区	石 器		陶形石器		石 核		フリテ		チャップ		土 器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	重量	点数	重量	
L01OD2 3	4 3	7.87 3.12	11 2	115.53 8.58	5 -	243.34 -	43 39	207.77 153.86	18.95 25.64	223 307	26.65 2876	
L01OE2 3	-	-	3	50.29	2	110.96	18 5	83.22 26.29	7.97	62	347	
L01OF2 3	-	-	-	-	1	62.70	7	31.13	0.66	17	131 215	
L01PA2 3	23 42	30.58 43.81	76 38	684.80 362.50	9 8	264.68 216.91	367 344	1679.60 1148.53	225.29 500.75	3835 1158	9457 3373	
L01PB2 3	48 137	62.54 118.68	61 68	718.52 430.98	10 13	623.26 363.55	462 872	2117.55 2349.42	330.76 2775.38	5338 10700	15187 23022	
L01PC2 3	22 25	28.53 29.58	49 32	406.12 239.37	14 11	772.24 675.55	289 349	3002.89 1117.84	198.41 394.56	3272 2079	10466 14860	
L01PD2 3	7 38	8.86 30.16	23 32	391.51 146.96	12 4	455.26 163.63	178 262	1194.46 976.43	77.40 167.86	1254 1233	8364 3689	
L01PE2 3	3 9	7.89 10.26	27 10	228.79 60.04	6 3	262.06 52.12	91 148	457.44 467.40	50.66 88.97	685 962	2624 4066	
L01PF2 3	4 2	5.50 1.52	2 2	11.09 26.74	2 -	107.24 -	56 46	336.38 210.42	41.88 29.44	28 171	210 821	
L01PG2 -	-	-	9	77.21	2	65.73	24	175.27	7.16	87	962	
L01QA2 3	2 2	1.23 1.79	3 10	60.58 114.74	1 1	26.75 8.72	15 111	80.96 304.61	9.86 100.11	173 -	638 -	
L01QB2 3	23 19	31.86 21.73	58 51	368.96 275.50	6 7	133.29 170.86	253 213	1071.23 748.71	254.70 394.27	1586 1106	5428 3322	
L01QC2 3	12 32	12.22 32.84	36 50	306.37 272.96	7 8	351.97 277.86	261 317	1141.82 1001.32	154.27 494.02	2129 1985	6254 5351	
L01QD2 3	14 60	22.19 57.96	49 79	394.58 355.64	5 20	318.71 518.53	310 635	1270.18 2166.36	205.64 832.56	2467 2730	9214 9830	
L01QE2 3	18 36	23.39 44.41	40 66	330.19 472.11	9 17	410.09 486.06	208 532	1121.98 1775.55	114.77 619.21	1829 1304	6554 4956	
L01QF2 3	7 26	7.24 40.58	22 22	217.14 168.88	7 7	330.09 369.42	108 356	647.99 1188.95	78.74 273.31	941 859	3126 2332	
L01QG2 3	3 7	4.53 4.68	15 -	263.59 -	3 -	212.10 -	68 38	397.15 72.35	20.49 29.61	143 117	820 1943	
L01QH2 1	1	6.52	2	5.39	4	178.28	21	172.87	20.54	26	186	
L01KB2 3	1 5	0.87 4.61	-	-	-	-	-	4 16	8.45 40.42	3.81 36.07	46 -	
L01RC2 3	7 18	9.78 14.09	12 19	67.84 130.77	4 4	90.81 70.79	63 120	345.54 344.02	52.33 175.75	403 470	1255 1345	
L01RD2 3	11 81	12.56 75.66	62 49	462.41 288.36	15 7	647.37 116.41	257 562	1089.05 1974.30	181.60 858.38	2790 749	7486 2620	
L01RE2 3	20 27	23.87 31.66	41 31	321.98 265.77	6 8	272.18 210.85	406 489	1037.09 1650.41	236.54 336.39	1938 1189	6286 3033	
L01RF2 3	11 69	19.28 62.68	27 77	310.69 379.38	13 6	467.61 150.85	223 906	1174.36 1978.55	123.68 688.64	2211 1181	6895 2689	
L01RG2 3	6 19	8.75 16.80	25 16	274.84 129.57	4 7	161.17 136.25	106 182	615.71 537.64	49.98 197.11	139 1224	859 4619	
L01RH2 3	-	-	-	-	3	-	-	-	1.47	21	119	
L01RJ2 3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	
L01RI2 3	-	-	-	-	-	-	4	14.43	0.38	12	66	
L01RJ2 2	2	4.41	19	155.37	5	115.52	22	120.66	3.18	25	137	
L01SC2 2	-	0.43	1	3.21	-	25.72	7	32.39	7.29	20	108	
L01SD2 3	11 7	10.06 6.82	29 11	229.84 85.33	1 -	61.50 -	172 100	642.42 359.00	102.66 133.49	1112 276	3627 887	

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(6)

(地区名の後の数字: 2=1, 3層 3=3層, 重量: g)

地区	石 器		彫刻石器		石 槌		フリイク		チップ		土 器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	重量	重量	点数	重量
L01SE2 3	7 32	8.82 36.11	13 36	147.12 161.67	4 10	155.49 145.36	138 264	649.61 1060.35	94.70 260.24	3271 607	6680 1773	
L01SF2 3	13 13	16.05 9.79	27 10	206.64 101.37	7 -	176.88 -	151 124	573.78 521.99	119.09 300.31	884 687	3231 2469	
L01SG2 3	- -	- -	1 4	14.39 22.55	- -	- -	6 17	34.30 62.54	2.30 2.17	37 64	122 217	
L01SH2 3	- -	- -	1 -	15.64 -	- -	- -	4 -	12.61 -	3.96 -	- 14	- 20	
L01SI2 3	6 -	7.68 0.72	10 4	89.25 21.42	2 -	28.58 115.12	74 14	341.82 15.29	35.22 3.89	24 54	303 163	
L01SJ2 3	5 -	9.62 0.72	21 6	224.64 81.54	2 -	78.26 30.63	87 29	495.40 114.63	43.21 9.08	91 12	268 163	
L01SK2 3	- -	- -	1 -	14.73 -	- -	- -	11 2	37.77 5.22	1.64 -	27 -	115 49	
L01TD2 3	1 -	4.90 -	1 -	11.36 -	- -	- -	1 2	6.35 6.80	4.06 -	30 -	139 -	
L01TE2 3	1 7	0.73 7.31	7 -	108.67 51.11	- -	- 84.25	38 63	196.81 229.59	31.84 86.84	183 217	920 306	
L01TF2 3	1 4	0.98 2.77	- -	- -	1 -	35.69 -	5 7	36.58 39.53	12.99 5.06	124 1010	156 2272	
L01TG2 3	- 2	- 1.16	- -	- -	- -	- -	1 34	5.35 97.58	- 22.07	- 61	- 191	
L01TH2 3	1 37	1.94 30.88	12 13	94.32 121.26	1 6	14.53 119.62	69 231	331.48 776.71	35.65 172.41	76 513	290 1933	
L01TI2 3	1 46	1.01 39.30	9 38	77.47 340.26	10 10	17.31 382.86	61 601	521.57 2211.61	8.25 383.95	47 3659	418 13277	
L01TJ2 3	6 7	4.52 22.12	19 3	160.09 19.27	4 5	78.33 221.63	121 76	592.06 314.61	27.00 17.71	147 1218	356 7477	
L01TK2 3	4 34	12.30 37.15	13 22	106.89 201.06	2 6	38.36 97.21	103 313	485.14 1098.63	26.78 223.24	292 1853	377 5001	
L01TL2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4 29	
L01UG2 3	1 8	0.47 6.23	5 3	29.70 33.94	- 1	- 9.00	29 91	187.96 312.96	6.74 -	13 228	56 206	
L01UH2 3	1 27	1.50 31.34	11 25	111.72 389.38	1 7	13.15 316.73	101 386	414.22 1147.29	28.45 284.17	51 1265	335 4111	
L01UI2 3	6 1	11.92 1.38	15 2	145.70 21.36	1 5	50.21 129.44	68 20	261.98 125.39	16.32 0.56	121 26	538 338	
L01UJ2 3	4 -	3.32 -	11 3	135.26 20.38	1 1	12.18 35.60	161 23	777.45 167.00	56.01 11.91	96 159	388 1123	
L01UK2 3	4 -	3.77 -	32 4	355.52 53.21	9 2	264.02 160.21	115 23	474.99 155.87	53.87 10.80	96 102	417 1018	
L01UL2 3	1 1	0.73 1.90	7 2	60.06 15.44	2 4	68.25 91.25	17 32	83.91 163.96	11.59 8.22	31 116	43 1141	
L01UM2	-	-	2	9.96	-	-	9	52.66	-	4	33	
L01VG2 3	- -	- -	6 2	55.95 29.49	2 2	46.89 100.18	33 31	180.32 142.85	11.83 1.29	20 252	139 228	
L01VH2 3	1 3	2.89 0.54	5 3	38.02 143.22	3 -	105.05 -	39 15	207.02 58.79	18.12 4.57	33 17	900 44	
L01VI2 3	1 -	1.84 -	7 1	64.36 36.12	1 -	37.39 -	16 9	72.42 36.10	3.64 -	13 13	105 100	
L01VJ2 3	5 1	4.49 0.43	16 5	196.33 76.52	6 2	356.82 31.54	27 21	117.97 161.97	2.24 0.03	30 15	137 152	
L01VK2 3	5 31	7.25 28.96	12 32	186.35 615.29	7 8	351.78 387.19	86 368	423.20 1646.27	25.69 297.59	60 330	494 1138	
L01VL2 3	1 -	1.25 -	14 3	142.42 74.38	1 4	11.26 143.56	73 39	375.10 137.10	18.71 4.88	11 39	114 243	

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(7)

(地区名の後の数字：2=1, 2層 3=3層、重量：g)

地名	石 器		磨製石器		石 柱		フシク		ナツブ		土 器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
L01VM2 3	3	2.16 3.59	3	24.74 136.79	2	— 41.74	32	184.96 273.42	0.86	—	445	1363
L01WH2 3	—	—	1	10.09	4	202.56 14.94	19	106.51 92.03	3.49 4.28	—	85 19	62 89
L01W12 3	—	—	—	—	1	12.25 27.31	6	12.42 15.31	—	2.49	4	20 8
L01W22 3	2	3.69	—	—	1	—	20	79.80 118.80	9.09 3.43	—	10 31	61 145
L01WK2 3	4	8.44	9	82.37 68.85	4	170.83 18.69	50	205.81 109.81	25.64 0.81	—	12 7	73 58
L01WL2 3	3	2.77	7	79.36 14.68	3	105.13 19.54	44	212.53 61.65	15.37 1.17	—	43	302 21
L01WM2 3	—	—	1	3.45	—	—	9	94.28 105.90	—	—	12 5	86 39
L01WN2 3	—	—	3	38.99	6	330.22	41	203.84 29.98	14.53	—	4	67 25
L01X12 3	—	—	1	2.47 3.13	—	—	2	2.89	—	0.02	1	9
L01X22 3	—	—	1	11.21	—	—	4	14.91 19.40	2.30	—	453 5	1267 35
L01XK2 3	—	—	8	104.74	4	80.36	29	145.82 22.66	4.28 0.44	—	6 3	58 15
L01XL2 3	—	—	4	30.94	—	—	28	100.22 11.67	0.38 0.71	—	14	99
L01XM2 3	1	0.90	—	—	—	—	1	100.22 11.67	0.38 0.71	—	—	—
L01XN2 3	—	—	2	10.86 6.78	2	9.60 36.10	13	2.61 42.50	4.77 15.76	—	11 30	68 161
L01XO2 3	—	—	2	21.37	—	—	12	76.86	5.50	—	5	132
L01XQ2 3	—	—	—	—	1	21.85	3	9.79 28.41	2.31 2.81	—	1 2	1 5
L01Y13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	205
L01Y22 3	—	—	—	—	1	98.37	9	—	47.37	0.82 3.63	—	—
L01YK2 3	3	6.07	1	35.74 5.73	2	56.27	4	27.29 3.53	2.67 1.69	—	5 2	15 30
L01YL2 3	1	0.52	1	3.89	—	—	2	11.74 36.37	—	—	6 1	22 10
L01YM2 3	—	—	2	12.86 48.62	1	6.09	4	48.91	4.69	—	4 1	31 9
L01YN2 3	—	—	2	22.45	2	54.61 66.90	25	153.62 6.98	2.38 1.09	—	8 1	50 10
L01YO2	—	—	4	30.78	2	167.88	12	93.25	5.88	—	18	126
L01YP2	1	0.52	1	10.37	—	—	17	120.31	—	—	4	4
L06AK2 3	—	—	3	33.34 45.92	1	19.67	9	71.29 5.80	—	—	6	77
L06AL2 3	1	3.52	1	13.76	—	—	4	20.28 3.33	—	—	—	—
L06AM2 3	—	—	—	—	2	42.43 13.90	5	25.43 6.03	—	—	7	58
L06AN2 3	—	—	—	—	—	—	2	13.32 9.35	0.80	—	11	42 1
L06AO2	—	—	—	—	1	26.70	4	24.15	0.96	—	6	40
L06AP2	2	0.81	4	33.47	—	—	13	62.72	3.80	—	16	30
L06AQ2	—	—	—	—	1	43.76	8	47.96	0.71	—	6	32

山ノ内遺跡B出土石器・土器地区別一覧表(8)

(地区名の後の数字: 2=1, 2層 3=3層, 重量: g)

地区名	石 器		陶器石器		石 器		フレイク		チップ		土 器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
L06AR2	--	--	--	--	--	--	1	2.49	--	--	1	1
L06BL2	--	--	1	13.90	--	--	3	11.10	1.64	--	6	67
L06BM2	--	--	1	6.16	--	--	6	36.44	1.83	--	1	4077
L06BN2	--	--	3	32.21	--	--	6	66.45	--	--	2	30
L06BO2	--	--	1	13.00	2	54.41	6	69.57	1.03	1	1	6
L06BP2	--	--	--	--	1	91.90	5	16.86	--	--	4	3
L06BQ2	1	0.57	--	--	2	62.50	8	20.32	1.81	15	107	
L06BR2	--	--	1	2.08	--	--	3	31.87	1.65	301	90	
L06CM2	--	--	2	37.06	1	35.12	3	14.54	3.90	10	62	
L06CN2	--	--	1	19.54	--	--	2	20.74	2.86	7	33	
L06CO2	--	--	--	--	1	93.03	1	3.38	--	1	<1	
L06CQ2	--	--	--	--	1	16.29	1	7.36	--	13	163	
L06CP2	--	--	--	--	--	--	3	58.94	2.90	3	21	
L06CQ2	--	--	--	--	--	--	7	56.00	--	7	101	
L06CR2	1	1.76	--	--	--	--	--	--	4.14	7	37	
L06CS2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	4	28	
L06DN2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	2	6	
L06DO2	--	--	1	13.48	--	--	3	14.49	--	10	60	
L06DP2	--	--	--	--	1	17.96	--	--	0.83	10	75	
L06DQ2	--	--	--	--	--	--	3	25.65	--	1	2	
L06DR2	1	0.99	1	11.54	--	--	2	5.73	--	4	83	
L06DS2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	4	21	
L06EO2	--	--	--	--	--	--	2	20.46	0.10	2	8	
L06EP2	--	--	--	--	--	--	5	20.96	--	--	--	
L06EQ2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
L06ER2	1	0.41	2	45.92	--	--	1	2.42	0.12	6	22	
L06FP2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3	10	
L06FR2	--	--	--	--	--	--	1	18.02	--	1	<1	
L06FS2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3	10	
L06GP2	--	--	--	--	--	--	1	5.02	--	--	--	
L06GQ2	--	--	--	--	--	--	--	--	0.57	1	30	
L06GR2	--	--	1	2.16	--	--	--	--	--	1	12	
L06GS2	--	--	--	--	--	--	1	1.99	--	--	<1	
L06HR2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	1	5	
L06HS2	--	--	1	16.07	--	--	--	--	--	--	--	
L06JR2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3	7	
総計	2	1115	1415.38	2624	34240.75	559	32655.26	15265	70119.07	10275.34	87082	36675
前計	3	1548	1556.11	1523	13089.44	369	11033.42	16079	56220.54	22420.85	118402	35489

第8表 山ノ内遺跡B出土楔形石器地区別一覧表(1)

地区	(地区名の後の数字: 2=1, 2解 3=3解, 重量: g)											
	2-4(cm)		4-6(cm)		6-8(cm)		8-10(cm)		10(cm)以上		合計	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
不明2	56	311.77	8	207.23	1	31.96	-	-	-	-	65	550.96
不明3	-	-	1	35.37	-	-	-	-	-	-	1	35.37
G25YM2	1	5.08	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.08
G25YN2	1	2.75	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2.75
K05AM2	2	10.82	1	10.61	-	-	-	-	-	-	3	21.43
K05BN2	-	-	1	3.75	-	-	-	-	-	-	1	3.75
K05BQ2	4	25.31	-	-	-	-	-	-	-	-	4	25.31
K05BR2	1	12.36	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12.36
K05CO2	1	6.83	1	7.16	-	-	-	-	-	-	2	14.09
K05CP2	-	-	4	43.17	-	-	-	-	-	-	4	43.17
K05CQ2	2	12.51	4	71.11	-	-	-	-	-	-	6	83.62
K05CR2	4	22.82	-	-	-	-	-	-	-	-	4	22.82
K05DN2	1	5.03	1	18.41	-	-	-	-	-	-	2	23.44
K05DO2	3	25.14	1	19.33	-	-	-	-	-	-	4	44.47
K05DP2	2	15.41	1	20.01	-	-	-	-	-	-	3	35.42
3	-	-	1	6.19	-	-	-	-	-	-	1	6.19
K05DQ2	8	46.19	5	101.30	-	-	-	-	-	-	13	147.49
3	-	-	1	7.38	-	-	-	-	-	-	1	7.38
K05DR2	2	17.97	1	20.95	1	45.82	-	-	-	-	4	84.54
3	1	8.79	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8.79
K05DS2	2	6.76	1	10.56	-	-	-	-	-	-	3	17.32
K05EN2	2	7.67	3	55.91	-	-	-	-	-	-	5	63.58
K05EO2	6	52.96	-	-	-	-	-	-	-	-	6	52.96
3	1	5.06	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.06
K05EP2	8	37.99	2	33.70	-	-	-	-	-	-	10	71.69
3	1	4.55	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4.55
K05EQ2	3	39.98	1	36.83	-	-	-	-	-	-	4	76.81
3	1	5.88	-	-	2	94.13	-	-	-	-	3	100.01
K05ER2	2	36.16	3	57.50	-	-	-	-	-	-	5	93.66
3	-	-	1	56.52	-	-	-	-	-	-	1	56.52
K05ES2	5	23.28	1	22.55	-	-	-	-	-	-	6	45.83
K05ET2	10	51.80	1	22.39	-	-	-	-	-	-	11	74.19
K05EU2	1	2.75	2	59.34	-	-	-	-	-	-	3	62.10
3	1	4.33	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4.33
K05FO2	4	32.21	1	14.01	-	-	-	-	-	-	5	46.22
K05FP2	1	6.35	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6.35
K05FQ2	4	21.88	1	8.57	-	-	-	-	-	-	5	30.45
3	1	5.89	1	29.78	-	-	-	-	-	-	2	35.77
K05FR2	5	45.50	-	-	-	-	-	-	-	-	5	45.50
K05FS2	8	54.17	1	11.18	-	-	-	-	-	-	9	65.35
K05FT2	2	19.59	1	16.16	-	-	-	-	-	-	3	35.75
3	2	15.29	-	-	-	-	-	-	-	-	2	15.29
K05FU2	16	116.05	2	24.75	-	-	-	-	-	-	18	140.80
3	2	25.42	-	-	-	-	-	-	-	-	2	25.42
K05FV2	4	33.03	1	5.71	-	-	-	-	-	-	5	38.74
3	5	29.47	1	14.90	-	-	-	-	-	-	6	44.37
K05GP2	2	6.07	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6.07
3	2	6.15	1	24.36	-	-	-	-	-	-	3	30.52
K05GQ2	3	21.78	1	6.77	1	17.71	-	-	-	-	5	46.26
3	1	8.53	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8.53

山ノ内遺跡B出土楔形石器地区別一覧表(2)

(地区名の後の数字: 2-1, 2層 3=3割, 重量: g)

地区	2-4 (m)		4-6 (m)		6-8 (m)		8-10 (m)		10 (m)以上		合計	
	割数	重量	割数	重量	割数	重量	割数	重量	割数	重量	割数	重量
K05G12	1	2.67	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2.67
K05G2	4	47.46	-	-	-	-	-	-	-	-	4	47.46
3	1	8.13	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8.13
K05GT2	6	61.03	2	25.84	-	-	-	-	-	-	8	86.87
3	1	6.25	1	52.67	-	-	-	-	-	-	2	58.92
K05GU2	21	59.25	5	75.24	-	-	-	-	-	-	26	174.49
3	2	18.78	-	-	-	-	-	-	-	-	2	18.78
K05GV2	18	138.10	9	165.45	1	31.91	-	-	-	-	28	335.47
3	11	33.80	4	69.35	-	-	-	-	-	-	15	122.95
K05GW2	5	34.24	1	41.98	-	-	-	-	-	-	6	76.22
3	-	-	1	12.85	-	-	-	-	-	-	1	12.85
K05HQ2	1	7.81	1	31.23	-	-	-	-	-	-	2	39.04
K05HR2	3	27.78	1	9.83	-	-	-	-	-	-	4	37.61
K05HS2	1	6.10	1	7.85	-	-	-	-	-	-	2	13.95
K05HT2	8	53.52	3	45.14	-	-	-	-	-	-	11	98.66
K05HU2	7	31.46	2	14.84	-	-	-	-	-	-	9	46.30
3	1	5.38	3	43.02	-	-	-	-	0	-	4	51.40
K05HV2	22	112.33	5	89.58	-	-	-	-	-	-	27	201.91
3	12	69.40	3	43.24	-	-	-	-	-	-	15	112.64
K05HW2	6	24.99	4	87.29	1	51.51	-	-	-	-	11	163.79
3	19	121.72	10	181.57	3	136.06	-	-	-	-	32	452.35
K05HX2	1	32.88	-	-	-	-	-	-	-	-	1	32.88
K05IR2	-	-	1	33.70	-	-	-	-	-	-	1	33.70
K05IT2	10	50.02	2	31.40	-	-	-	-	-	-	12	87.42
K05IU2	21	138.86	7	87.94	-	-	-	-	-	-	28	216.77
3	-	-	3	32.41	-	-	-	-	-	-	3	32.41
K05IV2	10	108.26	3	42.95	-	-	-	-	-	-	13	151.31
K05IW2	21	122.33	4	75.76	1	82.75	-	-	-	-	26	280.84
3	2	10.57	-	-	-	-	-	-	-	2	10.57	
K05IX2	16	86.29	1	32.38	-	-	-	-	-	-	17	118.67
3	4	36.11	2	80.30	2	164.91	-	-	-	-	8	271.38
K05IY2	3	21.32	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21.32
3	1	4.00	1	8.53	-	-	-	-	-	-	2	12.53
K05JS2	2	12.66	-	-	1	44.01	-	-	-	-	3	56.67
K05JT2	7	46.87	1	9.01	-	-	-	-	-	-	8	55.88
K05JU2	10	63.75	1	10.08	-	-	-	-	-	-	11	73.84
K05JV2	36	293.70	2	22.73	-	-	-	-	-	-	38	316.43
3	1	4.76	-	-	-	-	-	-	-	1	4.76	
K05JW2	46	311.63	13	309.32	-	-	-	-	-	-	59	620.95
3	2	11.67	-	-	-	-	-	-	-	2	11.67	
K05JX2	22	113.51	6	99.96	1	39.10	-	-	-	-	29	272.57
3	10	59.58	3	58.91	1	80.30	-	-	-	-	14	198.79
K05JY2	3	10.05	2	52.67	-	-	-	-	-	-	5	62.72
3	6	22.30	1	13.61	-	-	-	-	-	-	7	45.81
K05KT2	6	33.90	-	-	-	-	-	-	-	-	6	33.90
K05KU2	9	52.08	1	7.97	-	-	-	-	-	-	10	60.05
K05KV2	41	389.18	3	44.98	-	-	-	-	-	-	47	434.17
3	11	67.50	2	23.98	-	-	-	-	-	-	13	91.48
K05KW2	50	253.15	12	206.16	1	68.40	-	-	-	-	63	528.71
3	40	221.33	-	-	-	-	-	-	-	-	40	221.33
K05KX2	40	232.35	9	139.46	1	114.37	-	-	-	-	50	486.18
3	15	86.83	7	81.80	1	58.13	-	-	-	-	23	231.73

山ノ内遺跡B出土楔形石器地区別一覧表(3)

(地区名の後の数字: 2=1, 3層 3=3層, 重量: g)

地区	2-1(cm)		4-6(cm)		6-8(cm)		8-10(cm)		10(cm)以上		合計	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
K05KY2	12	70.42	3	54.01	1	78.45	-	-	-	-	16	202.88
	3	102.59	5	56.71	-	-	-	-	-	-	19	139.30
K05LU2	7	28.84	-	-	-	-	-	-	-	-	7	28.84
K05LV2	6	25.28	1	16.62	-	-	-	-	-	-	7	41.90
	3	9.05	1	13.02	-	-	-	-	-	-	4	22.17
K05LW2	20	121.73	6	95.57	1	65.26	-	-	-	-	27	282.56
	3	25.21	2	34.81	-	-	-	-	-	-	7	90.22
K05LX2	34	234.06	11	156.73	-	-	-	-	-	-	45	390.79
	3	13.33	-	-	-	-	-	-	-	-	3	13.33
K05LY2	29	162.27	5	91.11	1	47.00	1	273.49	-	-	36	374.27
	3	75.72	5	117.96	-	-	-	-	-	-	18	130.68
K05MV2	5	21.92	1	7.19	-	-	-	-	-	-	6	29.11
K05MW2	13	107.82	-	-	-	-	-	-	-	-	13	107.82
	3	26.43	1	0.12	-	-	-	-	-	-	6	35.55
K05NX2	40	277.81	17	258.20	1	66.81	-	-	-	-	58	592.82
	3	92.18	4	61.32	-	-	-	-	-	-	10	153.50
K05MY2	43	296.62	10	131.83	-	-	-	-	-	-	53	428.45
	3	56.72	5	60.30	-	-	-	-	-	-	15	117.02
K05NW2	5	21.66	2	23.69	-	-	-	-	-	-	7	45.35
	3	63.74	-	-	-	-	-	-	-	-	11	63.74
K05NX2	23	137.15	8	126.76	-	-	-	-	-	-	31	263.91
	3	210.21	5	82.18	-	-	-	-	-	-	47	292.39
K05NY2	26	197.86	10	155.11	-	-	-	-	-	-	46	352.97
	3	228.68	10	308.33	1	98.82	-	-	-	-	55	535.53
K05OX2	11	51.83	2	26.19	-	-	-	-	-	-	13	77.93
	3	19.29	5	88.56	-	-	-	-	-	-	11	108.25
K05OY2	41	228.32	11	188.14	-	-	-	-	-	-	52	416.46
	3	331.15	5	121.98	1	41.37	-	-	-	-	64	491.00
K05PY2	6	31.71	-	-	-	-	-	-	-	-	6	31.71
	3	37.22	3	52.71	-	-	-	-	-	-	12	89.53
L01JA2	3	21.66	2	35.14	-	-	-	-	-	-	5	56.80
	3	12.05	1	3.82	-	-	-	-	-	-	4	15.87
L01KA2	17	115.71	4	80.73	1	56.96	1	91.36	-	-	23	344.78
	3	33.09	3	41.32	-	-	-	-	-	-	9	72.41
L01KB2	3	19.18	1	17.84	-	-	-	-	-	-	4	37.02
L01LA2	27	100.50	8	182.56	-	-	-	-	-	-	35	343.06
	3	26.19	1	21.85	-	-	-	-	-	-	4	47.95
L01LB2	5	28.22	1	17.73	-	-	-	-	-	-	6	45.95
	3	43.67	2	27.24	-	-	-	-	-	-	9	80.81
L01LC2	-	-	1	33.73	-	-	-	-	-	-	1	33.73
L01MA2	20	116.60	12	189.13	1	75.45	-	-	-	-	33	381.18
	3	70.85	3	57.96	-	-	-	-	-	-	14	128.51
L01MB2	6	36.05	2	34.22	-	-	-	-	-	-	8	70.27
	3	10.32	1	20.80	-	-	-	-	-	-	5	31.12
L01MC2	1	2.28	4	72.53	-	-	-	-	-	-	5	74.81
L01MD2	1	15.43	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15.43
L01NA2	50	301.01	11	162.79	-	-	-	-	-	-	61	463.74
	3	81.89	3	55.78	1	46.74	-	-	-	-	16	184.41
L01NB2	8	54.22	6	111.65	1	82.58	-	-	-	-	15	248.45
	3	7.57	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7.57
L01NC2	1	5.92	1	26.13	-	-	-	-	-	-	2	32.05
L01ND2	2	8.74	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8.74
L01NE2	-	-	1	14.60	-	-	-	-	-	-	1	14.60